

自動車運送事業に係る交通事故対策検討会報告書(平成29年度)

[第1分冊]

事業用自動車の交通事故統計(平成 28 年版)

平成30年5月

国土交通省自動車局

自動車運送事業に係る交通事故対策検討会

< 目 次 >

1. 事故全体の傾向	1
1-1. 交通事故全体の推移	1
1-2. 自動車事故件数の推移	4
1-3. 自動車事故死者数の推移	8
1-4. 自動車死亡事故件数の推移	12
1-5. 飲酒運転による事業用自動車の交通事故の推移	16
1-6. 業態別運転者年齢層別の交通事故	18
1-7. 業態別危険認知速度別の交通事故	20
1-8. 業態別時間帯別の交通事故	22
1-9. 事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通事故	24
2. バスの事故	26
2-1. 乗合バスの事故	28
2-2. 貸切バスの事故	44
3. タクシーの事故	56
4. トラックの事故	68
5. まとめ	88

附録. 事業用自動車の交通事故統計（平成28年版）

【凡 例】

1. 「交通事故」とは、道路交通法第2条第1項第1号に規定する道路において、車両等及び列車の事故によって起こされた事故で、人の死亡又は負傷を伴うもの（人身事故）をいう。物損事故については計上していない。
2. 「自動車事故」とは、交通事故のうち、自動車及び軽自動車の交通によって起された事故をいう。
3. 「自動車事故」は、「事業用自動車」の事故と、「自家用自動車」の事故に分けられる。うち、「自家用自動車」とは、乗用車（バス、マイクロ、普通乗用車、軽乗用車）及び、貨物車（大型貨物、中型貨物、普通貨物、軽貨物、トレーラー）を合わせたものをいう。
4. 「死亡」（「死者」）とは、交通事故によって、発生から24時間以内に亡くなった場合（人）をいう。
5. 「重傷」（「重傷者」）とは、交通事故によって負傷し、1ヶ月（30日）以上の治療を要する場合（人）をいう。
6. 「軽傷」（「軽傷者」）とは、交通事故によって負傷し、1ヶ月（30日）未満の治療を要する場合（人）をいう。
7. 「負傷」（「負傷者」）とは、「重傷」（「重傷者」）と「軽傷」（「軽傷者」）の合計をいう。
8. 「貨物自動車」の分類は道路交通法に基づくものとする。
大型：車両総重量11トン以上、または最大積載量6.5トン以上
中型：車両総重量5トン以上11トン未満、または最大積載量3トン以上6.5トン未満
普通：車両総重量5トン未満、または最大積載量3トン未満
軽：貨物自動車のうち、軽自動車であるもの

1. 事故全体の傾向

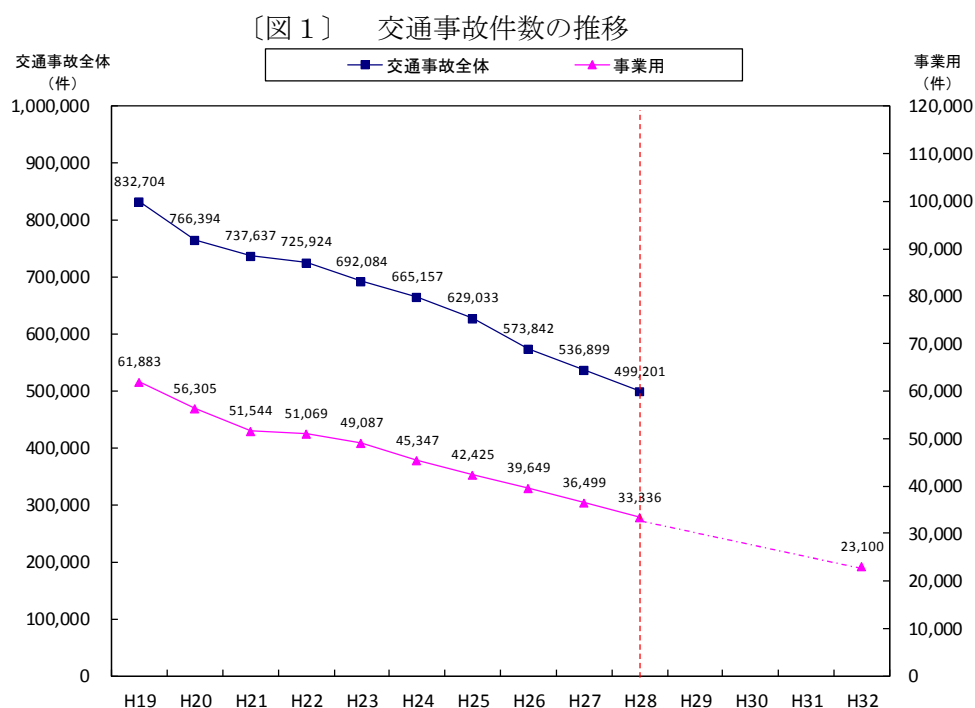
1-1. 交通事故全体の推移

自動車に加え、二輪車や自転車等を含む「交通事故全体」と、「事業用自動車」の交通事故の推移を、「交通事故件数」、「交通事故死者数」、「交通死亡事故件数」の3つで比較した。

(1) 交通事故件数の推移

平成28年中に全国で発生した交通事故全体の件数は499,201件であり、そのうち、事業用自動車は33,336件となった。

なお、事業用自動車については、「事業用自動車総合安全プラン2020（平成29年6月）」において、平成32年までに人身事故件数を23,100件以下とする削減目標が示されている。



出典：警察庁「交通統計」
(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表1〕 交通事故件数の推移 (件)

年	区分	交通事故件数	
		交通事故全体	事業用
H19		832,704	61,883
H20		766,394	56,305
H21		737,637	51,544
H22		725,924	51,069
H23		692,084	49,087
H24		665,157	45,347
H25		629,033	42,425
H26		573,842	39,649
H27		536,899	36,499
H28		499,201	33,336

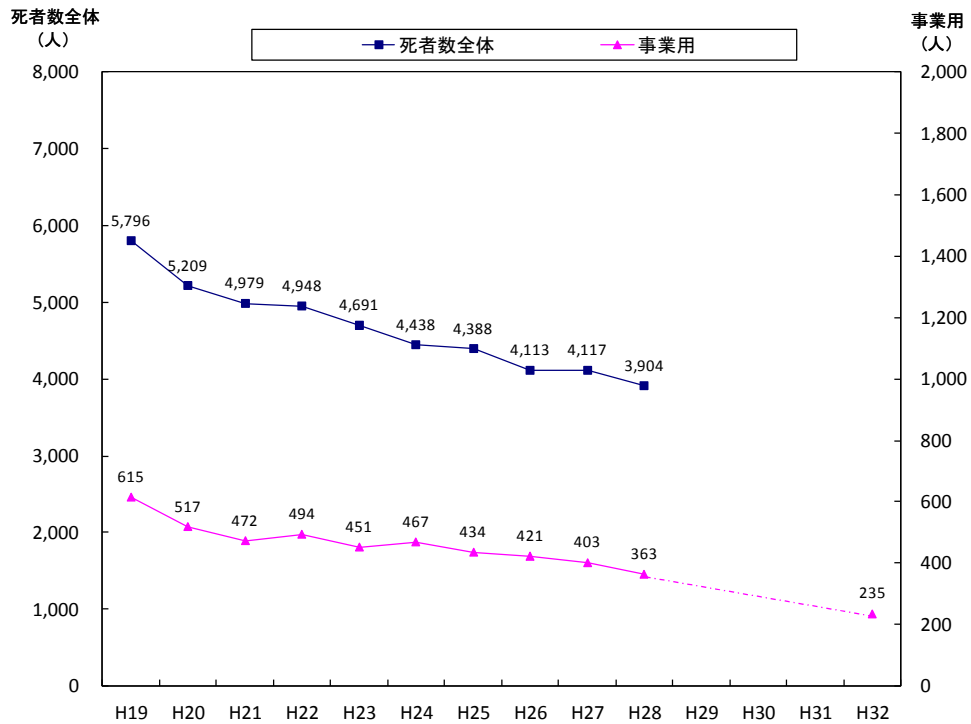
出典：警察庁「交通統計」
(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

（２） 交通事故死者数の推移

平成28年中に全国で発生した交通事故全体における死者数は3,904人であり、そのうち、事業用自動車での交通事故死者数は 363人となっている。

なお、事業用自動車については、「事業用自動車総合安全プラン2020」において、平成32年までに事業用自動車での死者数を235人以下とする削減目標が示されている。

〔図 2〕 交通事故死者数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 2〕 交通事故死者数の推移 (人)

年 \ 区分	死者数	
	死者数全体	事業用
H19	5,796	615
H20	5,209	517
H21	4,979	472
H22	4,948	494
H23	4,691	451
H24	4,438	467
H25	4,388	434
H26	4,113	421
H27	4,117	403
H28	3,904	363

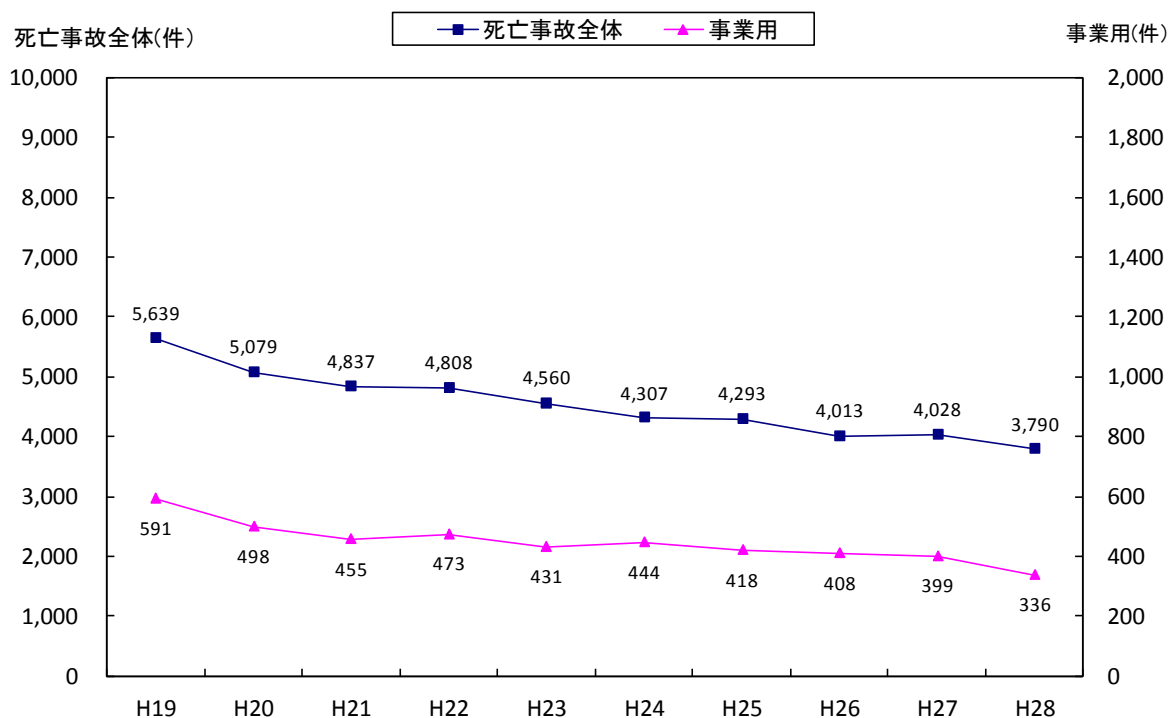
出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) 交通死亡事故件数の推移

平成28年中に全国で発生した交通死亡事故全体の件数は3,790件であり、前年と比べて200件以上減少している。そのうち、事業用自動車は336件となっており、前年と比べて60件以上減少し、減少傾向が続いている。

〔図3〕 交通死亡事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表3〕 交通死亡事故件数の推移（件）

年	区分	死亡事故件数	
		死亡事故全体	事業用
H19		5,639	591
H20		5,079	498
H21		4,837	455
H22		4,808	473
H23		4,560	431
H24		4,307	444
H25		4,293	418
H26		4,013	408
H27		4,028	399
H28		3,790	336

出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

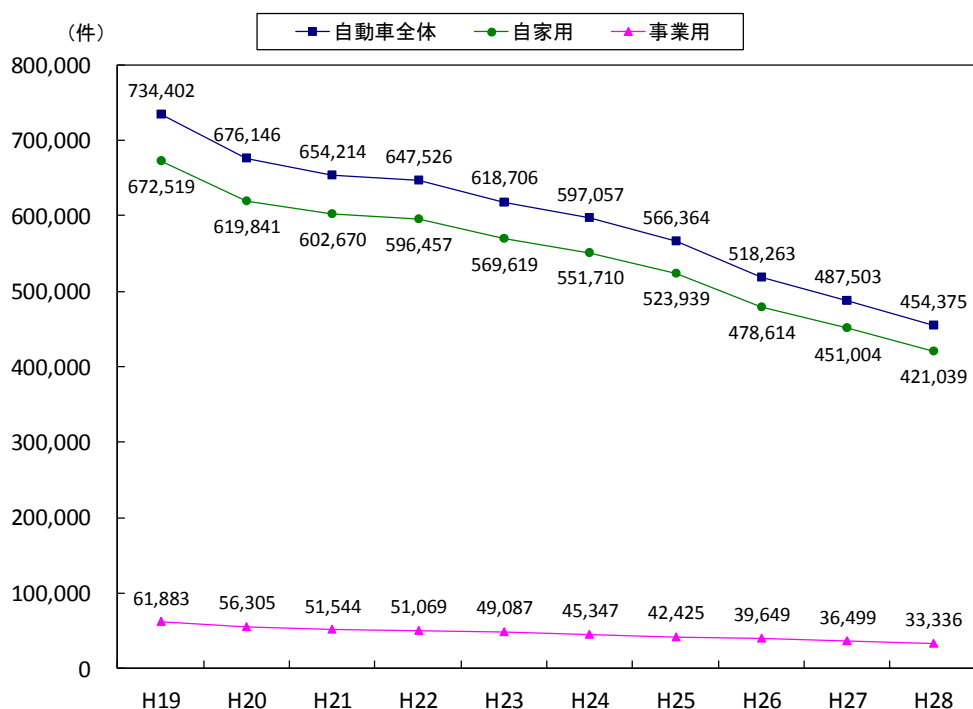
1-2. 自動車事故件数の推移

「事業用自動車」「自家用自動車（自家用のバス、乗用車及びトラックをいう。以下同じ）」及び「自動車全体（事業用自動車と自家用自動車を合わせたものをいう。以下同じ）」について、「交通事故件数」「交通事故死亡者数」「交通死亡事故件数」の3つを比較した。

（1）自動車事故件数の推移

平成28年中に全国で発生した自動車全体の交通事故件数は454,375件であり、そのうち、自家用自動車は421,039件、事業用自動車は33,336件となっている。

〔図4〕 自動車事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」

（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表4〕 自動車事故件数の推移（件）

年	自動車全体	自家用	事業用
H19	734,402	672,519	61,883
H20	676,146	619,841	56,305
H21	654,214	602,670	51,544
H22	647,526	596,457	51,069
H23	618,706	569,619	49,087
H24	597,057	551,710	45,347
H25	566,364	523,939	42,425
H26	518,263	478,614	39,649
H27	487,503	451,004	36,499
H28	454,375	421,039	33,336

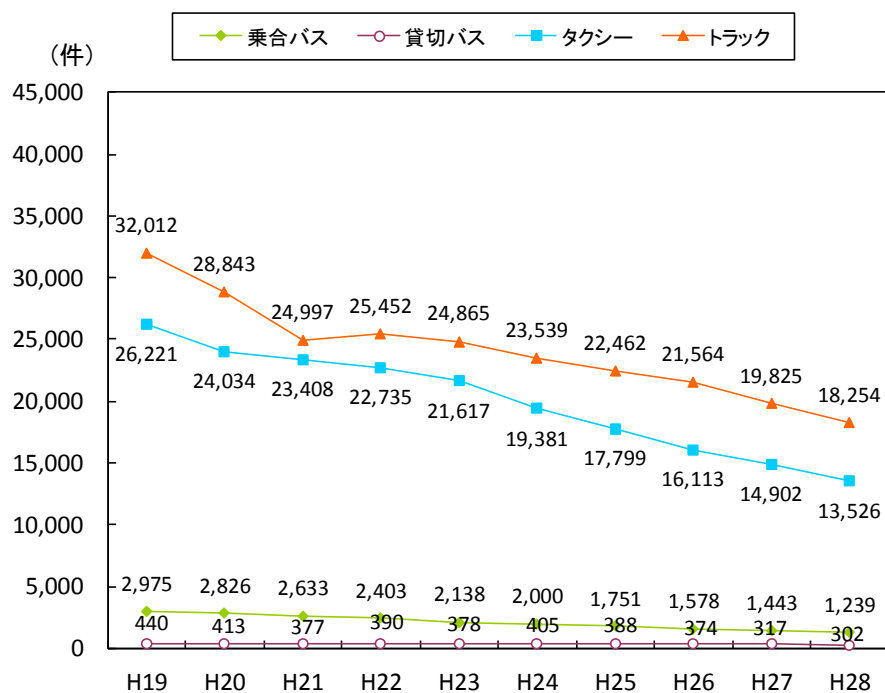
出典：警察庁「交通統計」

（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

（２） 事業用自動車の業態別交通事故件数の推移

事業用自動車の交通事故件数を業態別にみると、平成28年は全業態ともに減少し、乗合バスが約14%減少している。

〔図 5〕 事業用自動車の業態別交通事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 5〕 事業用自動車の業態別交通事故件数の推移（件）

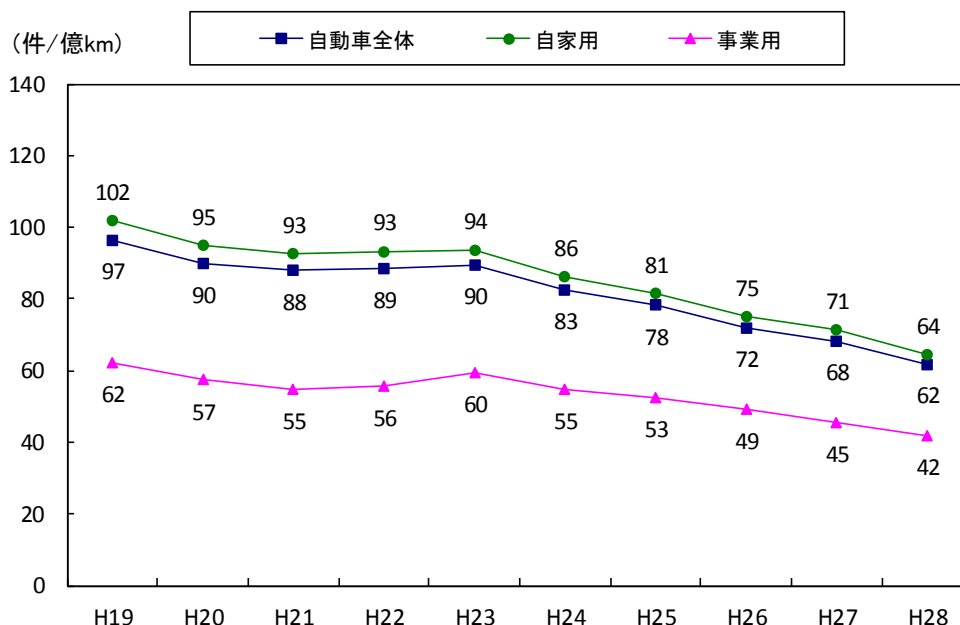
年	バス				タクシー	トラック
	バス	乗合バス	貸切バス	その他		
H19	3,650	2,975	440	235	26,221	32,012
H20	3,428	2,826	413	189	24,034	28,843
H21	3,139	2,633	377	129	23,408	24,997
H22	2,882	2,403	390	89	22,735	25,452
H23	2,605	2,138	378	89	21,617	24,865
H24	2,427	2,000	405	22	19,381	23,539
H25	2,164	1,751	388	25	17,799	22,462
H26	1,972	1,578	374	20	16,113	21,564
H27	1,772	1,443	317	12	14,902	19,825
H28	1,556	1,239	302	15	13,526	18,254

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) 走行距離1億キロあたり自動車事故件数の推移

自動車全体、自家用、事業用いずれも全体的に減少傾向にある。事業用自動車は平成26年に50件／億kmを割り込み、平成28年もさらに減少している。

〔図6〕 走行距離1億キロあたり自動車事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」
 （公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
 国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

〔表6〕 走行距離と自動車事故件数の推移

区分 年	事故件数(件)			走行距離(億km)		
	自動車全体	自家用	事業用	自動車全体	自家用	事業用
H19	734,402	672,519	61,883	7606.8	6613.2	993.6
H20	676,146	619,841	56,305	7519.2	6536.8	982.4
H21	654,214	602,670	51,544	7452.1	6508.9	943.2
H22	647,526	596,457	51,069	7312.0	6394.3	917.7
H23	618,706	569,619	49,087	6909.5	6085.6	823.9
H24	597,057	551,710	45,347	7234.0	6405.5	828.5
H25	566,364	523,939	42,425	7249.1	6441.5	807.6
H26	518,263	478,614	39,649	7200.8	6392.3	808.5
H27	487,503	451,004	36,499	7137.1	6332.4	804.7
H28	454,375	421,039	33,336	7345.8	6548.7	797.1

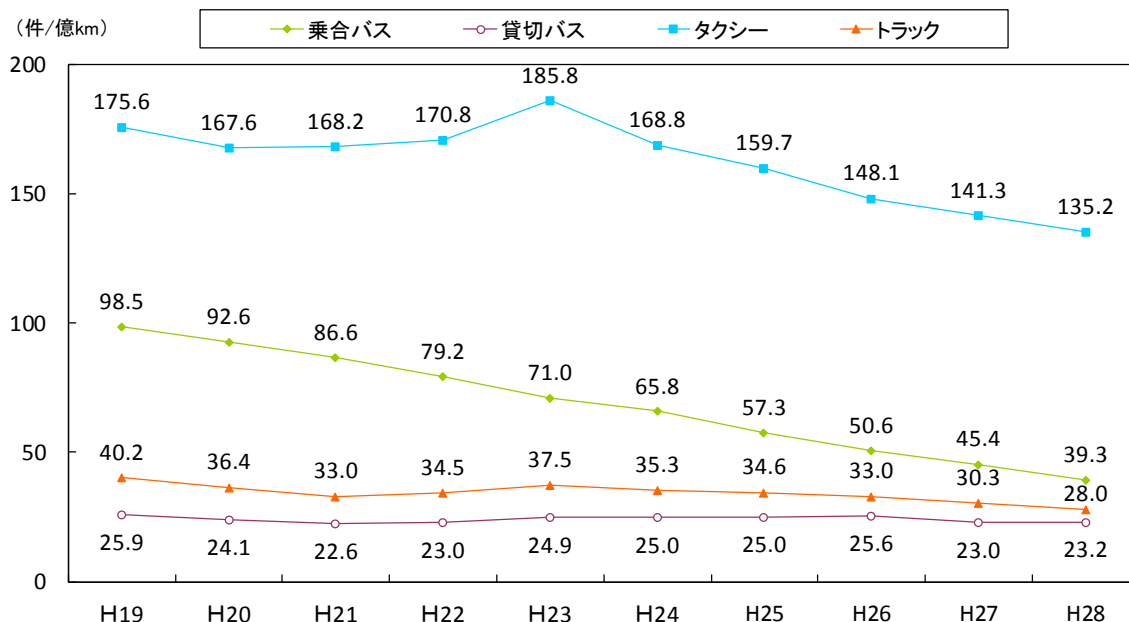
注：走行距離（営業用バスを除く。）の調査については、平成22年より、「自動車輸送統計調査」から、「自動車燃料消費量調査」に移管し、調査方法及び集計方法が変更となっている。このため、平成21年以前の数値とは、時系列上の連続性が担保されない。
 （走行距離に関する統計については、以下同様）

出典：警察庁「交通統計」
 （公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
 国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

(4) 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通事故件数の推移

走行距離あたりの事故件数はタクシーが突出して多いが、近年は減少傾向にある。乗合バスは平成19年より減少し続けており、トラックは緩やかに減少、貸切バスは横ばい傾向となっている。

〔図7〕 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

〔表7〕 事業用自動車の業態別走行距離と交通事故件数の推移

区分 年	事故件数(件)							走行距離(億km)					
	バス				タクシー	トラック	自動車全体	バス			タクシー	トラック	自動車全体
	乗合	貸切	その他					乗合	貸切				
H19	3,650	2,975	440	235	26,221	32,012	734,402	47.2	30.2	17.0	149.3	797.1	7606.8
H20	3,428	2,826	413	189	24,034	28,843	676,146	47.6	30.5	17.1	143.4	791.4	7519.2
H21	3,139	2,633	377	129	23,408	24,997	654,214	47.1	30.4	16.7	139.2	756.9	7452.1
H22	2,882	2,403	390	89	22,735	25,452	647,526	47.3	30.3	16.9	133.1	737.3	7312.0
H23	2,605	2,138	378	89	21,617	24,865	618,706	45.3	30.1	15.2	116.4	662.3	6909.5
H24	2,427	2,000	405	22	19,381	23,539	597,057	46.6	30.4	16.2	114.8	667.0	7234.0
H25	2,164	1,751	388	25	17,799	22,462	566,364	46.0	30.5	15.5	111.4	650.1	7249.1
H26	1,972	1,578	374	20	16,113	21,564	518,263	45.8	31.2	14.6	108.8	653.9	7200.8
H27	1,772	1,443	317	12	14,902	19,825	487,503	45.5	31.8	13.8	105.4	653.7	7137.1
H28	1,556	1,239	302	15	13,526	18,254	454,375	44.5	31.5	13.0	100.1	652.5	7345.8

出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

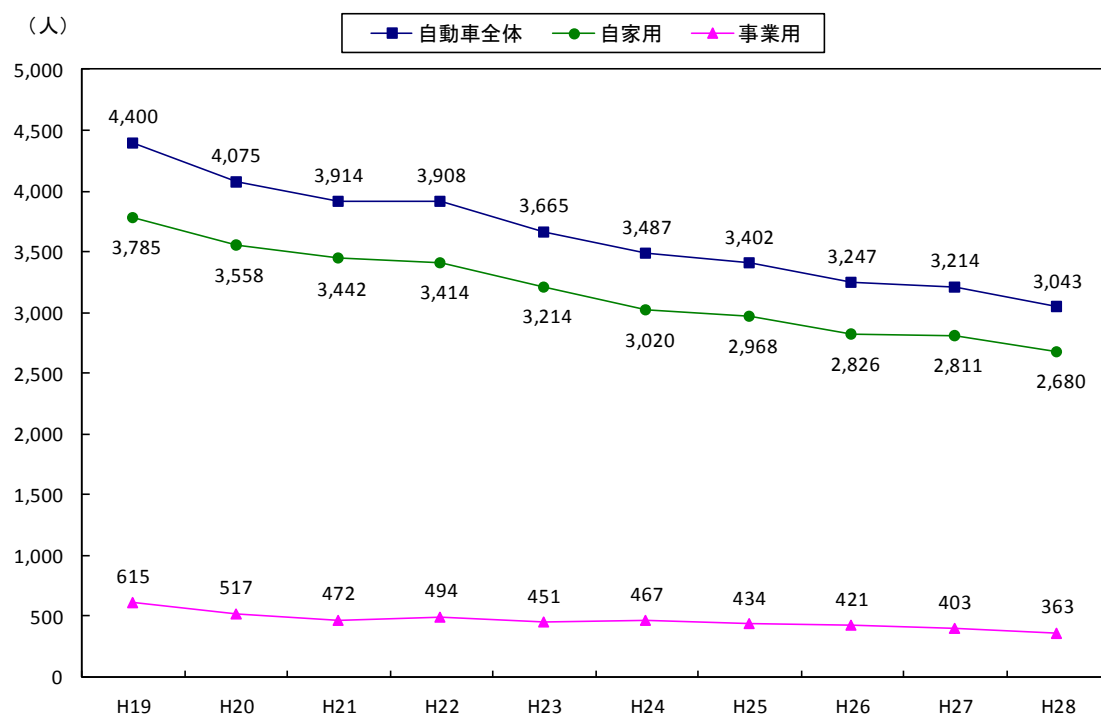
国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

1－3．自動車事故死者数の推移

(1) 自動車事故死者数の推移

平成28年中に全国で発生した自動車全体の交通事故死者数は3,043人であり、そのうち、事業用自動車は363人である。平成28年は前年より40人減少した。

〔図8〕 自動車事故死者数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表8〕 自動車事故死者数の推移（人）

年	自動車全体	自家用	事業用
H19	4,400	3,785	615
H20	4,075	3,558	517
H21	3,914	3,442	472
H22	3,908	3,414	494
H23	3,665	3,214	451
H24	3,487	3,020	467
H25	3,402	2,968	434
H26	3,247	2,826	421
H27	3,214	2,811	403
H28	3,043	2,680	363

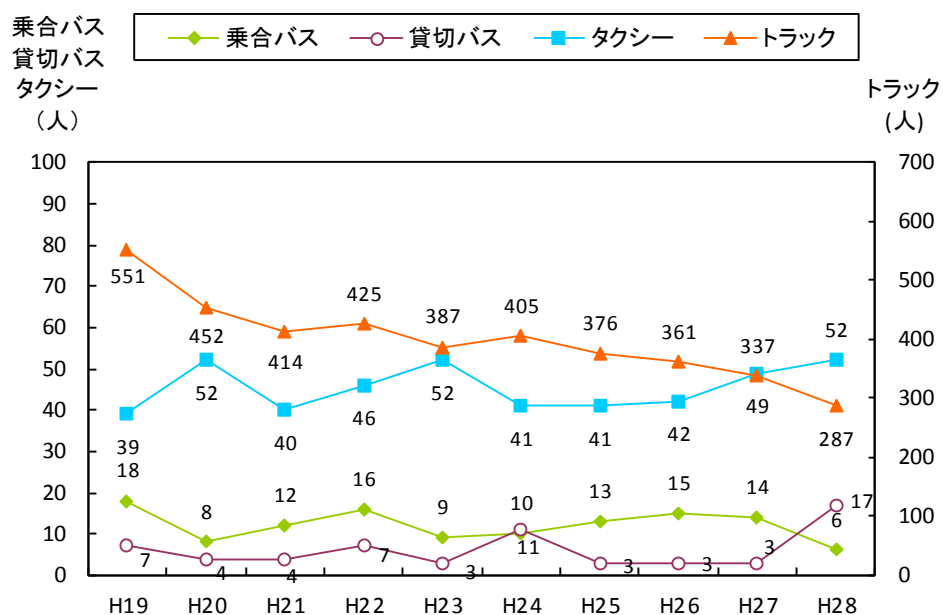
出典：警察庁「交通統計」

（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 事業用自動車の業態別交通事故死者数の推移

事業用自動車の交通事故死者数を業態別にみると、トラックによる交通事故死者数が大半を占める。平成28年の交通事故死者数は、トラックが引き続き減少し、タクシーはやや増加、バスについては、乗合バスは減少しているものの、貸切バスは軽井沢スキーバス事故の影響もあり増加している。

〔図9〕 事業用自動車の業態別交通事故死者数の推移



出典：警察庁「交通統計」
(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表9〕 事業用自動車の業態別交通事故死者数の推移 (人)

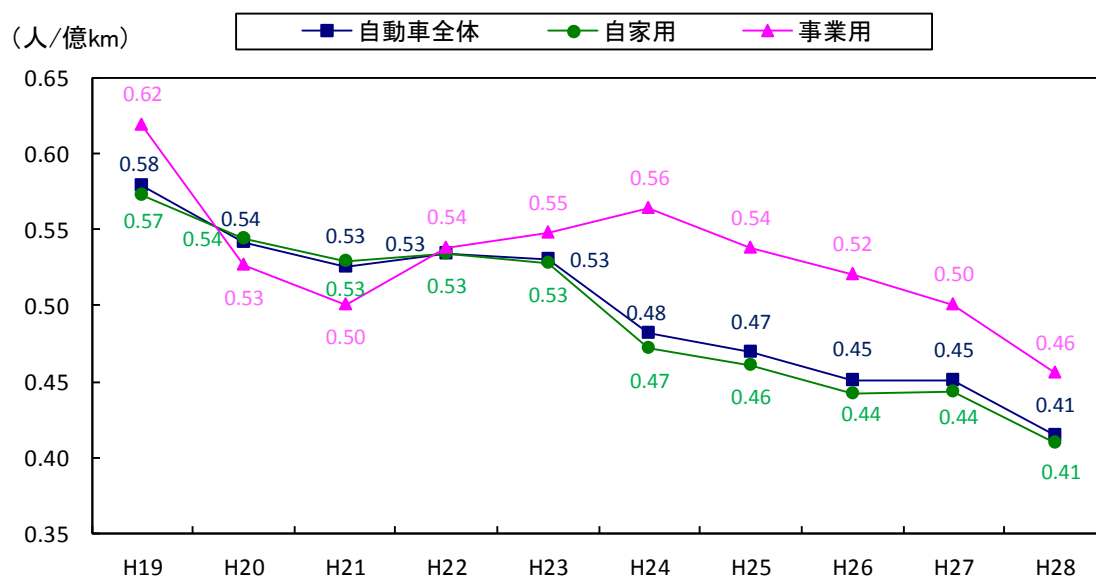
年	区分	バス			タクシー	トラック	
		乗合バス	貸切バス	その他			
	H19	25	18	7	0	39	551
	H20	13	8	4	1	52	452
	H21	18	12	4	2	40	414
	H22	23	16	7	0	46	425
	H23	12	9	3	0	52	387
	H24	21	10	11	0	41	405
	H25	17	13	3	1	41	376
	H26	18	15	3	0	42	361
	H27	17	14	3	0	49	337
	H28	24	6	17	1	52	287

出典：警察庁「交通統計」
(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) 走行距離1億キロあたり自動車事故死者数の推移

走行距離あたりの自動車事故死者数は、自動車全体では減少傾向にある。事業用は平成24年まで増加傾向であったが、以後は減少に転じている。

〔図10〕 走行距離1億キロあたり自動車事故死者数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

〔表10〕 自動車事故死者数と走行距離の推移

年	区分	死者数(人)			走行距離(億km)		
		自動車全体	自家用	事業用	自動車全体	自家用	事業用
H19		4,400	3,785	615	7606.8	6613.2	993.6
H20		4,075	3,558	517	7519.2	6536.8	982.4
H21		3,914	3,442	472	7452.1	6508.9	943.2
H22		3,908	3,414	494	7312.0	6394.3	917.7
H23		3,665	3,214	451	6909.5	6085.6	823.9
H24		3,487	3,020	467	7234.0	6405.5	828.5
H25		3,402	2,968	434	7249.1	6441.5	807.6
H26		3,247	2,826	421	7200.8	6392.3	808.5
H27		3,214	2,811	403	7137.1	6332.5	804.7
H28		3,043	2,680	363	7345.8	6548.7	797.1

出典：警察庁「交通統計」

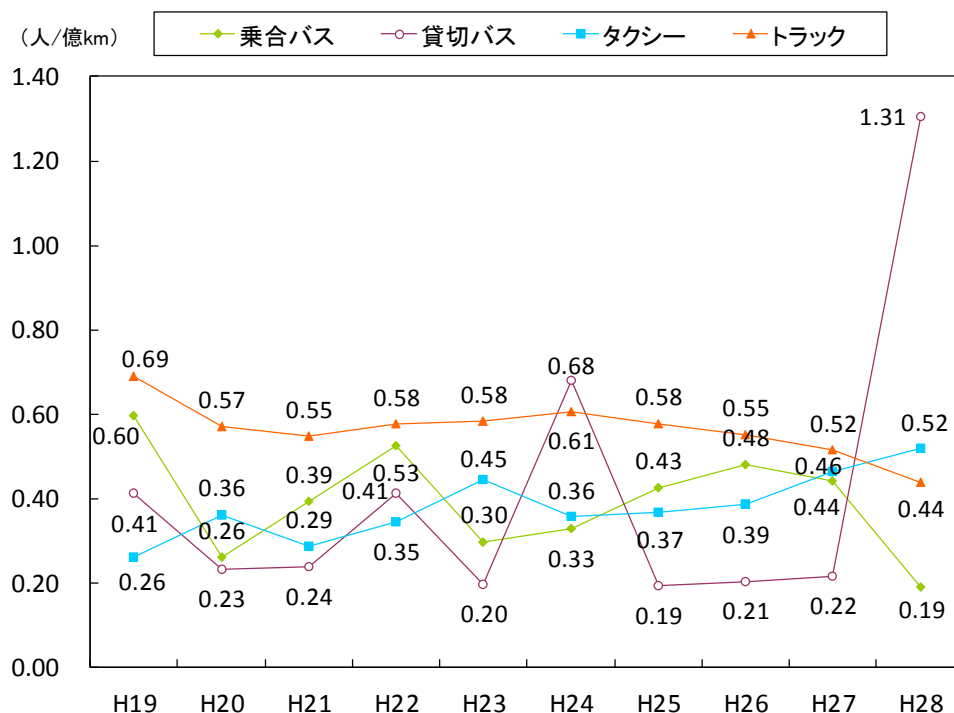
(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

(4) 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通事故死者数の推移

前年より、乗合バスとトラックは減少、貸切バスとタクシーは増加している。貸切バスについては、軽井沢スキーバス事故の影響もあり大きく増加している。

※貸切バスの平成24年は関越道における高速ツアーバス事故の影響により増加

〔図 11〕 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通事故死者数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

〔表 11〕 事業用自動車の業態別交通事故死者数と走行距離の推移

区分 年	死者数(人)							走行距離(億km)					
	バス	乗合	貸切	その他	タクシー	トラック	自動車全体	バス	乗合	貸切	タクシー	トラック	自動車全体
H19	25	18	7	0	39	551	4,400	47.2	30.2	17.0	149.3	797.1	7606.8
H20	13	8	4	1	52	452	4,075	47.6	30.5	17.1	143.4	791.4	7519.2
H21	18	12	4	2	40	414	3,914	47.1	30.4	16.7	139.2	756.9	7452.1
H22	23	16	7	0	46	425	3,908	47.3	30.3	16.9	133.1	737.3	7312.0
H23	12	9	3	0	52	387	3,665	45.3	30.1	15.2	116.4	662.3	6909.5
H24	21	10	11	0	41	405	3,487	46.6	30.4	16.2	114.8	667.0	7234.0
H25	17	13	3	1	41	376	3,402	46.0	30.5	15.5	111.4	650.1	7249.1
H26	18	15	3	0	42	361	3,247	45.8	31.2	14.6	108.8	653.9	7200.8
H27	17	14	3	0	49	337	3,214	45.5	31.8	13.8	105.4	653.7	7137.1
H28	24	6	17	1	52	287	3,043	44.5	31.5	13.0	100.1	652.5	7345.8

出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

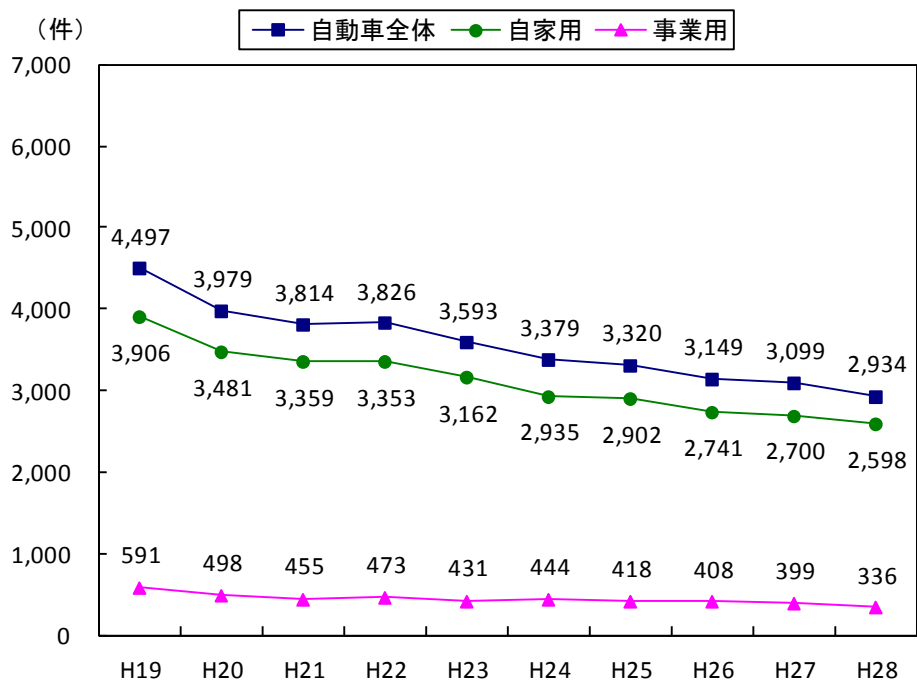
国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

1－4．自動車死亡事故件数の推移

(1) 自動車死亡事故件数の推移

平成28年中に全国で発生した自動車全体の交通死亡事故件数は2,934件であり、そのうち、自家用自動車は2,598件、事業用自動車は336件となっている。

〔図 12〕 自動車死亡事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 12〕 自動車死亡事故件数の推移 (件)

年	自動車全体	自家用	事業用
H19	4,497	3,906	591
H20	3,979	3,481	498
H21	3,814	3,359	455
H22	3,826	3,353	473
H23	3,593	3,162	431
H24	3,379	2,935	444
H25	3,320	2,902	418
H26	3,149	2,741	408
H27	3,099	2,700	399
H28	2,934	2,598	336

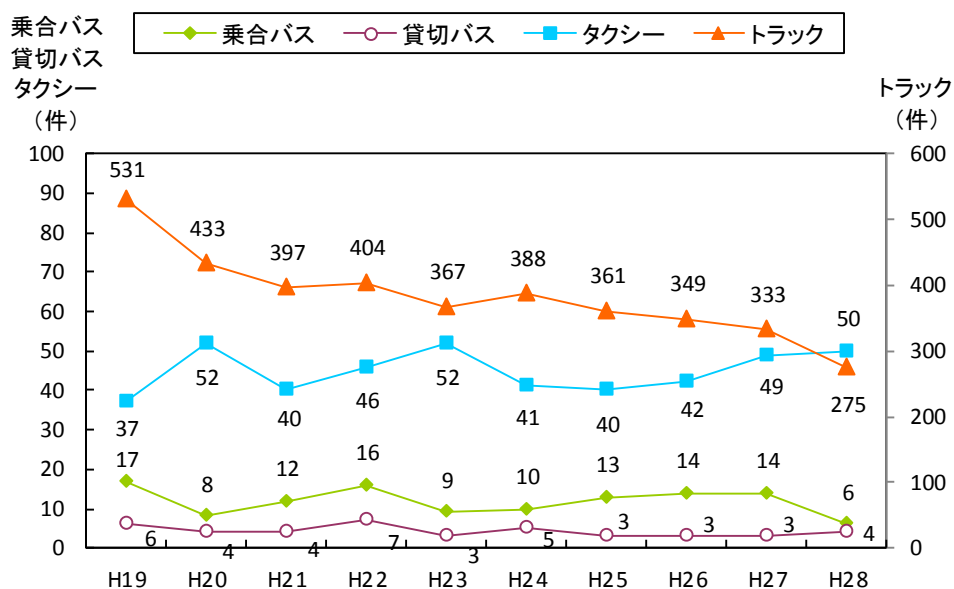
出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

（２） 事業用自動車の業態別交通死亡事故件数の推移

事業用自動車の交通死亡事故件数を業態別にみると、トラックによる死亡事故件数が大半を占めるが、年々減少傾向にあり前年に比べ58件減少している。乗合バスは減少しているが、貸切バス、タクシーは増加している。

〔図 13〕 事業用自動車の業態別交通死亡事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 13〕 事業用自動車の業態別交通死亡事故件数の推移 (件)

年	区分	バス			タクシー	トラック
		乗合バス	貸切バス	その他		
H19	23	17	6	0	37	531
H20	13	8	4	1	52	433
H21	18	12	4	2	40	397
H22	23	16	7	0	46	404
H23	12	9	3	0	52	367
H24	15	10	5	0	41	388
H25	17	13	3	1	40	361
H26	17	14	3	0	42	349
H27	17	14	3	0	49	333
H28	11	6	4	1	50	275

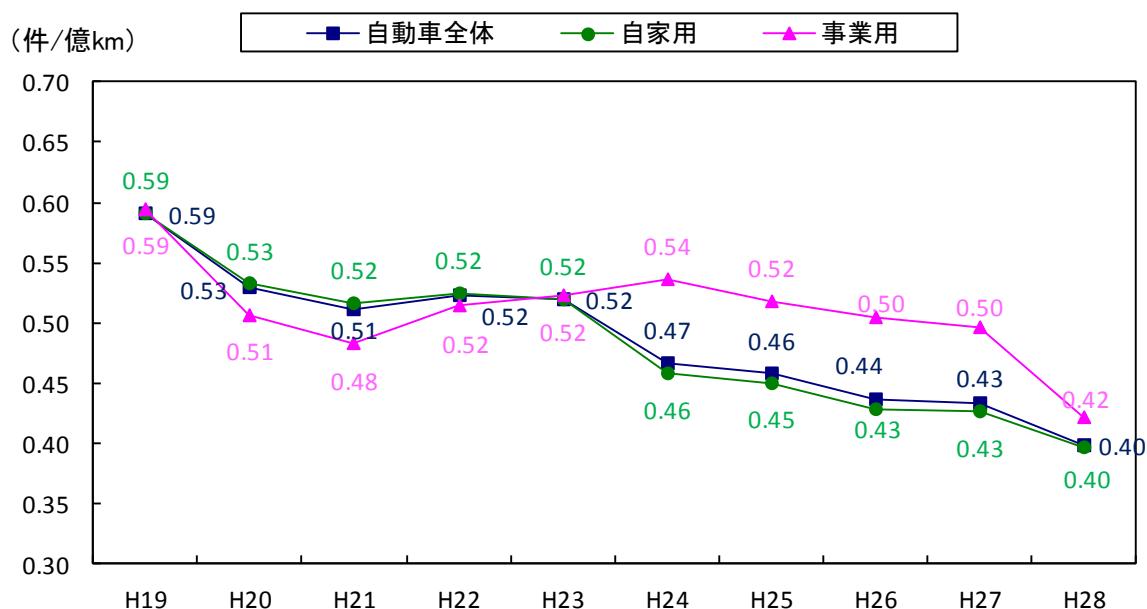
出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) 走行距離1億キロあたり自動車死亡事故件数の推移

走行距離あたりの自動車死亡事故件数をみると、自動車全体と自家用は減少傾向である。事業用は平成24年に増加したが、以後は減少傾向にある。

〔図14〕 走行距離1億キロあたり自動車死亡事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

〔表14〕 自動車死亡事故件数と走行距離の推移

区分 年	死亡事故件数(件)			走行距離(億km)		
	自動車全体	自家用	事業用	自動車全体	自家用	事業用
H19	4,497	3,906	591	7606.8	6613.2	993.6
H20	3,979	3,481	498	7519.2	6536.8	982.4
H21	3,814	3,359	455	7452.1	6508.9	943.2
H22	3,826	3,353	473	7312.0	6394.3	917.7
H23	3,593	3,162	431	6909.5	6085.6	823.9
H24	3,379	2,935	444	7234.0	6405.5	828.5
H25	3,320	2,902	418	7249.1	6441.5	807.6
H26	3,149	2,741	408	7200.8	6392.3	808.5
H27	3,099	2,700	399	7137.1	6332.4	804.7
H28	2,934	2,598	336	7345.8	6548.7	797.1

出典：警察庁「交通統計」

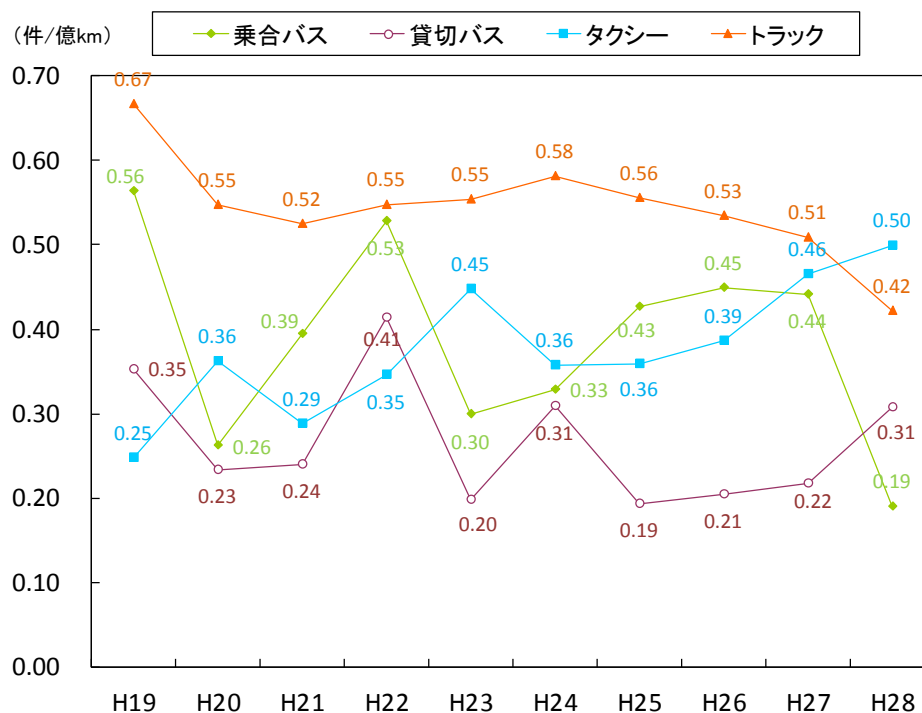
(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

(4) 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通死亡事故件数の推移

走行距離当たりの死亡事故件数は、乗合バスは前年の半分以下に減少し、トラックは他の業態に比べ多い傾向であったが、平成25年以降減少傾向が続いている。貸切バスとタクシーは、近年増加傾向である。

〔図 15〕 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通死亡事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

〔表 15〕 事業用自動車の業態別走行距離と交通死亡事故件数の推移

区分 年	死亡事故件数(件)							走行キロ(億km)					
	バス	乗合	貸切	その他	タクシー	トラック	自動車全体	バス	乗合	貸切	タクシー	トラック	自動車全体
H19	23	17	6	0	37	531	4,497	47.2	30.2	17.0	149.3	797.1	7606.8
H20	13	8	4	1	52	433	3,979	47.6	30.5	17.1	143.4	791.4	7519.2
H21	18	12	4	2	40	397	3,814	47.1	30.4	16.7	139.2	756.9	7452.1
H22	23	16	7	0	46	404	3,826	47.3	30.3	16.9	133.1	737.3	7312.0
H23	12	9	3	0	52	367	3,593	45.3	30.1	15.2	116.4	662.3	6909.5
H24	15	10	5	0	41	388	3,379	46.6	30.4	16.2	114.8	667.0	7234.0
H25	17	13	3	1	40	361	3,320	46.0	30.5	15.5	111.4	650.1	7249.1
H26	17	14	3	0	42	349	3,149	45.8	31.2	14.6	108.8	653.9	7200.8
H27	17	14	3	0	49	333	3,099	45.5	31.8	13.8	105.4	653.7	7137.1
H28	11	6	4	1	50	275	2,934	44.5	31.5	13.0	100.1	652.5	7345.8

出典：警察庁「交通統計」

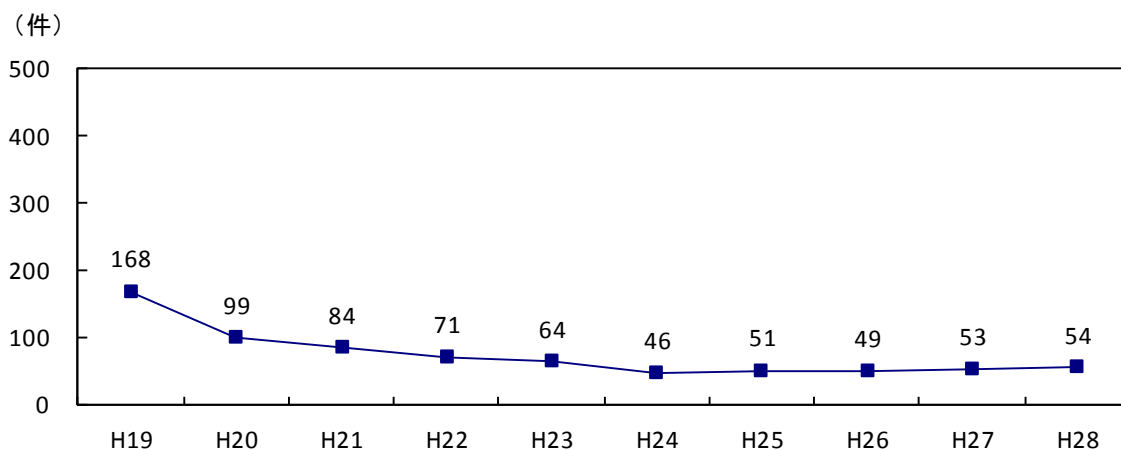
(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

1-5. 飲酒運転による事業用自動車の交通事故の推移

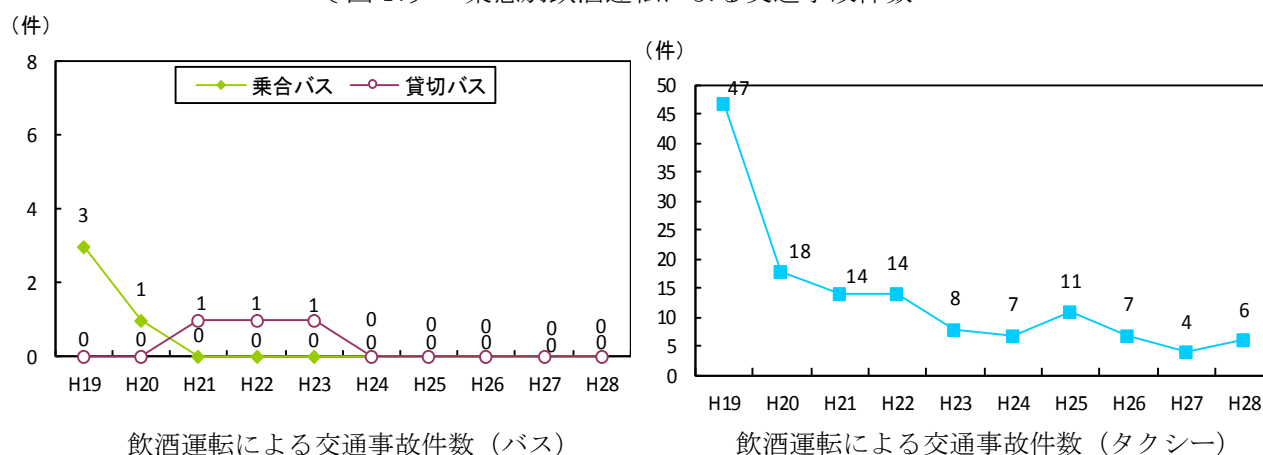
飲酒運転による事業用自動車の交通事故は、平成24年までは減少しており、それ以降は同程度である。業態別の内訳は、トラック48件、タクシー6件である。

〔図16〕 飲酒運転による事業用自動車の交通事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図17〕 業態別飲酒運転による交通事故件数



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 16〕 業態別飲酒運転による交通事故件数の推移（件）

区分 年	交通事故件数						
	バス				タクシー	トラック	合計
		乗合	貸切	その他			
H19	3	3	0	0	47	118	168
H20	1	1	0	0	18	80	99
H21	1	0	1	0	14	69	84
H22	1	0	1	0	14	56	71
H23	1	0	1	0	8	55	64
H24	0	0	0	0	7	39	46
H25	0	0	0	0	11	40	51
H26	0	0	0	0	7	42	49
H27	0	0	0	0	4	49	53
H28	0	0	0	0	6	48	54

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 17〕 業態別飲酒運転による交通死亡事故件数の推移（件）

区分 年	交通死亡事故件数						
	バス				タクシー	トラック	合計
		乗合	貸切	その他			
H19	0	0	0	0	0	12	12
H20	0	0	0	0	0	1	1
H21	0	0	0	0	0	2	2
H22	0	0	0	0	0	3	3
H23	0	0	0	0	0	4	4
H24	0	0	0	0	0	6	6
H25	0	0	0	0	0	6	6
H26	0	0	0	0	1	5	6
H27	0	0	0	0	0	5	5
H28	0	0	0	0	0	1	1

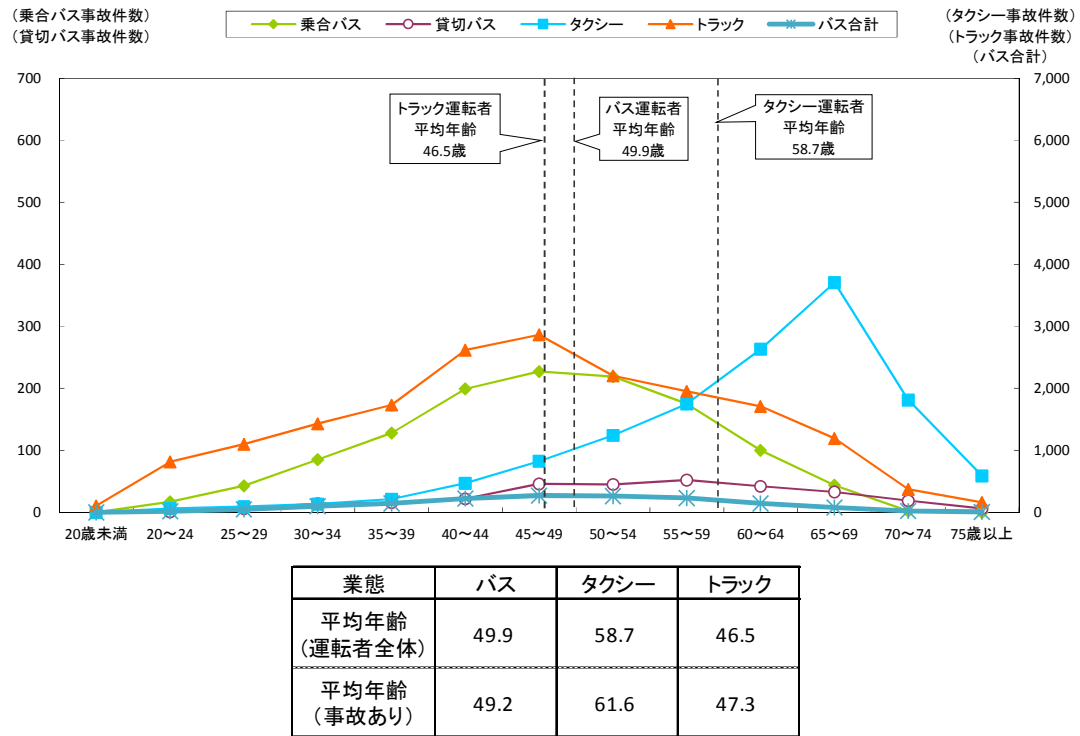
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

1-6. 業態別運転者年齢層別の交通事故

(1) 業態別運転者年齢層別交通事故件数

業態別の交通事故第1当事者の平均年齢と運転者の平均年齢をみると、タクシーは若干高く、バスとトラックは同程度である。

〔図 18〕 業態別運転者年齢層別交通事故件数（平成28年）



※ 交通事故第1当事者の平均年齢は、年齢層毎の年齢の加重平均により算出

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
厚生労働省「平成28年賃金構造基本統計調査（全国）」

〔表 18〕 業態別運転者年齢層別交通事故件数（件）（平成28年）

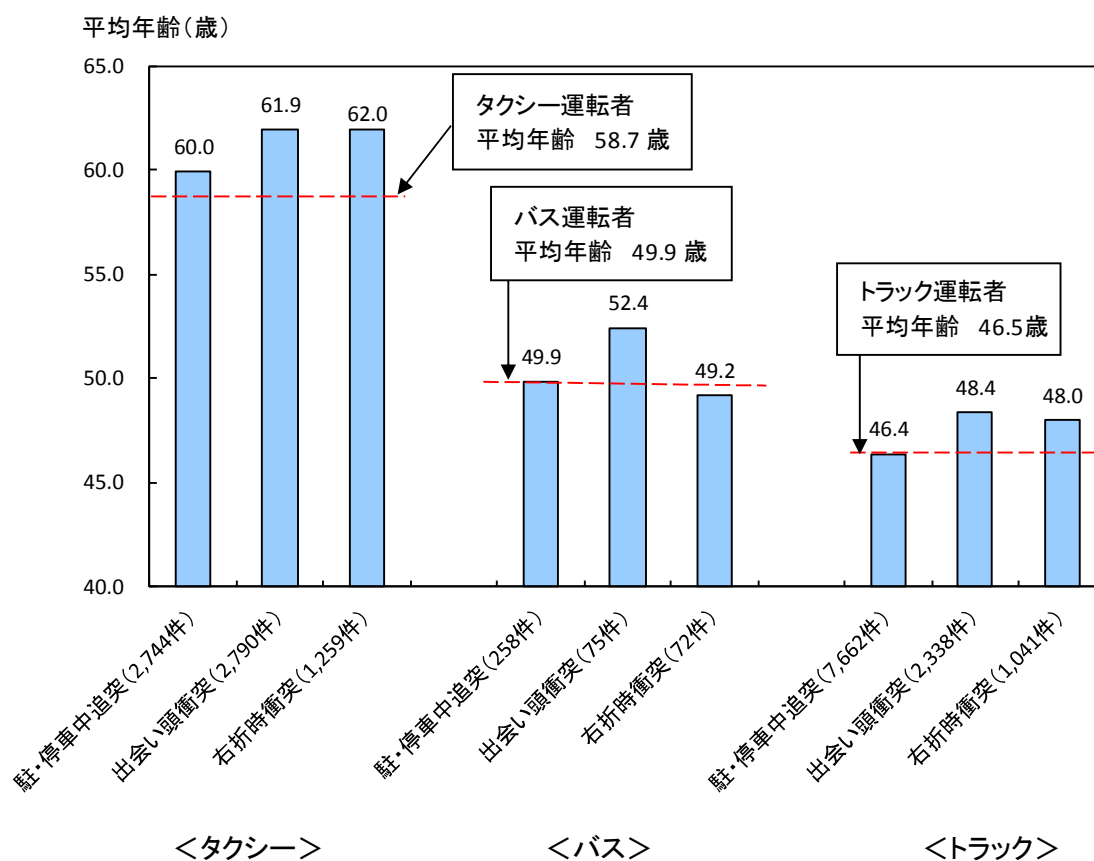
		20歳未満	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75歳以上	合計
バス	乗合	0	17	43	85	128	199	227	219	175	100	44	2	0	1,239
	貸切	0	1	6	14	16	22	46	45	52	42	33	19	6	302
	その他	0	0	0	0	0	3	0	0	5	1	4	1	1	15
	小計	0	18	49	99	144	224	273	264	232	143	81	22	7	1,556
ハイタク	法人	0	54	81	131	202	444	779	1,166	1,636	2,420	3,354	1,581	467	12,315
	個人	0	1	4	2	4	19	37	59	94	197	343	225	121	1,106
その他乗用		0	7	6	3	7	6	9	18	19	13	9	7	1	105
小計		0	62	91	136	213	469	825	1,243	1,749	2,630	3,706	1,813	589	13,526
貨物自動車	大型	0	78	243	413	602	1,004	1,121	830	610	479	252	63	14	5,709
	中型	0	212	425	593	702	997	1,063	754	737	587	401	79	22	6,572
	普通	63	302	220	204	203	285	280	219	195	172	121	32	23	2,319
	軽	42	225	211	222	226	332	400	397	408	471	419	199	102	3,654
	小計	105	817	1,099	1,432	1,733	2,618	2,864	2,200	1,950	1,709	1,193	373	161	18,254
合計		105	897	1,239	1,667	2,090	3,311	3,962	3,707	3,931	4,482	4,980	2,208	757	33,336
トレーラ (トラックの内数)		1	21	54	81	113	201	234	175	116	92	41	10	2	1,141

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 業態別事故類型別事故第1当事者平均年齢

事故第1当事者の平均年齢を、運転者全体の平均年齢と比べると、出会い頭衝突は業態を問わず平均より高い年齢となっている。

〔図 19〕 業態別事故類型別事故第1当事者の運転者平均年齢（車両との事故）（平成28年）



注：（ ）内は事故件数

※ 事故第1当事者の運転者の平均年齢は、年齢層毎の年齢の加重平均により算出

※ 上記事故類型は「車両との事故」の事故類型から事故件数の多い3つを抽出

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
厚生労働省「平成28年賃金構造基本統計調査（全国）」

1-7. 業態別危険認知速度別の交通事故

(1) 業態別危険認知速度別交通事故件数

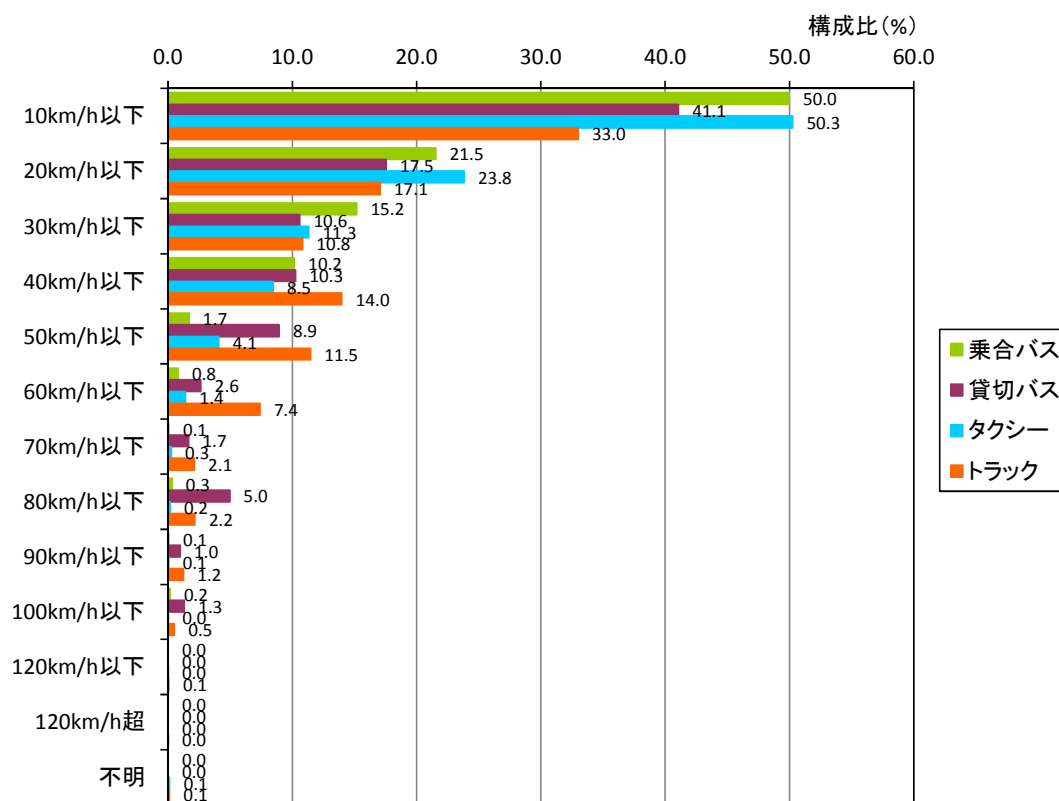
業態別の危険認知速度別事故件数をみると、いずれの業態も10km/h以下が最も多くなっている。表19に認知速度別交通事故件数を、図20に業態別の構成比を示す。

〔表 19〕 業態別危険認知速度別交通事故件数（件）（平成28年）

区分 速度	交通事故件数				タクシー	トラック	合計
	バス	乗合	貸切	その他			
10km/h以下	749	619	124	6	6,797	6,023	13,569
20km/h以下	324	267	53	4	3,223	3,115	6,662
30km/h以下	222	188	32	2	1,532	1,978	3,732
40km/h以下	158	126	31	1	1,144	2,555	3,857
50km/h以下	50	21	27	2	553	2,094	2,697
60km/h以下	18	10	8	0	191	1,349	1,558
70km/h以下	6	1	5	0	34	384	424
80km/h以下	19	4	15	0	22	396	437
90km/h以下	4	1	3	0	7	228	239
100km/h以下	6	2	4	0	4	94	104
120km/h以下	0	0	0	0	1	14	15
120km/h超	0	0	0	0	0	1	1
不明	0	0	0	0	18	23	41
合計	1,556	1,239	302	15	13,526	18,254	33,336

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 20〕 業態別危険認知速度別交通事故件数の構成比（％）（平成28年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 業態別危険認知速度別交通死亡事故件数

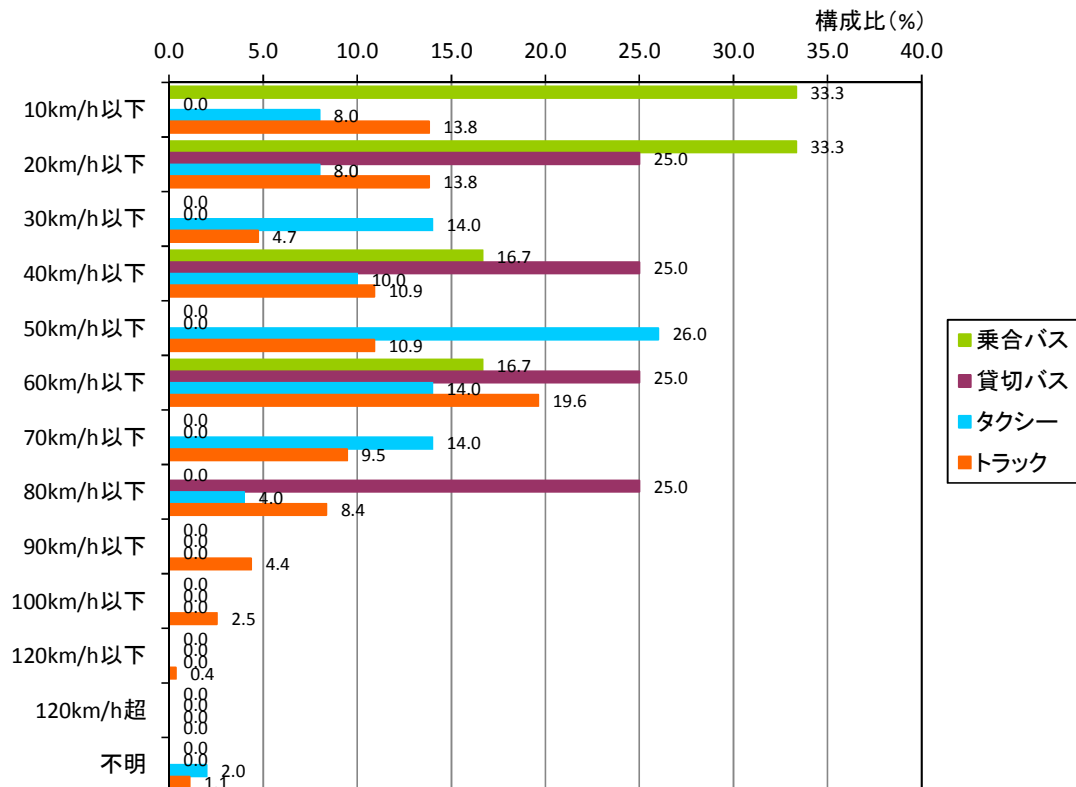
業態別の危険認知速度別死亡事故件数をみると、バスは10km/h以下、タクシーは50km/h以下、トラックは60km/h以下が最も多くなっている。表20に危険認知速度別交通事故死亡事故件数を、図21に業態別の構成比を示す。

〔表 20〕 業態別危険認知速度別交通死亡事故件数（件）（平成28年）

区分 速度	交通死亡事故件数					
	バス	乗合	貸切	その他	タクシー	トラック
10km/h以下	2	2	0	0	4	38
20km/h以下	3	2	1	0	4	38
30km/h以下	0	0	0	0	7	13
40km/h以下	3	1	1	1	5	30
50km/h以下	0	0	0	0	13	30
60km/h以下	2	1	1	0	7	54
70km/h以下	0	0	0	0	7	26
80km/h以下	1	0	1	0	2	23
90km/h以下	0	0	0	0	0	12
100km/h以下	0	0	0	0	0	7
120km/h以下	0	0	0	0	0	1
120km/h超	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	0	0	1	3
合計	11	6	4	1	50	275

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 21〕 業態別危険認知速度別交通死亡事故件数の構成比（％）（平成28年）



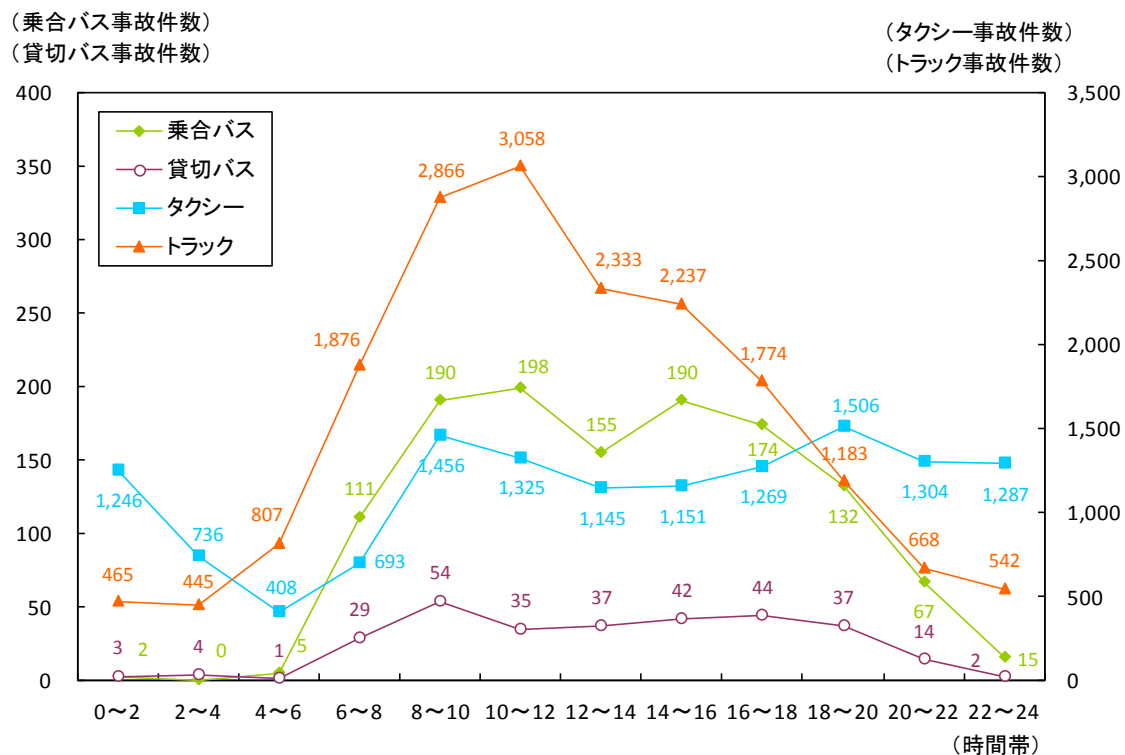
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

1-8. 業態別時間帯別の交通事故

(1) 業態別時間帯別交通事故件数

業態別の時間帯別事故件数をみると、貸切バスは8時～9時台、乗合バスとトラックは10時～11時台、タクシーは18～19時台が最も多い。

〔図 22〕 業態別時間帯別交通事故件数（平成28年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 21〕 業態別時間帯別交通事故件数（件）（平成28年）

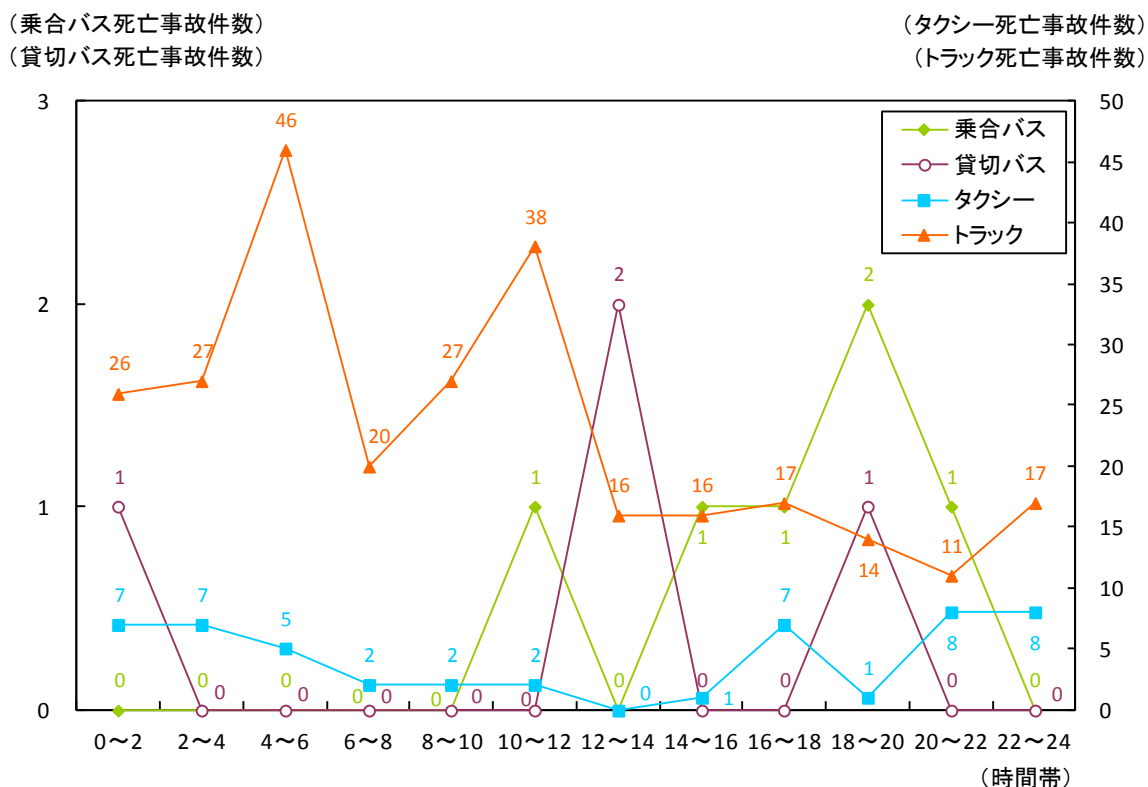
区分 \ 時間帯		0～2	2～4	4～6	6～8	8～10	10～12	12～14	14～16	16～18	18～20	20～22	22～24	合計
バス	乗合	2	0	5	111	190	198	155	190	174	132	67	15	1,239
	貸切	3	4	1	29	54	35	37	42	44	37	14	2	302
	その他	0	1	0	2	5	1	0	0	2	3	0	1	15
	小計	5	5	6	142	249	234	192	232	220	172	81	18	1,556
タクシー	法人	1,114	658	372	638	1,334	1,205	1,056	1,057	1,149	1,388	1,190	1,154	12,315
	個人	131	78	34	50	109	98	76	79	100	109	112	130	1,106
その他乗用		1	0	2	5	13	22	13	15	20	9	2	3	105
小計		1,246	736	408	693	1,456	1,325	1,145	1,151	1,269	1,506	1,304	1,287	13,526
トラック	大型	198	182	290	632	892	920	668	666	496	305	205	255	5,709
	中型	200	201	364	786	1,081	1,119	852	751	519	303	211	185	6,572
	普通	38	33	85	225	422	399	338	313	242	137	53	34	2,319
	軽	29	29	68	233	471	620	475	507	517	438	199	68	3,654
	小計	465	445	807	1,876	2,866	3,058	2,333	2,237	1,774	1,183	668	542	18,254
合計		1,716	1,186	1,221	2,711	4,571	4,617	3,670	3,620	3,263	2,861	2,053	1,847	33,336

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 業態別時間帯別交通死亡事故件数

業態別の時間帯別死亡事故件数をみると、バスは18時～19時台、タクシーは20時～23時台、トラックは4時～5時台が最も多い。

〔図 23〕 業態別時間帯別交通死亡事故件数（平成28年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 22〕 業態別時間帯別交通死亡事故件数（件）（平成28年）

区分		0～2	2～4	4～6	6～8	8～10	10～12	12～14	14～16	16～18	18～20	20～22	22～24	合計
バス	乗合	0	0	0	0	0	1	0	1	1	2	1	0	6
	貸切	1	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	4
	その他	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	小計	1	1	0	0	0	1	2	1	1	3	1	0	11
タクシー	法人	5	5	5	2	2	2	0	1	6	0	8	7	43
	個人	2	2	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	7
その他乗用		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		7	7	5	2	2	2	0	1	7	1	8	8	50
トラック	大型	13	16	20	13	20	20	9	7	12	4	8	8	150
	中型	8	9	21	6	5	15	5	7	0	6	2	9	93
	普通	3	1	3	0	1	2	0	2	2	1	0	0	15
	軽	2	1	2	1	1	1	2	0	3	3	1	0	17
	小計	26	27	46	20	27	38	16	16	17	14	11	17	275
合計		34	35	51	22	29	41	18	18	25	18	20	25	336

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

1-9. 事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通事故

（１） 事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通事故件数

〔表 23〕 事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通事故件数（件）（平成28年）

事業の種類 都道府県	バス					タクシー		トラック		計				
	乗合		貸切		その他									
北海道	68	(9)	44	(9)	24	(4)	0	(10)	564	(7)	445	(10)	1,077	(10)
青森県	13	(26)	10	(23)	3	(26)	0	(10)	63	(26)	88	(41)	164	(36)
岩手県	2	(44)	2	(43)	0	(40)	0	(10)	39	(36)	90	(39)	131	(42)
宮城県	20	(16)	13	(19)	7	(10)	0	(10)	169	(15)	239	(18)	428	(14)
秋田県	4	(41)	4	(37)	0	(40)	0	(10)	30	(42)	53	(44)	87	(45)
山形県	7	(35)	5	(34)	2	(31)	0	(10)	32	(41)	101	(37)	140	(41)
福島県	7	(35)	4	(37)	3	(26)	0	(10)	61	(27)	160	(24)	228	(28)
茨城県	20	(16)	11	(21)	6	(12)	3	(1)	64	(25)	435	(11)	519	(13)
栃木県	14	(24)	8	(29)	6	(12)	0	(10)	41	(33)	198	(20)	253	(26)
群馬県	10	(31)	6	(32)	4	(19)	0	(10)	52	(31)	354	(14)	416	(15)
埼玉県	51	(10)	32	(10)	17	(6)	2	(3)	431	(9)	1,537	(3)	2,019	(5)
千葉県	85	(6)	58	(7)	27	(3)	0	(10)	338	(10)	830	(8)	1,253	(8)
東京都	185	(1)	149	(1)	34	(1)	2	(3)	3,371	(1)	1,675	(2)	5,231	(1)
神奈川県	149	(2)	137	(2)	9	(8)	3	(1)	978	(4)	1,251	(5)	2,378	(4)
新潟県	6	(38)	4	(37)	2	(31)	0	(10)	65	(24)	133	(31)	204	(31)
富山県	2	(44)	2	(43)	0	(40)	0	(10)	24	(44)	120	(32)	146	(38)
石川県	15	(22)	13	(19)	2	(31)	0	(10)	61	(27)	110	(34)	186	(34)
福井県	5	(40)	3	(40)	1	(37)	1	(5)	20	(45)	83	(42)	108	(43)
山梨県	12	(28)	7	(31)	5	(15)	0	(10)	33	(40)	103	(35)	148	(37)
長野県	17	(19)	10	(23)	7	(10)	0	(10)	61	(27)	204	(19)	282	(24)
岐阜県	9	(32)	9	(26)	0	(40)	0	(10)	37	(38)	245	(17)	291	(23)
静岡県	37	(11)	28	(12)	8	(9)	1	(5)	324	(11)	739	(9)	1,100	(9)
愛知県	79	(8)	56	(8)	23	(5)	0	(10)	616	(6)	1,277	(4)	1,972	(6)
三重県	8	(33)	5	(34)	3	(26)	0	(10)	42	(32)	250	(16)	300	(22)
滋賀県	11	(29)	9	(26)	2	(31)	0	(10)	36	(39)	154	(26)	201	(33)
京都府	80	(7)	75	(6)	5	(15)	0	(10)	441	(8)	409	(12)	930	(11)
大阪府	140	(4)	108	(4)	31	(2)	1	(5)	1,734	(2)	2,179	(1)	4,053	(2)
兵庫県	88	(5)	84	(5)	4	(19)	0	(10)	620	(5)	858	(7)	1,566	(7)
奈良県	7	(35)	2	(43)	4	(19)	1	(5)	39	(36)	156	(25)	202	(32)
和歌山県	1	(47)	0	(47)	1	(37)	0	(10)	29	(43)	111	(33)	141	(40)
鳥取県	3	(42)	3	(40)	0	(40)	0	(10)	8	(47)	43	(46)	54	(46)
島根県	2	(44)	2	(43)	0	(40)	0	(10)	11	(46)	26	(47)	39	(47)
岡山県	13	(26)	9	(26)	4	(19)	0	(10)	97	(19)	306	(15)	416	(15)
広島県	33	(13)	27	(14)	6	(12)	0	(10)	278	(13)	360	(13)	671	(12)
山口県	17	(19)	15	(16)	2	(31)	0	(10)	72	(20)	142	(30)	231	(27)
徳島県	14	(24)	10	(23)	4	(19)	0	(10)	40	(35)	89	(40)	143	(39)
香川県	8	(33)	6	(32)	2	(31)	0	(10)	68	(23)	194	(21)	270	(25)
愛媛県	6	(38)	5	(34)	1	(37)	0	(10)	71	(21)	151	(27)	228	(28)
高知県	3	(42)	3	(40)	0	(40)	0	(10)	41	(33)	63	(43)	107	(44)
福岡県	144	(3)	129	(3)	15	(7)	0	(10)	1,280	(3)	1,102	(6)	2,526	(3)
佐賀県	11	(29)	8	(29)	3	(26)	0	(10)	70	(22)	147	(28)	228	(28)
長崎県	36	(12)	32	(10)	4	(19)	0	(10)	184	(14)	103	(35)	323	(20)
熊本県	18	(18)	14	(18)	4	(19)	0	(10)	129	(17)	184	(22)	331	(19)
大分県	16	(21)	11	(21)	5	(15)	0	(10)	59	(30)	93	(38)	168	(35)
宮崎県	15	(22)	15	(16)	0	(40)	0	(10)	156	(16)	145	(29)	316	(21)
鹿児島県	32	(14)	28	(12)	3	(26)	1	(5)	122	(18)	183	(23)	337	(18)
沖縄県	27	(15)	22	(15)	5	(15)	0	(10)	323	(12)	50	(45)	400	(17)
計	1,556		1,239		302		15		13,526		18,254		33,336	

注 1：数値横のカッコ内は順位

注 2：都道府県合計には、不明を含む

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通死亡事故件数

〔表 24〕 事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通死亡事故件数（件）（平成28年）

事業の種類 都道府県	バス				タクシー	トラック	計
		乗合	貸切	その他			
北海道	0 (10)	0 (7)	0 (4)	0 (2)	5 (3)	19 (4)	24 (3)
青森県	1 (2)	0 (7)	1 (1)	0 (2)	0 (24)	4 (21)	5 (20)
岩手県	0 (10)	0 (7)	0 (4)	0 (2)	1 (7)	0 (43)	1 (41)
宮城県	0 (10)	0 (7)	0 (4)	0 (2)	0 (24)	7 (12)	7 (15)
秋田県	0 (10)	0 (7)	0 (4)	0 (2)	0 (24)	2 (31)	2 (34)
山形県	0 (10)	0 (7)	0 (4)	0 (2)	0 (24)	1 (37)	1 (41)
福島県	0 (10)	0 (7)	0 (4)	0 (2)	1 (7)	7 (12)	8 (12)
茨城県	0 (10)	0 (7)	0 (4)	0 (2)	0 (24)	5 (18)	5 (20)
栃木県	0 (10)	0 (7)	0 (4)	0 (2)	1 (7)	4 (21)	5 (20)
群馬県	0 (10)	0 (7)	0 (4)	0 (2)	0 (24)	6 (15)	6 (17)
埼玉県	1 (2)	0 (7)	0 (4)	1 (1)	0 (24)	25 (1)	26 (2)
千葉県	1 (2)	1 (1)	0 (4)	0 (2)	1 (7)	21 (3)	23 (4)
東京都	1 (2)	0 (7)	1 (1)	0 (2)	12 (1)	10 (7)	23 (4)
神奈川県	0 (10)	0 (7)	0 (4)	0 (2)	1 (7)	10 (7)	11 (9)
新潟県	0 (10)	0 (7)	0 (4)	0 (2)	3 (5)	6 (15)	9 (11)
富山県	0 (10)	0 (7)	0 (4)	0 (2)	0 (24)	4 (21)	4 (25)
石川県	0 (10)	0 (7)	0 (4)	0 (2)	0 (24)	3 (26)	3 (26)
福井県	0 (10)	0 (7)	0 (4)	0 (2)	0 (24)	1 (37)	1 (41)
山梨県	0 (10)	0 (7)	0 (4)	0 (2)	0 (24)	0 (43)	0 (45)
長野県	0 (10)	0 (7)	0 (4)	0 (2)	0 (24)	3 (26)	3 (26)
岐阜県	0 (10)	0 (7)	0 (4)	0 (2)	1 (7)	4 (21)	5 (20)
静岡県	0 (10)	0 (7)	0 (4)	0 (2)	0 (24)	8 (11)	8 (12)
愛知県	0 (10)	0 (7)	0 (4)	0 (2)	0 (24)	12 (6)	12 (8)
三重県	0 (10)	0 (7)	0 (4)	0 (2)	1 (7)	7 (12)	8 (12)
滋賀県	1 (2)	1 (1)	0 (4)	0 (2)	0 (24)	4 (21)	5 (20)
京都府	0 (10)	0 (7)	0 (4)	0 (2)	1 (7)	5 (18)	6 (17)
大阪府	2 (1)	1 (1)	1 (1)	0 (2)	6 (2)	22 (2)	30 (1)
兵庫県	1 (2)	1 (1)	0 (4)	0 (2)	4 (4)	10 (7)	15 (7)
奈良県	0 (10)	0 (7)	0 (4)	0 (2)	1 (7)	2 (31)	3 (26)
和歌山県	0 (10)	0 (7)	0 (4)	0 (2)	0 (24)	2 (31)	2 (34)
鳥取県	0 (10)	0 (7)	0 (4)	0 (2)	0 (24)	0 (43)	0 (45)
島根県	0 (10)	0 (7)	0 (4)	0 (2)	0 (24)	0 (43)	0 (45)
岡山県	0 (10)	0 (7)	0 (4)	0 (2)	0 (24)	3 (26)	3 (26)
広島県	0 (10)	0 (7)	0 (4)	0 (2)	1 (7)	9 (10)	10 (10)
山口県	0 (10)	0 (7)	0 (4)	0 (2)	0 (24)	2 (31)	2 (34)
徳島県	0 (10)	0 (7)	0 (4)	0 (2)	0 (24)	1 (37)	1 (41)
香川県	0 (10)	0 (7)	0 (4)	0 (2)	0 (24)	3 (26)	3 (26)
愛媛県	0 (10)	0 (7)	0 (4)	0 (2)	1 (7)	6 (15)	7 (15)
高知県	0 (10)	0 (7)	0 (4)	0 (2)	0 (24)	3 (26)	3 (26)
福岡県	0 (10)	0 (7)	0 (4)	0 (2)	3 (5)	18 (5)	21 (6)
佐賀県	0 (10)	0 (7)	0 (4)	0 (2)	1 (7)	1 (37)	2 (34)
長崎県	0 (10)	0 (7)	0 (4)	0 (2)	1 (7)	1 (37)	2 (34)
熊本県	0 (10)	0 (7)	0 (4)	0 (2)	1 (7)	5 (18)	6 (17)
大分県	1 (2)	1 (1)	0 (4)	0 (2)	0 (24)	2 (31)	3 (26)
宮崎県	0 (10)	0 (7)	0 (4)	0 (2)	1 (7)	1 (37)	2 (34)
鹿児島県	0 (10)	0 (7)	0 (4)	0 (2)	1 (7)	2 (31)	3 (26)
沖縄県	1 (2)	1 (1)	0 (4)	0 (2)	1 (7)	0 (43)	2 (34)
計	11	6	4	1	50	275	336

注 1：数値横のカッコ内は順位

注 2：都道府県合計には、不明を含む

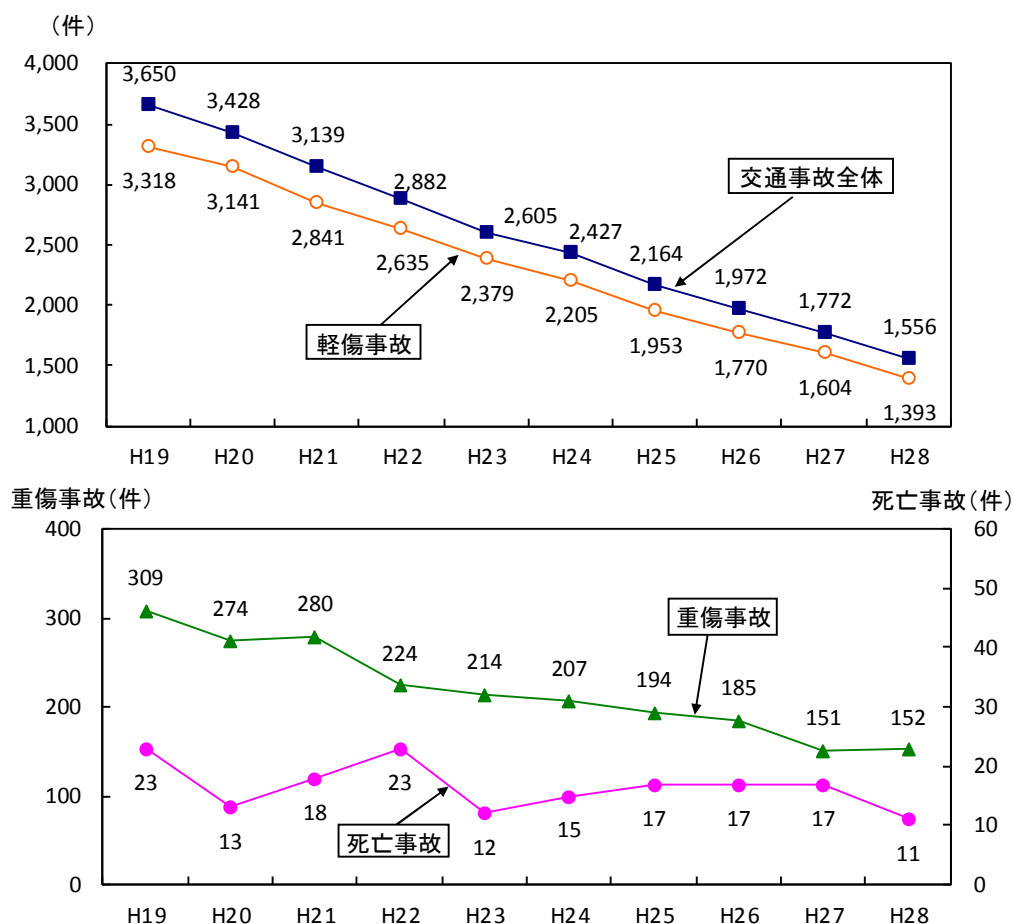
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

2. バスの事故

(1) バスの事故件数、死傷事故件数の推移

バスによる事故は、総件数及び軽傷事故件数は減少しているが、重傷事故件数は、平成 28 年は前年と同程度、死亡事故件数は 11 件～23 件の間で推移しており、減少傾向は見られない。

〔図 24〕 バスの全事故及び死傷事故件数の推移



〔表 25〕 バスの事故件数の推移 (件)

区分 年	死亡事故	重傷事故	軽傷事故	交通事故全体
H19	23	309	3,318	3,650
H20	13	274	3,141	3,428
H21	18	280	2,841	3,139
H22	23	224	2,635	2,882
H23	12	214	2,379	2,605
H24	15	207	2,205	2,427
H25	17	194	1,953	2,164
H26	17	185	1,770	1,972
H27	17	151	1,604	1,772
H28	11	152	1,393	1,556

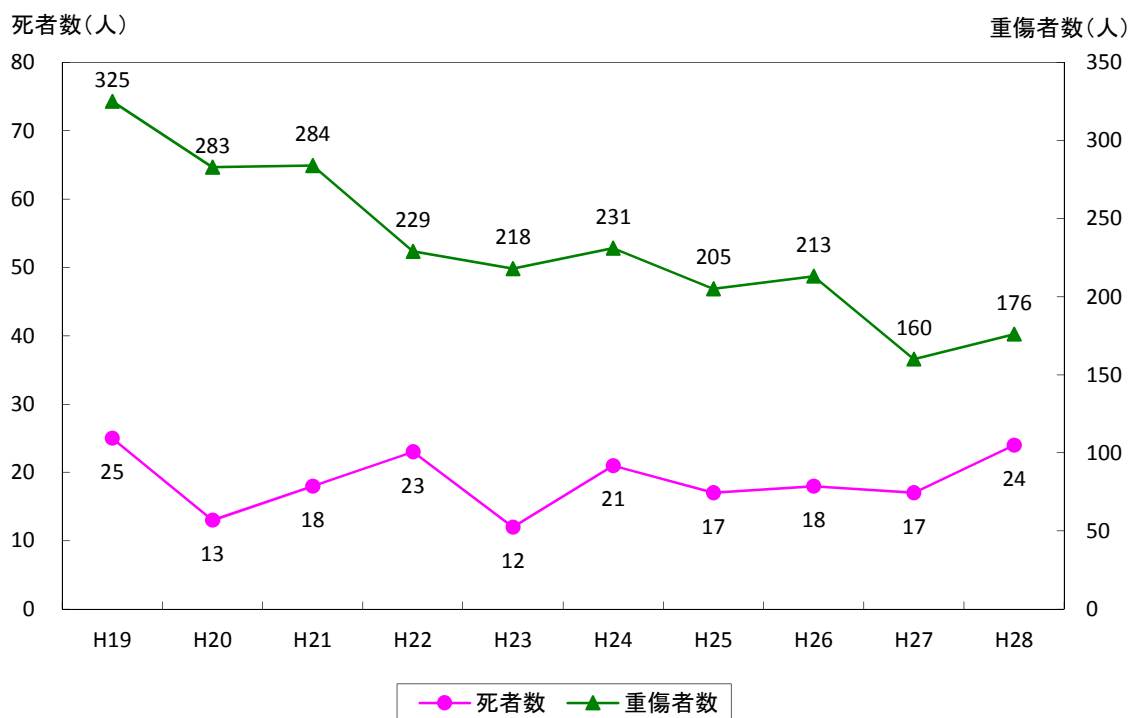
※バス種別区分の乗合、貸切、その他の合計値

出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) バス事故の死傷者数の推移

バスの事故による死者数は、12人～25人で推移している。重傷者数は減少傾向にあったが、前年より16人増加した。

〔図 25〕 バス事故の死傷者数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 26〕 バスの死傷者数の推移(人)

区分 年	死者数	重傷者数	軽傷者数	死傷者合計
H19	25	325	4,256	4,606
H20	13	283	3,951	4,247
H21	18	284	3,517	3,819
H22	23	229	3,300	3,552
H23	12	218	3,090	3,320
H24	21	231	2,831	3,083
H25	17	205	2,650	2,872
H26	18	213	2,355	2,586
H27	17	160	2,148	2,325
H28	24	176	1,923	2,123

※バス種別区分の乗合、貸切、その他の合計値

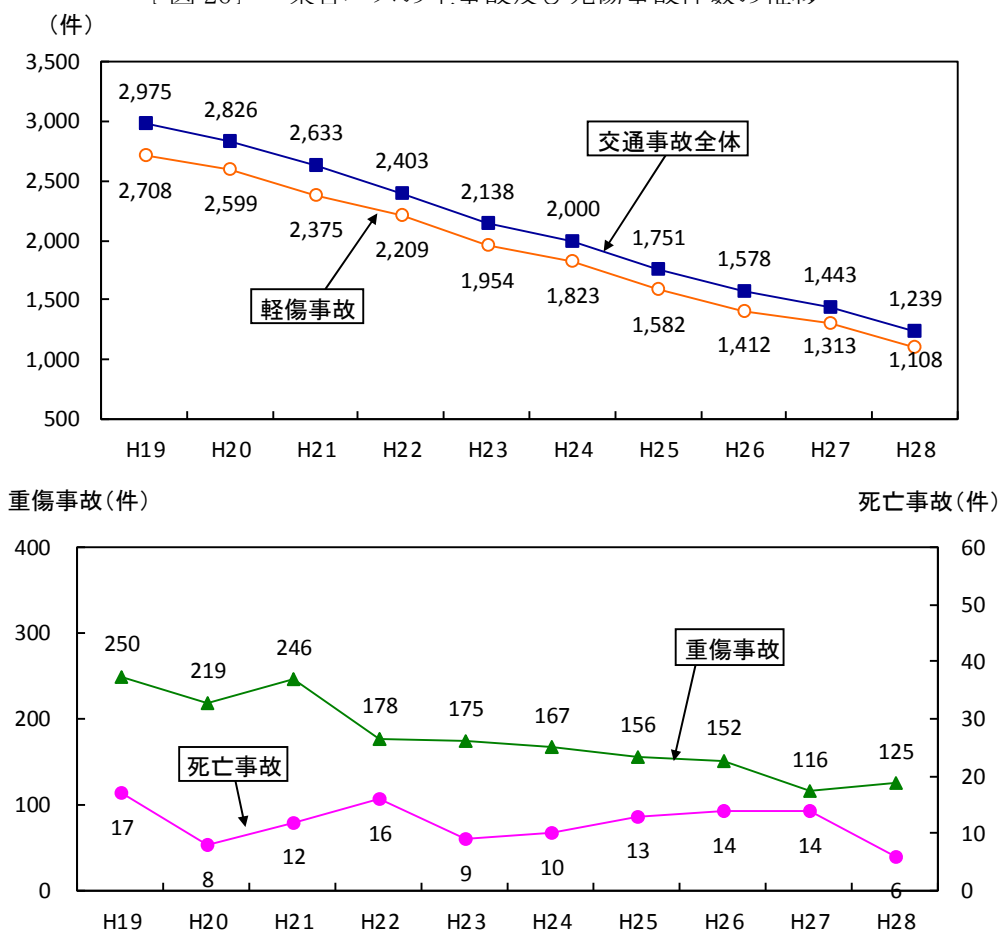
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

2-1. 乗合バスの事故

(1) 乗合バスの事故件数、死傷事故件数の推移

乗合バスによる事故は、平成 19 年以降減少傾向にあり、重傷事故件数は平成 28 年まで減少したものの平成 28 年は増加している。死亡事故件数は 6 件～17 件の間で推移しており、大きな変化はない。

〔図 26〕 乗合バスの全事故及び死傷事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 27〕 乗合バスの事故件数の推移（件）

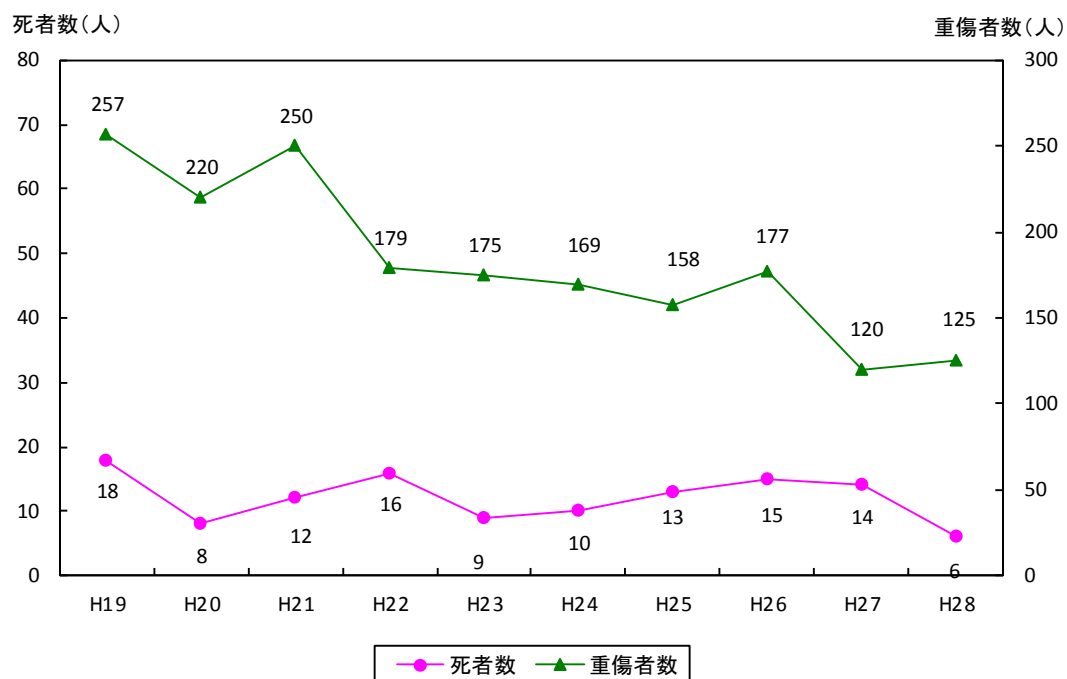
区分 年	死亡事故	重傷事故	軽傷事故	交通事故全体
H19	17	250	2,708	2,975
H20	8	219	2,599	2,826
H21	12	246	2,375	2,633
H22	16	178	2,209	2,403
H23	9	175	1,954	2,138
H24	10	167	1,823	2,000
H25	13	156	1,582	1,751
H26	14	152	1,412	1,578
H27	14	116	1,313	1,443
H28	6	125	1,108	1,239

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

（２） 乗合バス事故の死傷者数の推移

平成 28 年の乗合バスの事故のうち重傷者数は前年に比べて増加しているものの、死者数は半分以下に減少している。

〔図 27〕 乗合バス事故の死傷者数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 28〕 乗合バス事故の死傷者数の推移（人）

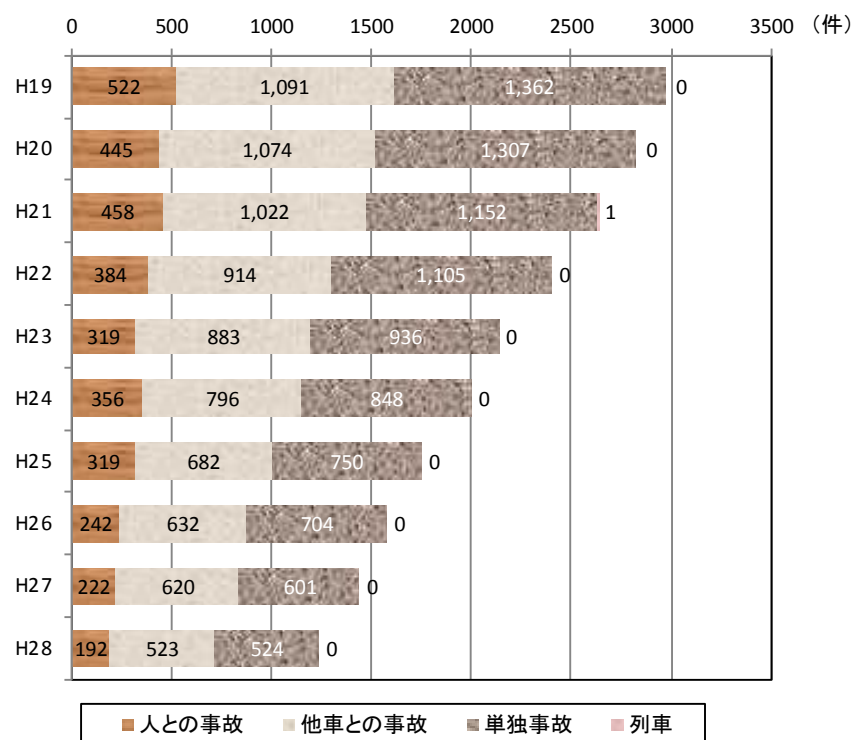
区分 年	死者数	重傷者数	軽傷者数	死傷者合計
H19	18	257	3,188	3,463
H20	8	220	3,043	3,271
H21	12	250	2,821	3,083
H22	16	179	2,653	2,848
H23	9	175	2,326	2,510
H24	10	169	2,139	2,318
H25	13	158	1,895	2,066
H26	15	177	1,741	1,933
H27	14	120	1,605	1,739
H28	6	125	1,351	1,482

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) 乗合バスの事故類型別事故件数

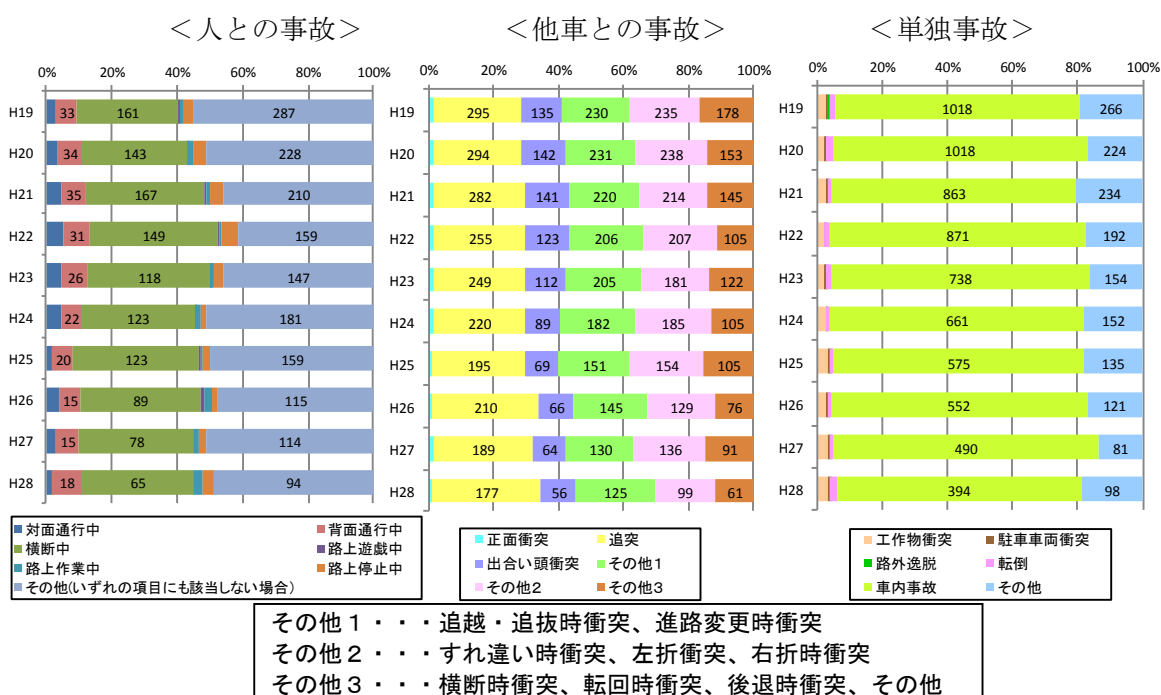
乗合バスは単独事故の比率が下がり、他車との事故と単独事故は同程度となった。単独事故の大半は車内事故が占めている。

〔図 28〕 乗合バスの事故類型別事故件数



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 29〕 乗合バスの事故類型別事故件数の内訳

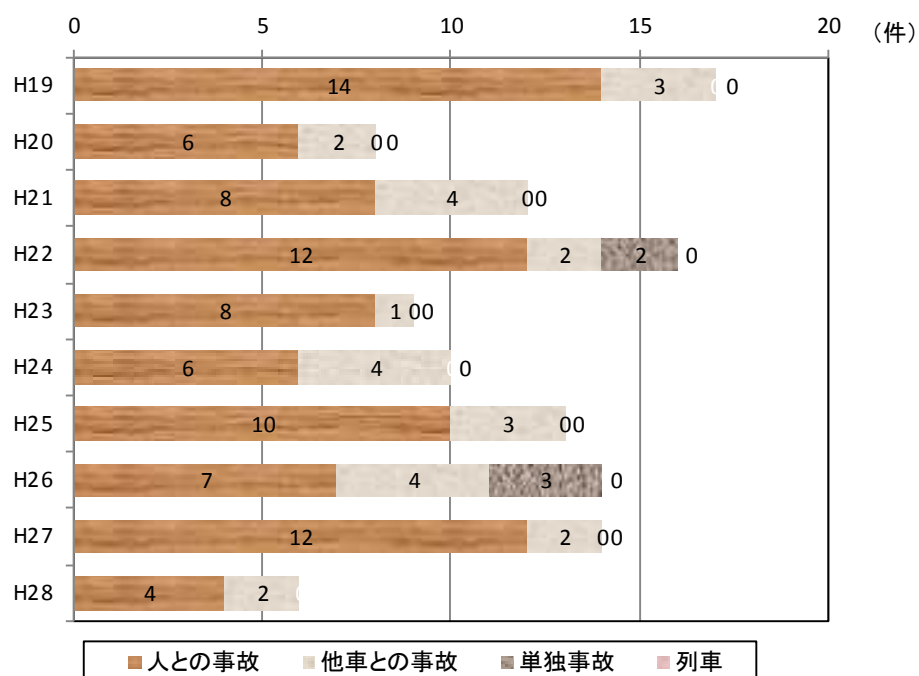


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故」

(4) 乗合バスの事故類型別死亡事故件数

事故類型別死亡事故件数は、人との事故が最も多く、次いで他車との事故。単独事故はまれで、列車との事故は近年発生していない。

〔図 30〕 乗合バスの事故類型別死亡事故件数

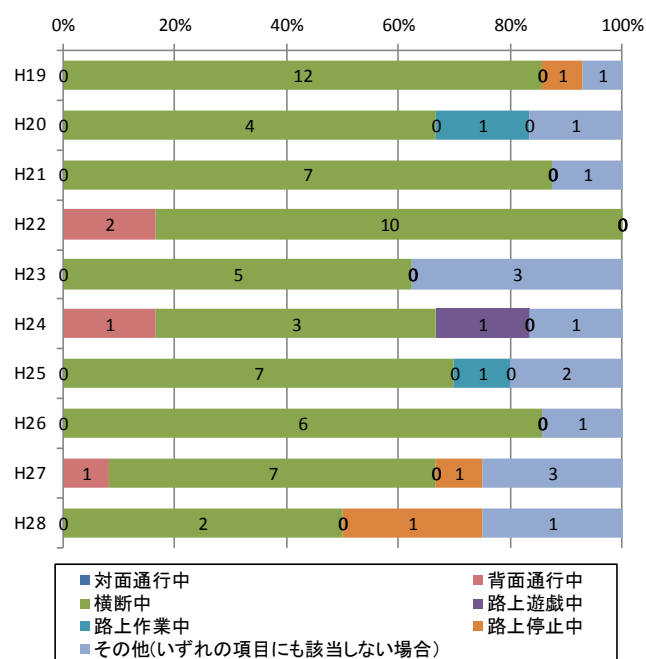


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(5) 乗合バスの事故類型別死亡事故件数の内訳（人との事故）

人との死亡事故は、歩行者が横断中に発生する件数が多い。

〔図 31〕 乗合バスの事故類型別死亡事故件数の内訳（人との事故）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(6) 乗合バスの事故類型別死亡事故件数の内訳（他車との事故）

他車との事故における死亡事故は、平成 19 年以降は 2 件～ 4 件にとどまっている。

〔表 29〕 乗合バスの事故類型別死亡事故件数の内訳（件）（他車との事故）

区分 年	正面衝突	追突	出合い頭衝突	その他1	その他2	その他3
H19	0	0	0	1	0	2
H20	0	0	0	1	1	0
H21	0	0	1	2	0	1
H22	0	0	0	1	1	0
H23	0	0	1	0	0	0
H24	1	0	2	0	1	0
H25	0	0	1	0	2	0
H26	0	1	1	0	2	0
H27	0	0	0	0	1	1
H28	0	1	0	0	1	0

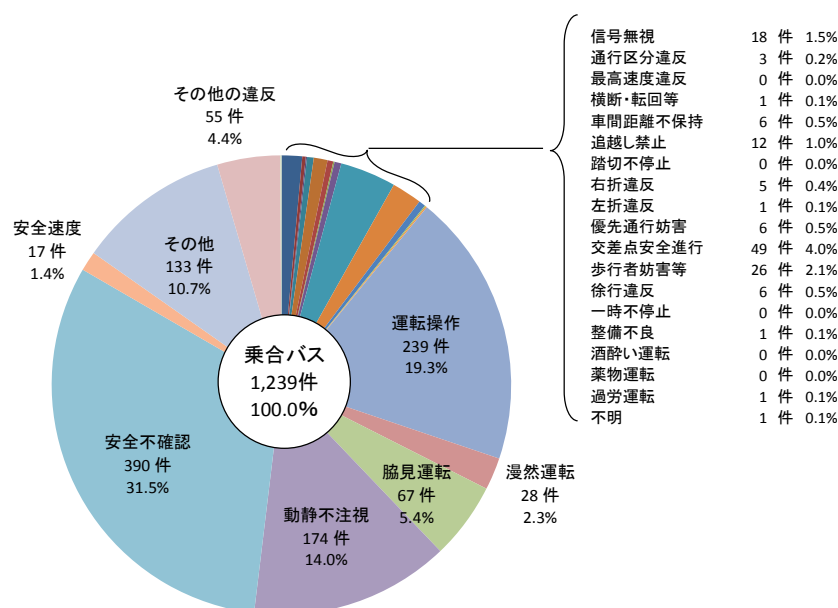
その他 1・・・追越・追抜時衝突、進路変更時衝突
 その他 2・・・すれ違い時衝突、左折衝突、右折時衝突
 その他 3・・・横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故」

(7) 乗合バスの事故の法令違反別の事故件数の割合

乗合バスでは、「安全不確認」（31.5%）、「運転操作」（19.3%）、「動静不注視」（14.0%）といった法令違反の事故が多い。「運転操作」は車内事故発生の要因の一つと考えられる。

〔図 32〕 乗合バスの事故の法令違反別の事故件数の割合（平成28年）

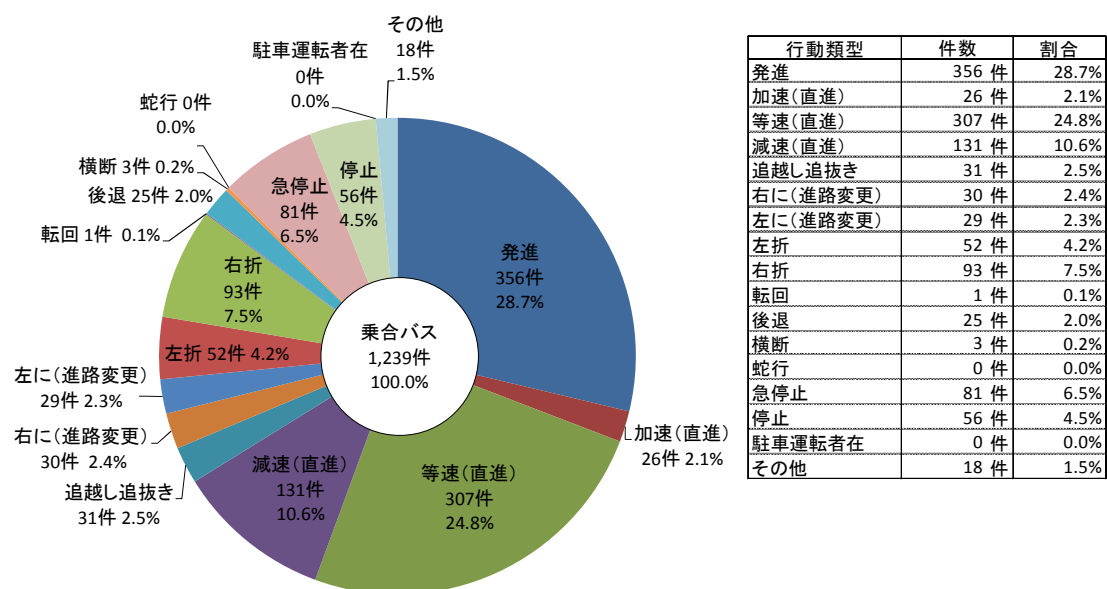


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(8) 乗合バスの行動類型別事故件数の割合

乗合バスの行動類型別事故の割合は、発進時（28.7％）が最も多く、次いで等速（24.8％）となっている。

〔図 33〕 乗合バスの行動類型別事故件数の割合（平成28年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(9) 乗合バスの事故類型別、衝突地点別事故件数

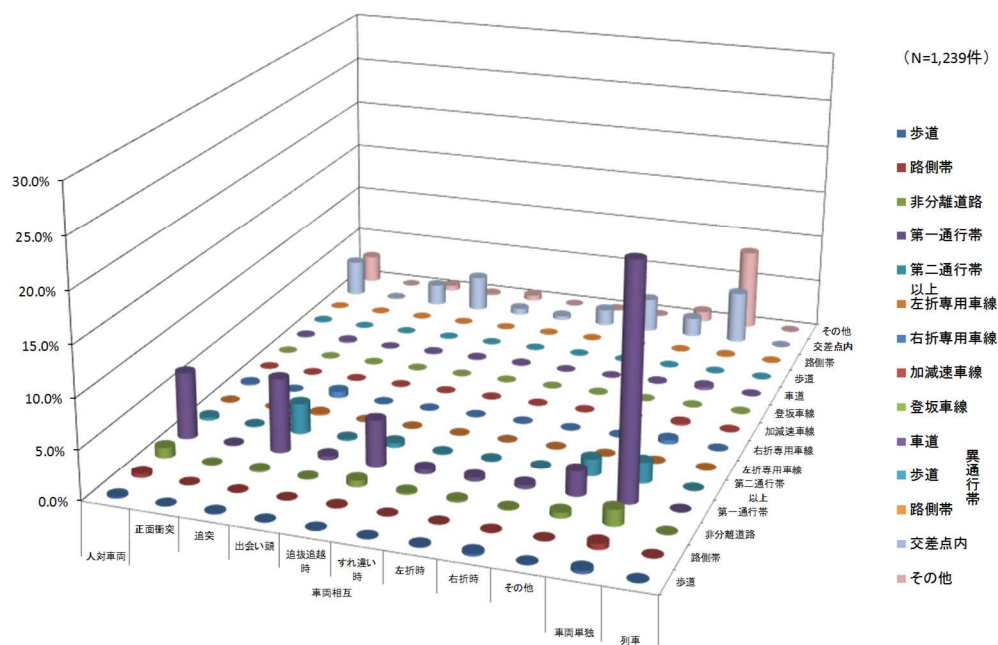
乗合バスの事故類型別、衝突地点別事故件数と構成比をそれぞれ表30、図34に、死亡事故件数と構成比を表31、図35に示す。事故件数については、第一通行帯での単独事故（286件、23.1%）が最も多く、死亡事故件数については、件数が少ないため、大きな特徴は見られない。

〔表 30〕 乗合バスの事故類型別、衝突地点別事故件数（件）（平成28年）

		バス												
		乗合												
		人対車両	車両相互							車両単独	列車	合計		
正面衝突	追突		出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他						
単路（交差点付近を含む）	歩道	2	0	1	0	0	0	1	3	0	4	0	11	
	路側帯	5	0	0	0	1	0	0	0	0	7	0	13	
	非分離道路	13	0	2	1	8	2	2	1	7	20	0	56	
	第一通行帯	83	1	92	5	58	6	5	5	31	286	0	572	
	第二通行帯以上	4	1	38	2	6	1	1	1	21	26	0	101	
	左折専用車線	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
	右折専用車線	2	0	8	0	0	0	0	0	0	5	0	15	
	加減速車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	
	登坂車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	異通行帯	車道	1	2	0	1	1	1	0	0	1	4	0	11
		歩道	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		路側帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
交差点内		46	1	27	45	8	5	21	43	24	66	0	286	
その他		35	0	7	2	7	0	1	0	13	103	0	168	
合計		192	5	177	56	89	15	31	53	97	524	0	1,239	

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 34〕 乗合バスの事故類型別、衝突地点別事故件数の構成比（%）（平成 28 年）



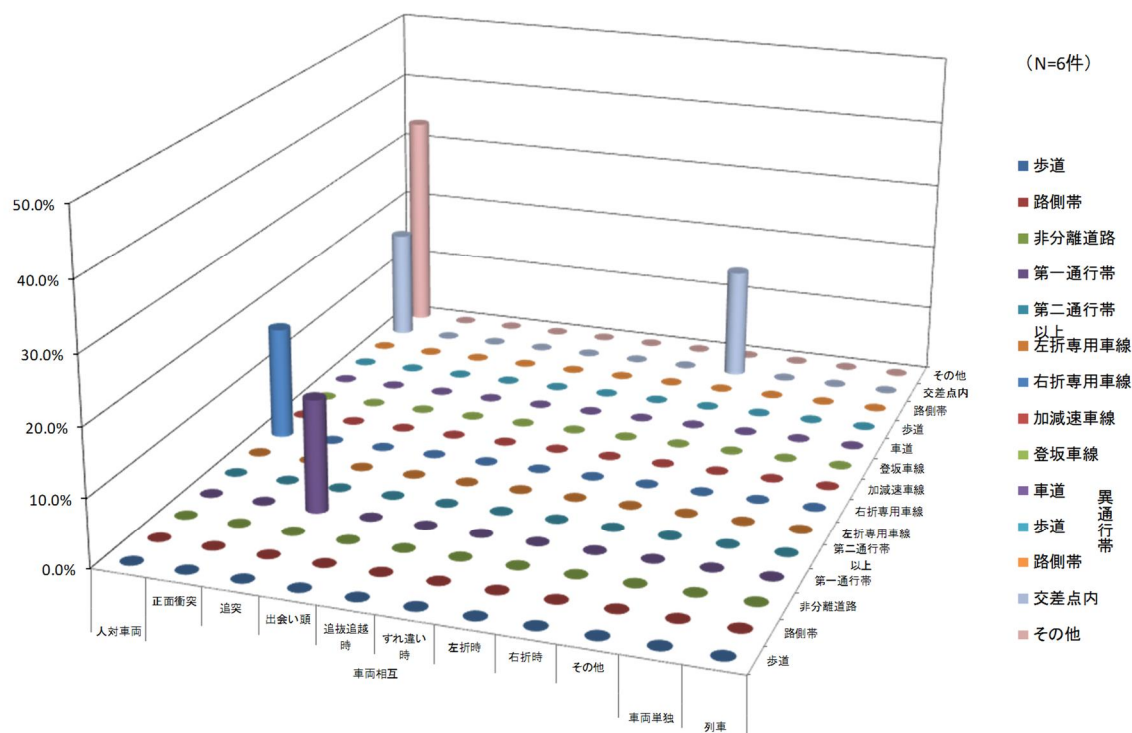
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 31〕 乗合バスの事故類型別、衝突地点別死亡事故件数（件）（平成28年）

			バス										
			乗合										
			人対車両	車両相互							車両単独	列車	合計
正面衝突	追突	出会い頭		追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他					
単路 （交差点付近を含む）	歩道		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	路側帯		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	非分離道路		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	第一通行帯		0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	第二通行帯以上		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	左折専用車線		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	右折専用車線		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	加減速車線		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	登坂車線		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	異通行帯	車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		歩道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
路側帯		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
交差点内			1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
その他			2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
合計			4	0	1	0	0	0	1	0	0	0	6

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 35〕 乗合バスの事故類型別、衝突地点別死亡事故件数の構成比（％）（平成28年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(10) 乗合バスの事故類型別、行動類型別事故件数

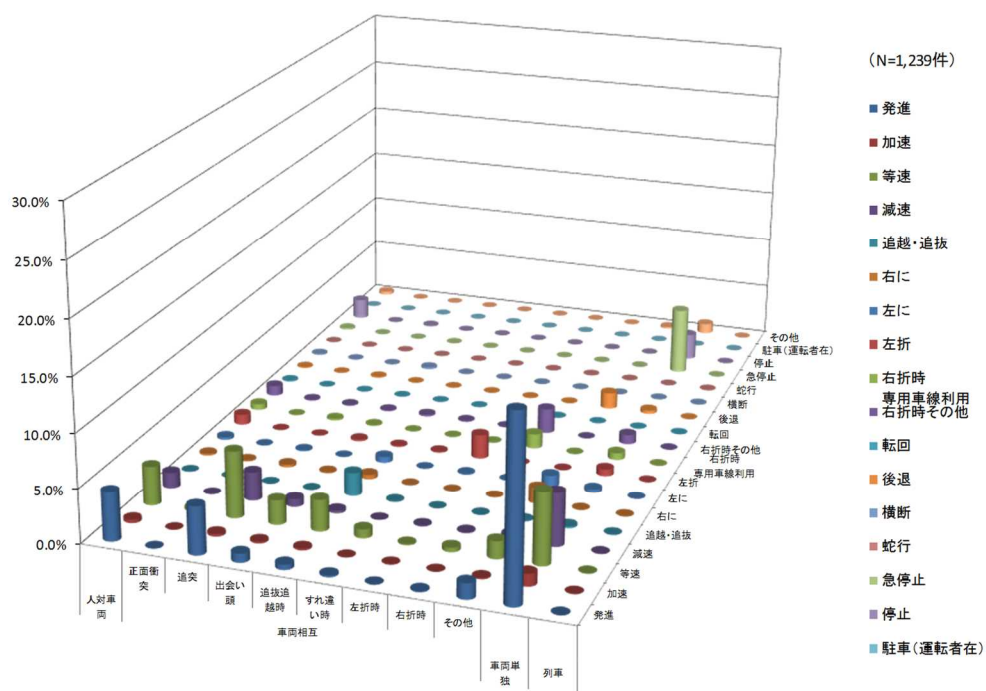
乗合バスの事故類型別、行動類型別事故件数と構成比をそれぞれ表32と図36に、死亡事故件数とその構成比を表33と図37に示す。事故件数については、発進時の単独事故（208件、16.8%）が最も多く、死亡事故件数については、大きな特徴は見られない。

〔表 32〕 乗合バスの事故類型別、行動類型別事故件数（件）（平成28年）

		バス											
		乗合											
		人対車両	車両相互							車両単独	列車	合計	
正面衝突	追突		出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他					
発進		56	0	55	10	6	2	0	1	18	208	0	356
直進	加速	4	0	3	2	2	0	0	0	1	14	0	26
	等速	45	3	77	28	36	10	1	5	20	82	0	307
	減速	18	0	33	9	3	0	1	1	5	61	0	131
追越・追抜		0	0	0	0	27	1	0	0	1	2	0	31
進路変更	右に	2	1	3	1	5	0	0	0	18	0	0	30
	左に	3	0	1	0	7	0	1	0	13	4	0	29
左折		12	0	0	2	1	1	28	0	0	8	0	52
右折時	専用車線利用	7	0	2	1	0	0	0	17	0	8	0	35
	その他	12	1	1	1	2	1	0	29	0	11	0	58
転回		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
後退		1	0	1	0	0	0	0	0	19	4	0	25
横断		1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	3
蛇行		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
急停止		2	0	0	0	0	0	0	0	0	79	0	81
停止		24	0	1	0	0	0	0	0	0	31	0	56
駐車(運転者在)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		4	0	0	0	0	0	0	0	2	12	0	18
合計		192	5	177	56	89	15	31	53	97	524	0	1,239

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 36〕 乗合バスの事故類型別、行動類型別事故件数の構成比（%）（平成28年）



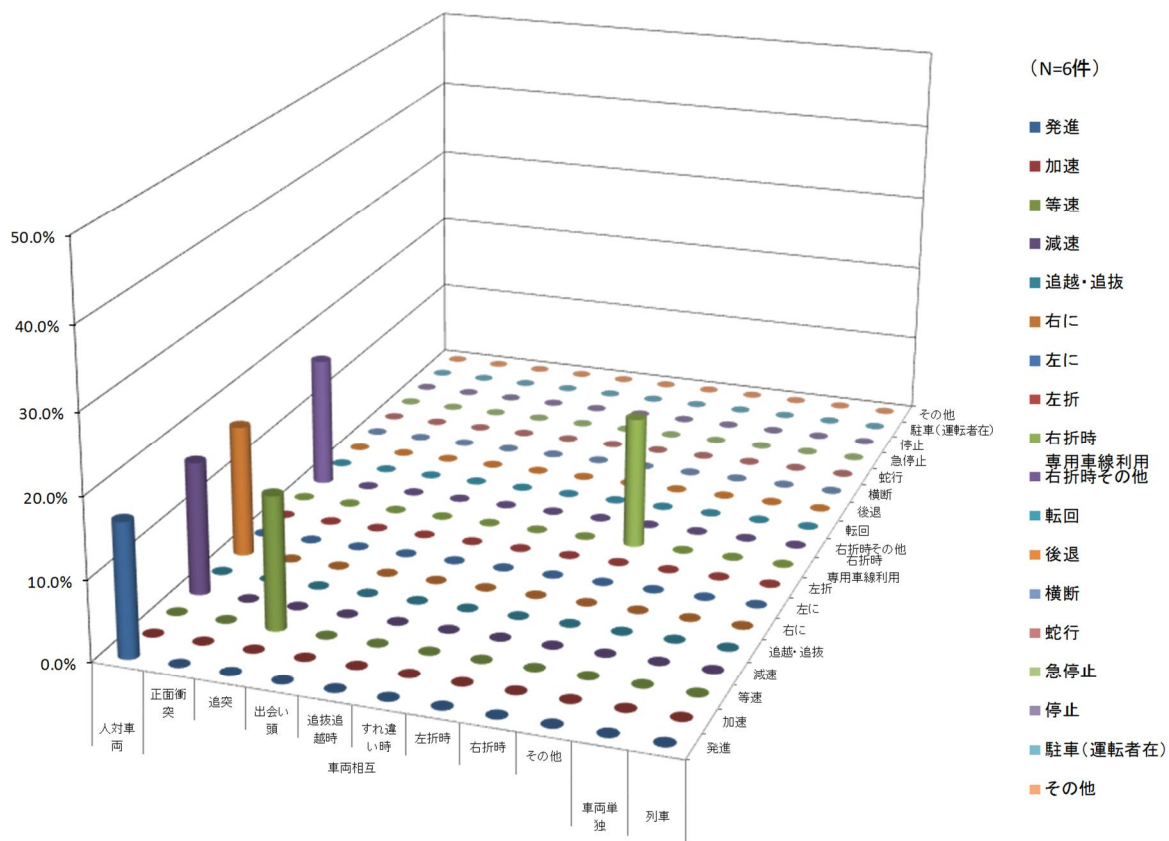
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 33〕 乗合バスの事故類型別、行動類型別死亡事故件数（件）（平成28年）

		バス											
		乗合											
		人対車両	車両相互								車両単独	列車	合計
			正面衝突	追突	出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他			
発進		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
直進	加速	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	等速	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	減速	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
追越・追抜		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
進路変更	右に	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	左に	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
左折		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右折時	専用車線利用	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	その他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
転回		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
後退		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
横断		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
蛇行		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
急停止		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
停止		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
駐車（運転者在）		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		4	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	6

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 37〕 乗合バスの事故類型別、行動類型別死亡事故件数の構成比（％）（平成28年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(11) 乗合バスの行動類型別、車内事故件数の推移

乗合バスの車内事故件数は、平成18年まで増加傾向にあったが、平成22年を除いて、それ以降は減少している。平成28年は前年と比べて約100件減少し394件となった。平成19年から約10年で4割以下まで下がったが、事故件数は依然深刻な事態であることを示している。

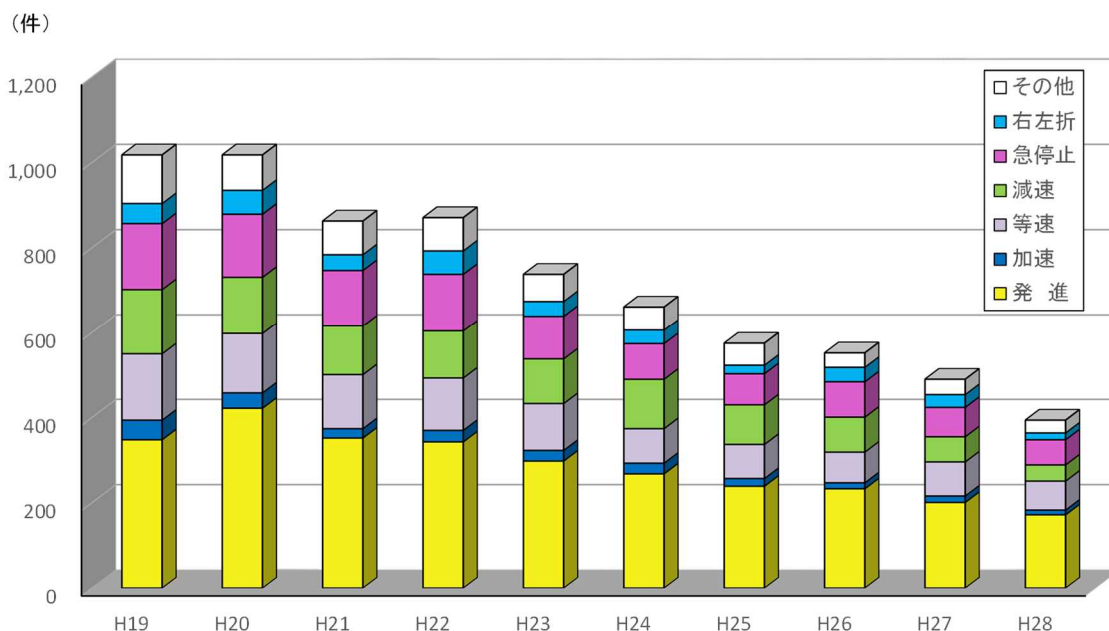
また、平成28年に発生した車内事故394件のうち、行動類型別にみると、やはり発進時が最も多く172件(43.7%)となっており、次いで直進(等速)時68件(17.3%)、急停止時59件(15.0%)となっている。

〔表 34〕 乗合バスの行動類型別、車内事故件数の推移 (件)

年 区分		H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
発 進		348	422	352	343	298	268	239	233	201	172
直 進	加速	46	36	22	27	25	25	18	14	15	11
	等速	156	140	127	123	110	81	80	72	80	68
	減速	152	133	115	111	105	116	93	82	59	38
急停止		155	148	131	134	101	84	73	83	69	59
右左折		47	56	37	55	35	32	20	34	30	16
その他		114	83	79	78	64	55	52	34	36	30
合 計		1,018	1,018	863	871	738	661	575	552	490	394

出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 38〕 乗合バスの行動類型別、車内事故件数の推移

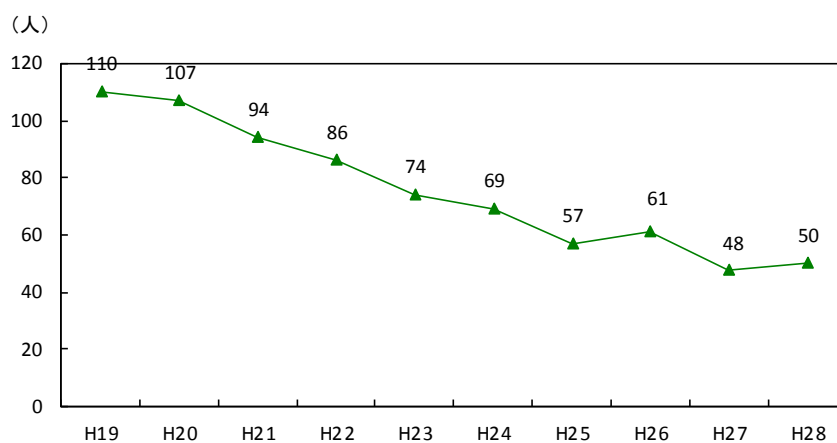


出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(12) 乗合バスの車内事故による重傷者数の推移

乗合バスの車内事故による重傷者数は、平成28年は前年と比べて2人増加している。

〔図 39〕 乗合バスの車内事故による重傷者数の推移

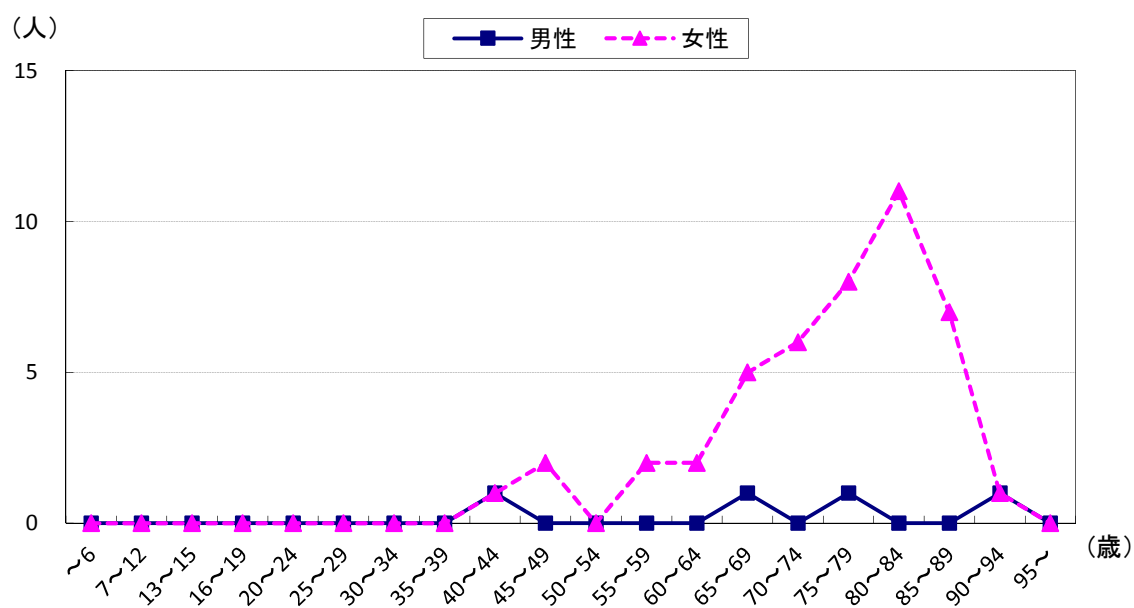


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(13) 乗合バスの車内事故による重傷者数の男女別年齢分布

乗合バスの車内事故による重傷者数を性・年齢別にみると、女性の65歳以上から多くなり、80歳～84歳が11人と最も多く前年と同様の傾向である。

〔図 40〕 乗合バスの車内事故による重傷者数の男女別年齢分布（平成28年）

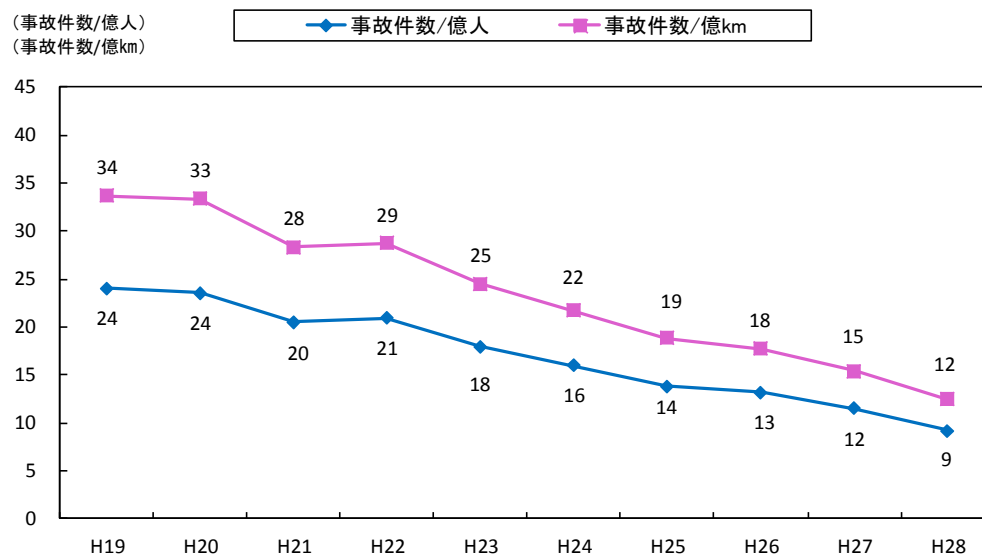


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(14) 乗合バスの 輸送人員 1 億人あたり及び走行距離 1 億キロあたり車内事故件数

輸送人員 1 億人あたり及び走行距離 1 億キロあたり乗合バスの車内事故件数をみると、平成19年以降、減少傾向である。輸送人員と走行距離にはほぼ変化がないことから、車内事故件数自体が減っていることを示している。

〔図 41〕 乗合バスの輸送人員 1 億人あたり及び走行距離 1 億キロあたり車内事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

〔表 35〕 乗合バスの車内事故件数、輸送人員及び走行距離の推移

	事故件数(件)	輸送人員(億人)	走行距離(億km)
H19	1,018	42	30
H20	1,018	43	31
H21	863	42	30
H22	871	42	30
H23	738	41	30
H24	661	41	30
H25	575	42	31
H26	552	42	31
H27	490	43	32
H28	394	43	32

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

(15) 乗合バスの車内事故件数の事故種類別時間帯分布

乗合バスの車内事故件数を時間帯別にみると、8時～17時台の日中の時間帯に多く発生している。

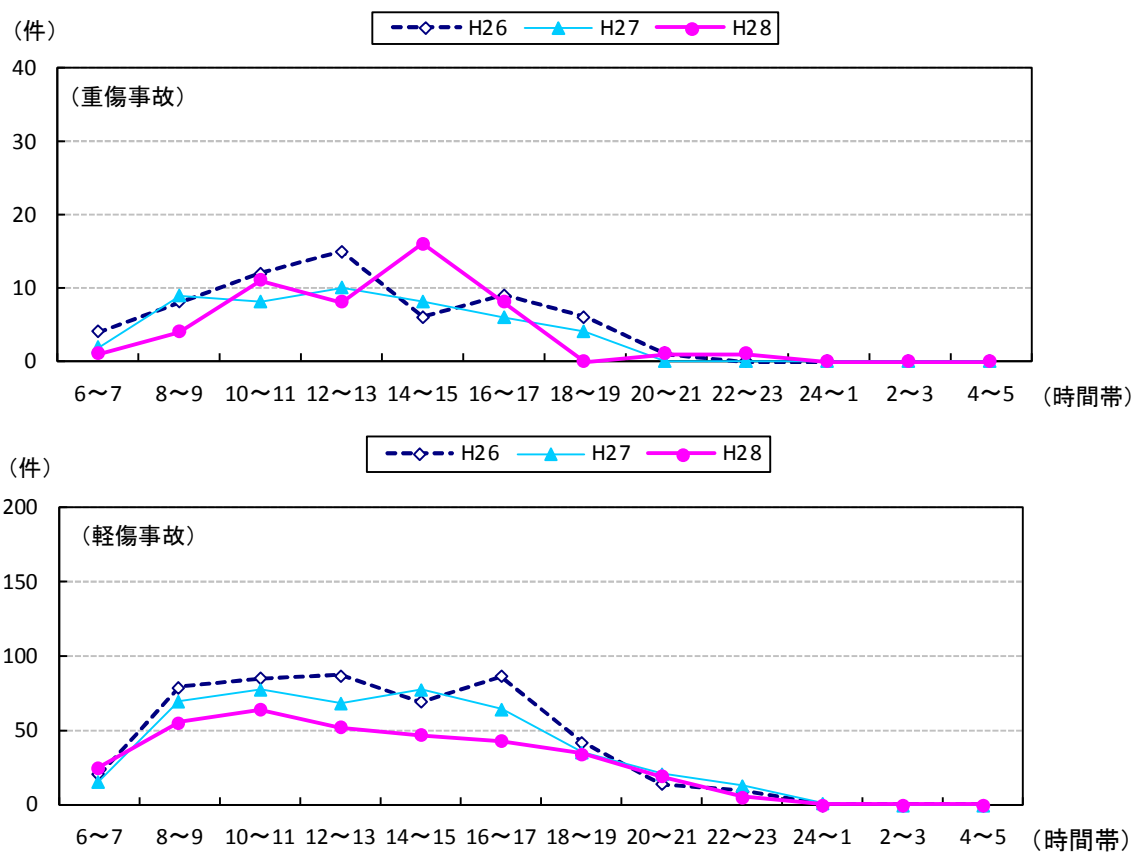
〔表 36〕 乗合バス車内事故件数の事故種類別時間帯分布（平成28年）

時間帯	重傷事故	軽傷事故	負傷事故計
6～7	1	25	26
8～9	4	55	59
10～11	11	64	75
12～13	8	52	60
14～15	16	47	63
16～17	8	43	51
18～19	0	34	34
20～21	1	19	20
22～23	1	5	6
24～1	0	0	0
2～3	0	0	0
4～5	0	0	0
合計	50	344	394

※運転者が負傷した事故を含む。

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 42〕 乗合バス車内事故件数の事故種類別時間帯分布



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(16) 乗合バスの車内事故による事故種別別負傷者数の年齢分布

乗合バスの車内事故による負傷者数を年齢層別にみると、75歳～79歳が最も多く、65歳以上が221人（50%）と高齢者が過半数を占めている。

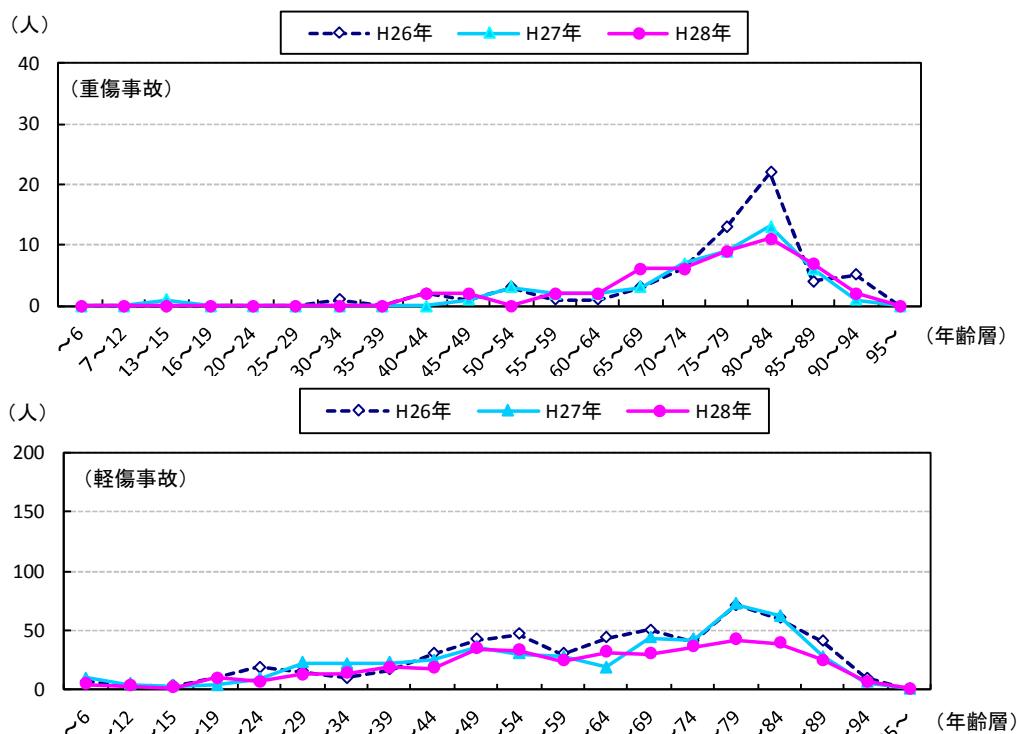
さらに重傷者数は65歳以上が49人中41人（84%）で、やはり高齢者の比率の高さが顕著となっている。

〔表 37〕 乗合バスの車内事故による事故種別別負傷者数の年齢分布（人）（平成28年）

年齢層	重傷者数	軽傷者数	負傷者計
～ 6	0	5	5
7～12	0	3	3
13～15	0	2	2
16～19	0	10	10
20～24	0	7	7
25～29	0	13	13
30～34	0	14	14
35～39	0	19	19
40～44	2	18	20
45～49	2	35	37
50～54	0	33	33
55～59	2	24	26
60～64	2	32	34
65～69	6	30	36
70～74	6	36	42
75～79	9	42	51
80～84	11	39	50
85～89	7	25	32
90～94	2	7	9
95～	0	1	1
合計	49	395	444

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 43〕 乗合バスの車内事故による事故種別別負傷者数の年齢分布



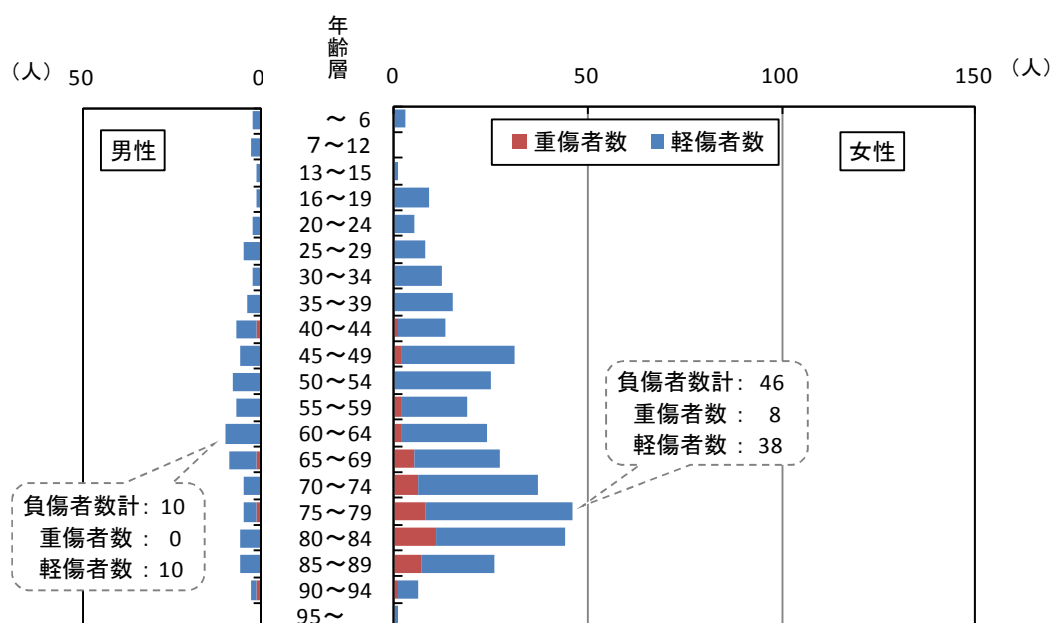
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

乗合バスの車内事故による負傷者数を男女年齢層別にみると、男性は60歳～64歳が多く、65歳以上が34人（37.0%）と高齢者が多い傾向にある。

女性では75歳～79歳が46人（13.1%）と最も多く（うち重傷者数は8人）、65歳以上が187人（53.1%）とやはり高齢者が過半数を占めている。

また、性別では男性より女性の負傷者数が大幅に多く、女性の負傷者数が男性の負傷者数の4倍近くとなっている。

〔図 44〕 乗合バスの車内事故による男女別年齢層別負傷者数（平成28年）



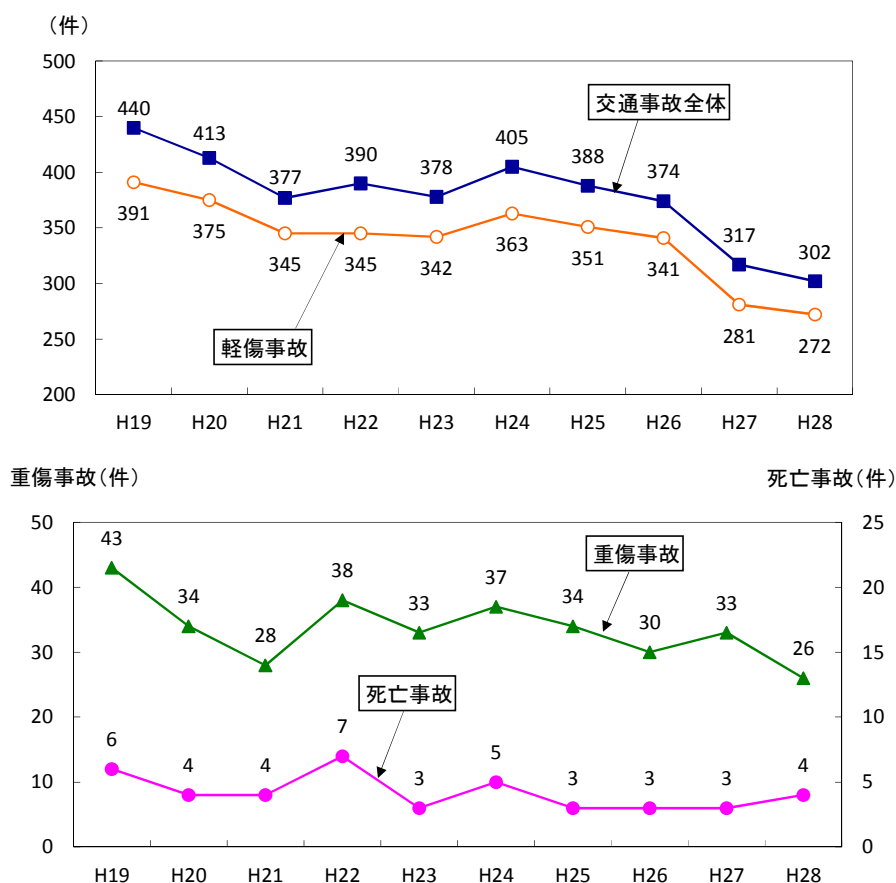
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

2-2. 貸切バスの事故

(1) 貸切バスの事故件数、死傷事故件数の推移

平成21年以降、大きな減少は見られなかったが、平成27年に軽傷事故が60件減少し、交通事故全体の件数は平成26年より大幅に減少した。平成28年は前年に比べて若干減少した。また、重傷事故件数も前年より減少した。

〔図 45〕 貸切バスの全事故及び死傷事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 38〕 貸切バスの事故件数（件）

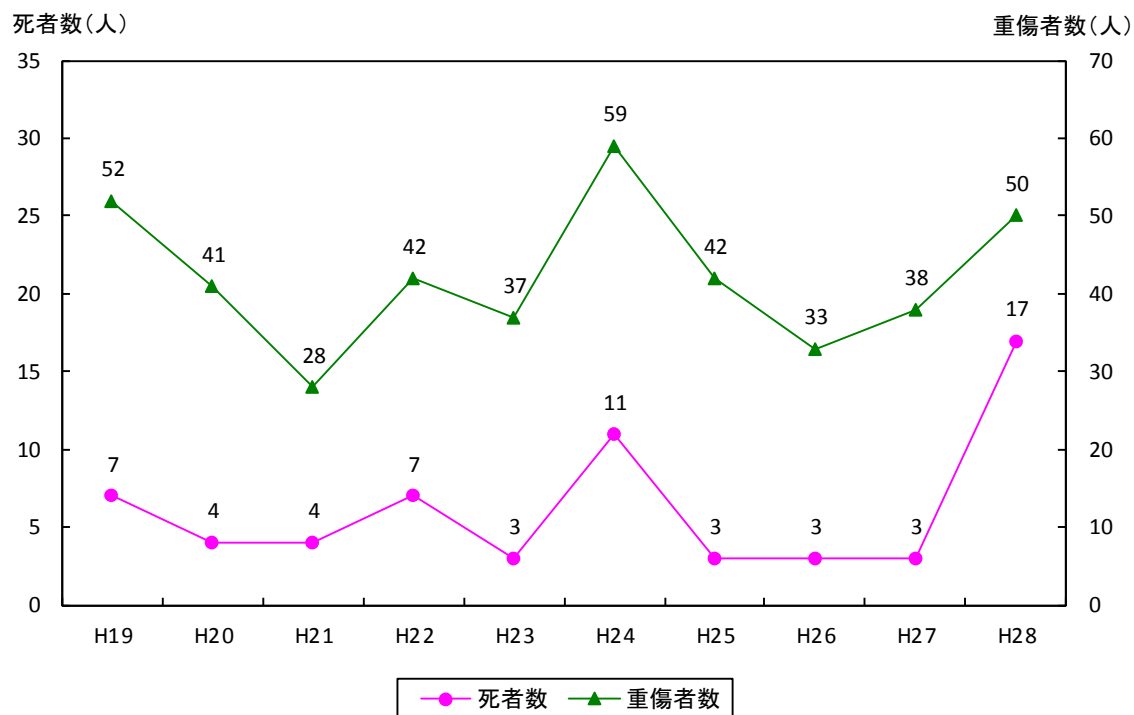
区分 年	死亡事故	重傷事故	軽傷事故	交通事故全体
H19	6	43	391	440
H20	4	34	375	413
H21	4	28	345	377
H22	7	38	345	390
H23	3	33	342	378
H24	5	37	363	405
H25	3	34	351	388
H26	3	30	341	374
H27	3	33	281	317
H28	4	26	272	302

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

（２） 貸切バスの事故の死傷者数の推移

貸切バスの事故の死傷者数は、平成24年以降平成26年まで減少していたものの、平成27年から増加に転じ、平成28年は軽井沢スキーバス事故の影響もあり、大きく増加している。

〔図 46〕 貸切バス事故の死傷者数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 39〕 貸切バス事故の死傷者数の推移（人）

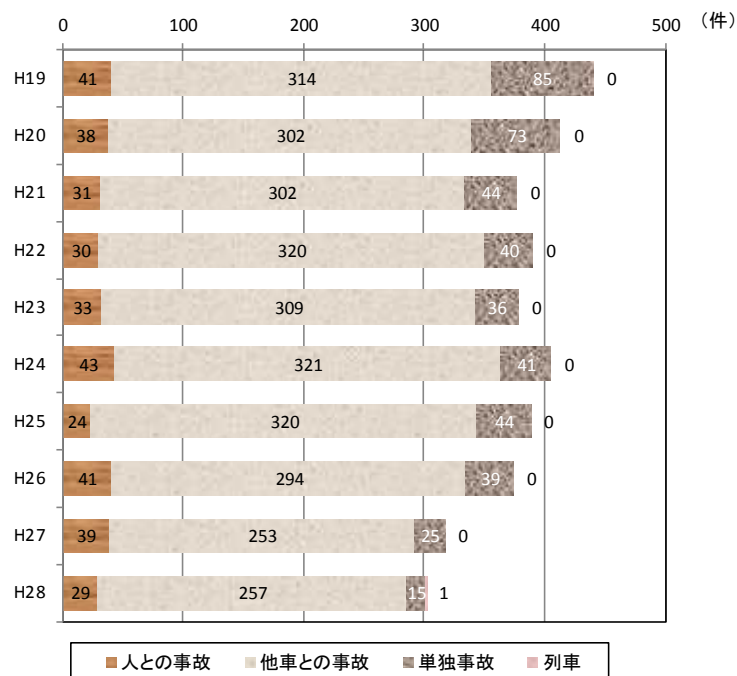
区分 年	死者数	重傷者数	軽傷者数	死傷者合計
H19	7	52	798	857
H20	4	41	698	743
H21	4	28	545	577
H22	7	42	555	604
H23	3	37	633	673
H24	11	59	655	725
H25	3	42	700	745
H26	3	33	587	623
H27	3	38	524	565
H28	17	50	558	625

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) 貸切バスの事故類型別事故件数の推移

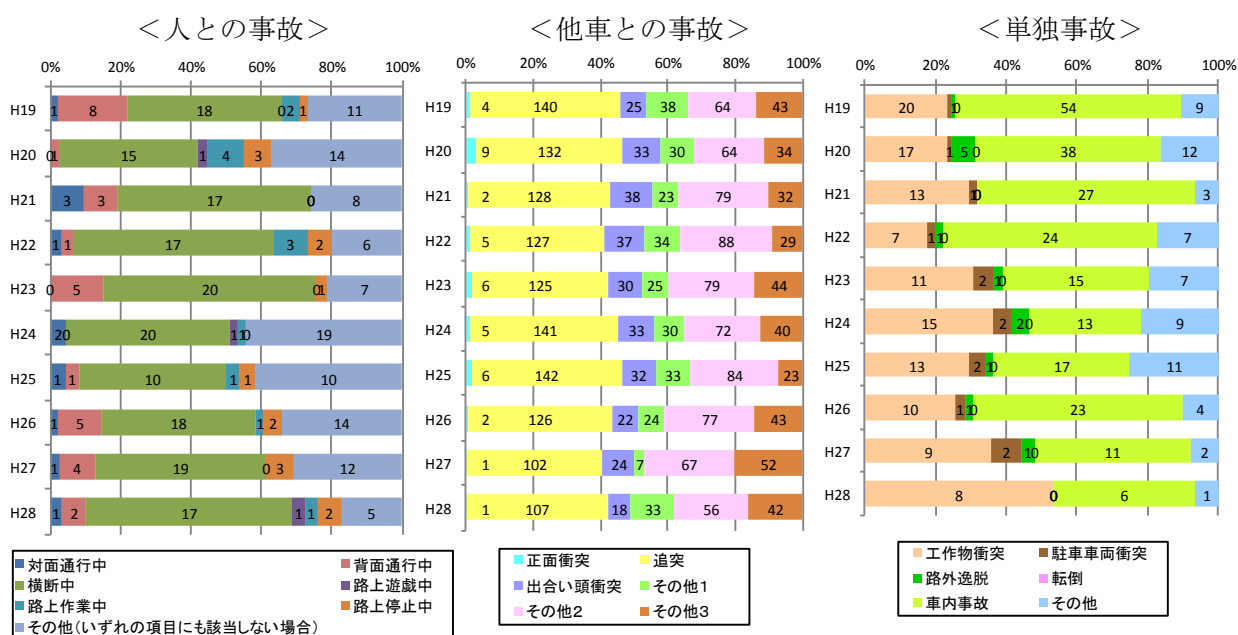
貸切バスの事故の類型別件数は、他車との事故が約 8 割と圧倒的に多い。他車との事故のうち追突事故が約 4 割を占めている。

〔図 47〕 貸切バスの事故類型別事故件数



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 48〕 貸切バスの事故類型別事故件数の内訳の推移



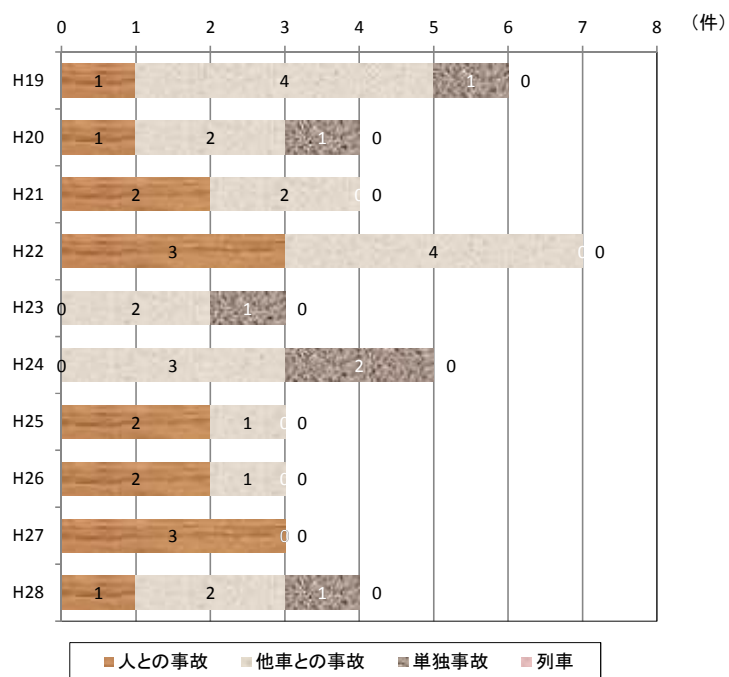
その他 1・・・追越・追抜時衝突、進路変更時衝突
 その他 2・・・すれ違い時衝突、左折衝突、右折時衝突
 その他 3・・・横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(4) 貸切バスの事故類型別死亡事故件数の推移

平成28年の事故類型別死亡事故件数は、人との事故1件、他車との事故2件、単独事故1件であった。

〔図 49〕 貸切バスの事故類型別死亡事故件数



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(5) 貸切バスの事故類型別死亡事故件数の内訳の推移（他車との事故）

他車との事故の事故類型別内訳には、顕著な傾向はみられない。

〔表 40〕 貸切バスの事故類型別死亡事故件数の内訳の推移（件）（他車との事故）

区分 年	正面衝突	追突	出合い頭衝突	その他1	その他2	その他3
H19	0	1	1	2	0	0
H20	1	0	0	0	1	0
H21	0	0	1	0	1	0
H22	1	0	2	1	0	0
H23	0	1	1	0	0	0
H24	0	1	0	0	1	1
H25	0	1	0	0	0	0
H26	0	0	1	0	0	0
H27	0	0	0	0	0	0
H28	0	0	0	1	1	0

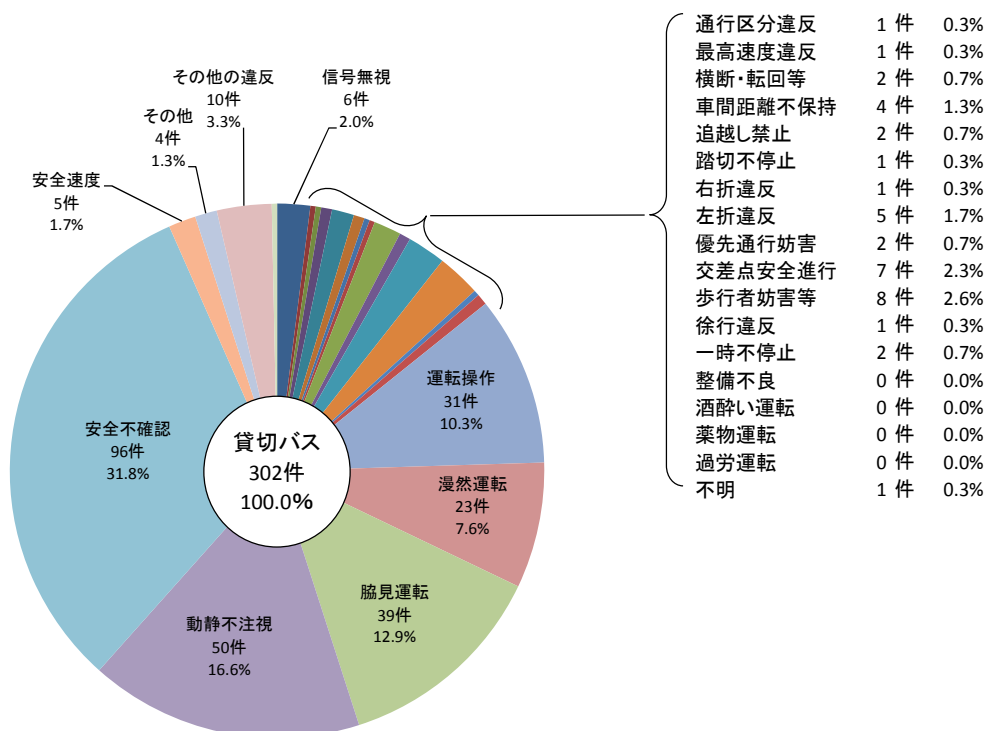
その他1・・・追越・追抜時衝突、進路変更時衝突
 その他2・・・すれ違い時衝突、左折衝突、右折時衝突
 その他3・・・横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(6) 貸切バスの事故の法令違反別の事故件数の割合

貸切バスの法令違反別の事故件数をみると、「安全不確認」(31.8%)、「動静不注視」(16.6%)、「脇見運転」(12.9%) などが多くなっている。

〔図 50〕 貸切バスの事故の法令違反別の事故件数の割合（平成28年）

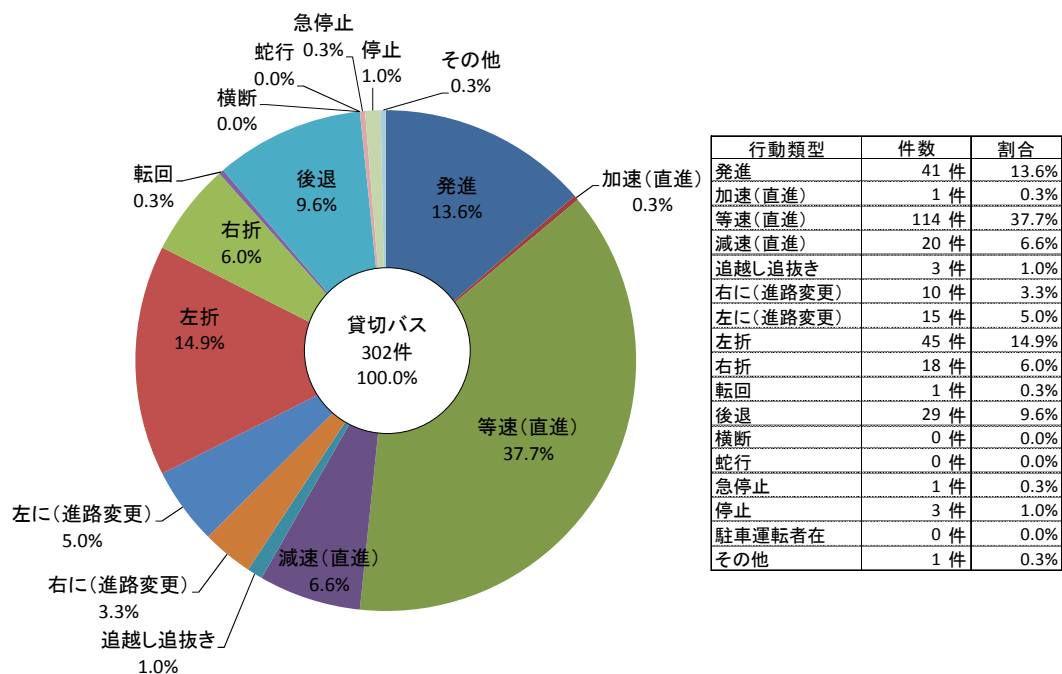


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(7) 貸切バスの行動類型別事故件数の割合

貸切バスの行動類型別事故件数の割合をみると、等速（直進）時（37.7%）が最も多く、次いで左折時（14.9%）、発進時（13.6%）となっている。

〔図 51〕 貸切バスの行動類型別事故件数の割合（平成28年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(8) 貸切バスの事故類型別、衝突地点別事故件数

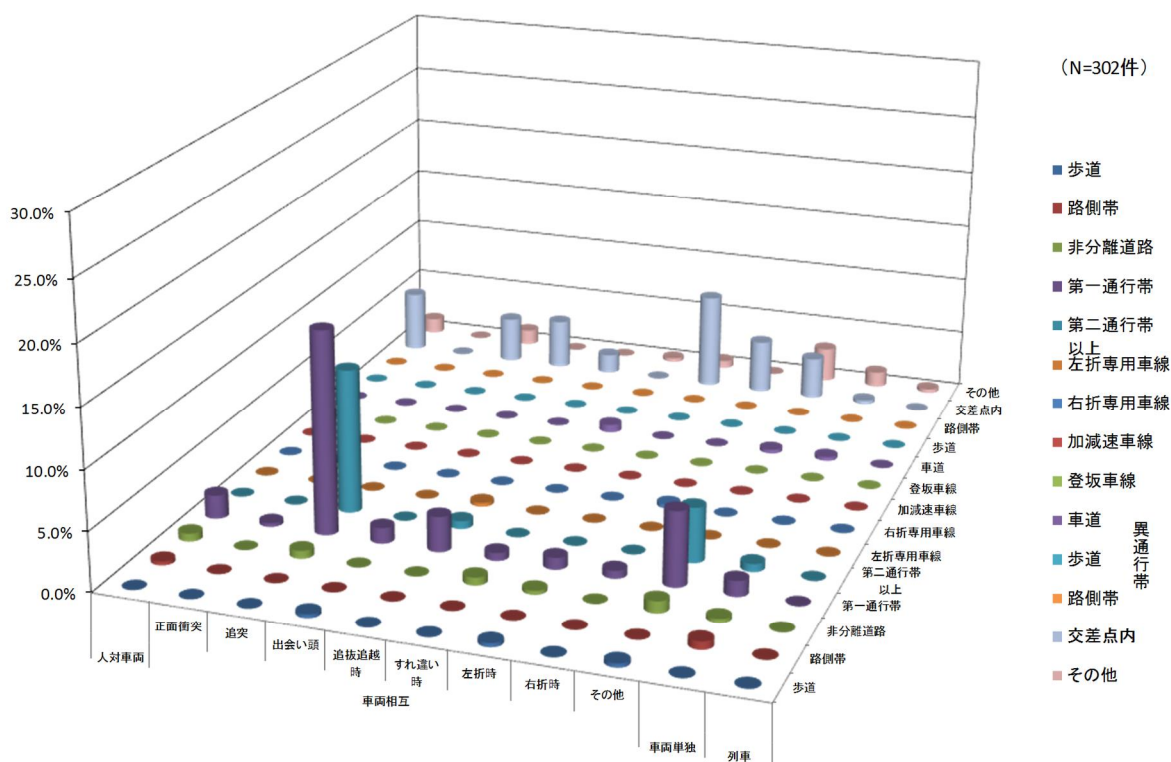
貸切バスの事故類型別、衝突地点別事故件数と構成比を表41と図52に、死亡事故件数と構成比を表42と図53に示す。事故件数については、第一通行帯での追突事故（52件、17.2%）が最も多く、死亡事故件数については、それぞれ各1件であり、顕著な特徴は見られない。

〔表 41〕 貸切バスの事故類型別、衝突地点別事故件数（件）（平成28年）

		バス											
		貸切											
		人対車両	車両相互								車両単独	列車	合計
			正面衝突	追突	出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他			
単路（交差点付近を含む）	歩道	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	3
	路側帯	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	3
	非分離道路	2	0	2	0	0	2	1	0	3	1	0	11
	第一通行帯	6	1	52	4	9	2	3	2	19	4	0	102
	第二通行帯以上	0	0	37	0	2	0	0	0	14	2	0	55
	左折専用車線	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	右折専用車線	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	加減速車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	登坂車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	異通行帯	0	0	0	0	0	2	0	0	1	1	0	4
	車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	歩道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	路側帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交差点内		16	0	12	13	5	0	25	14	11	1	0	97
その他		4	0	4	0	0	1	2	0	9	4	1	25
合計		29	1	107	18	17	7	32	17	58	15	1	302

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 52〕 貸切バスの事故類型別、衝突地点別事故件数の構成比（%）（平成 28 年）



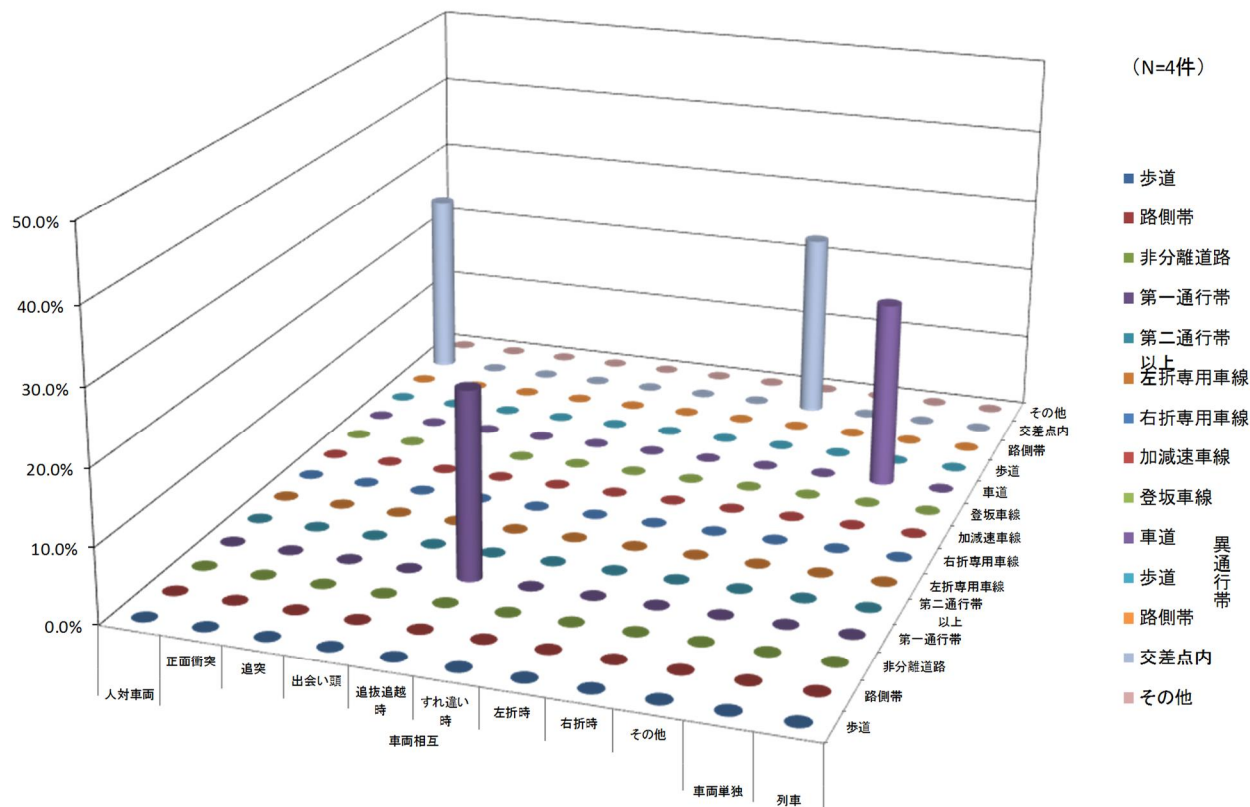
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 42〕 貸切バスの事故類型別、衝突地点別死亡事故件数（件）（平成28年）

		バス										
		貸切										
		人対車両	車両相互								車両単独	列車
正面衝突	追突		出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他				
単路（交差点付近を含む）	歩道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	路側帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	非分離道路	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	第一通行帯	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	第二通行帯以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	左折専用車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	右折専用車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	加減速車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	登坂車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	異通行帯	車道	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
歩道		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
路側帯		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交差点内		1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		1	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 53〕 貸切バスの事故類型別、衝突地点別死亡事故件数の構成比（％）（平成28年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(9) 貸切バスの事故類型別、行動類型別事故件数

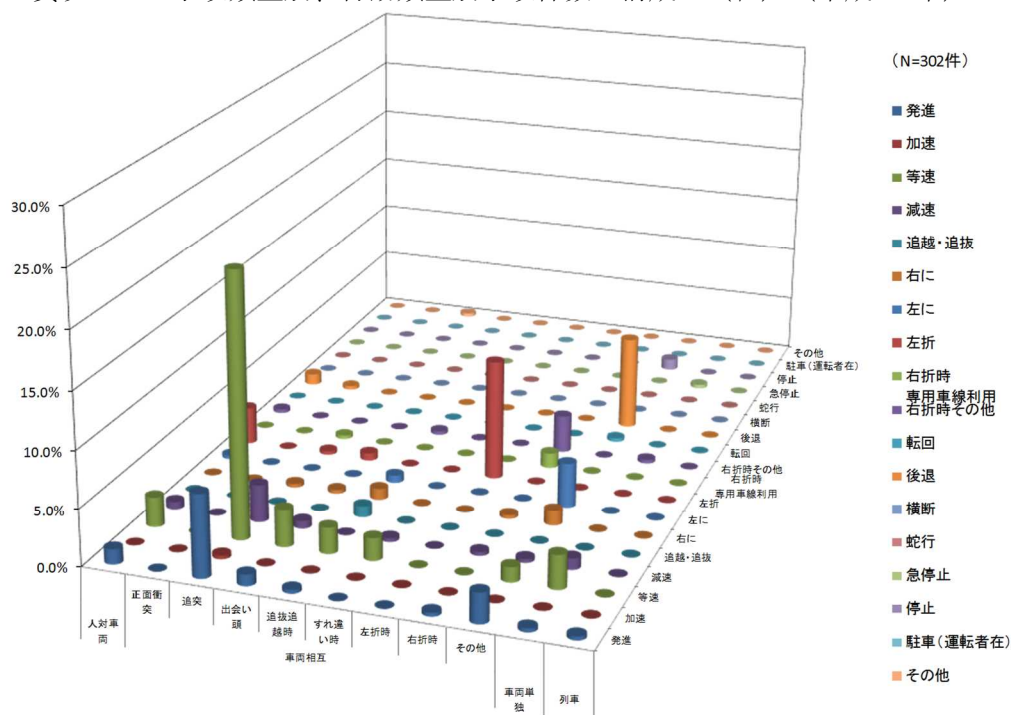
貸切バスの事故類型別、行動類型別事故件数と構成比をそれぞれ表43と図54に、死亡事故件数と構成比を表44と図55に示す。事故件数については、等速直進時の追突事故(70件、23.2%)が最も多く、死亡事故件数については、それぞれ各1件であり顕著な特徴は見られない。

〔表 43〕 貸切バスの事故類型別、行動類型別事故件数(件) (平成28年)

		貸切										
		人対車両	車両相互							車両単独	列車	合計
			正面衝突	追突	出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時			
発進		4	0	22	3	1	0	0	1	8	1	41
直進	加速	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	等速	8	0	70	10	7	6	0	0	4	9	114
	減速	2	0	10	2	0	1	0	1	1	3	20
	追越・追抜	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3
進路変更	右に	0	0	1	1	3	0	0	1	4	0	10
	左に	1	0	0	0	2	0	0	0	12	0	15
左折		10	0	1	2	0	0	32	0	0	0	45
右折時	専用車線利用	0	0	1	0	0	0	0	4	0	0	5
	その他	1	0	0	0	1	0	0	10	0	1	13
転回		0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
後退		3	1	0	0	0	0	0	0	25	0	29
横断		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
蛇行		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
急停止		0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
停止		0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3
駐車(運転者在)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
合計		29	1	107	18	17	7	32	17	58	1	302

出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 54〕 貸切バスの事故類型別、行動類型別事故件数の構成比(%) (平成28年)



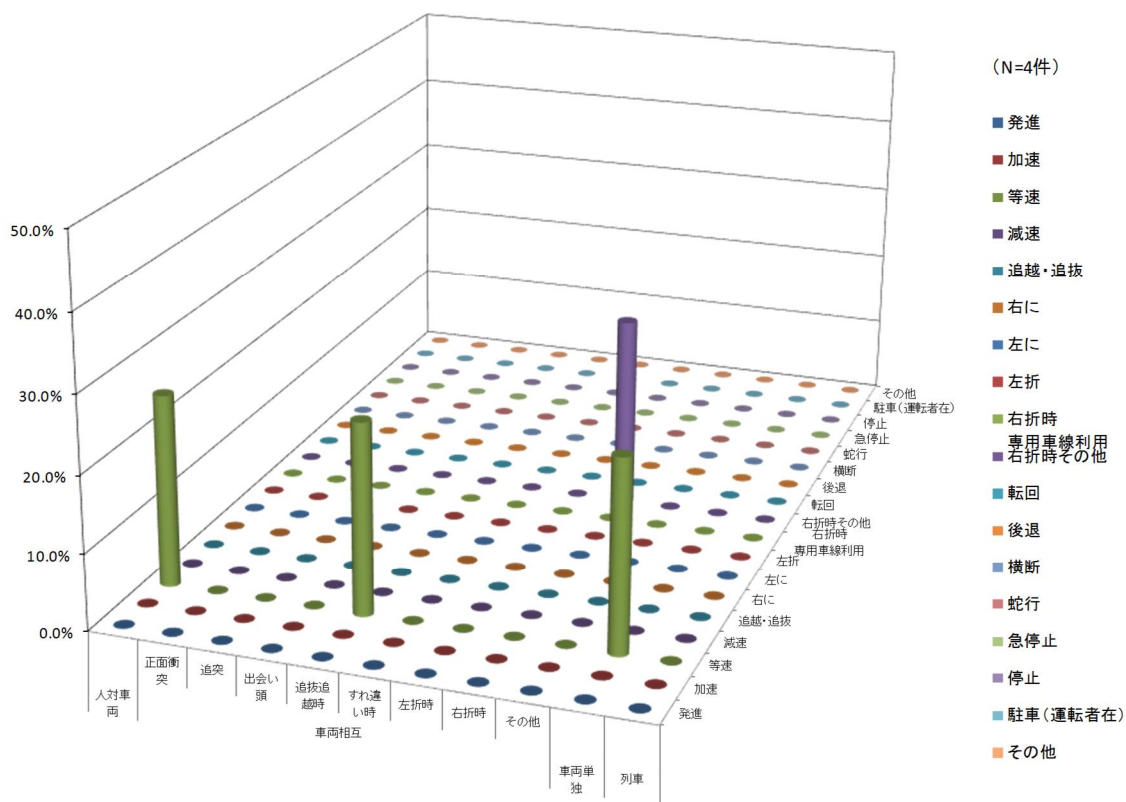
出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 44〕 貸切バスの事故類型別、行動類型死亡事故件数（件）（平成28年）

		貸切										
		人対車両	車両相互							車両単独	列車	合計
			正面衝突	追突	出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他		
発進		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
直進	加速	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	等速	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	3
	減速	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
追越・追抜		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
進路変更	右に	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	左に	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
左折		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右折時	専用車線利用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
転回		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
後退		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
横断		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
蛇行		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
急停止		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
停止		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
駐車（運転者在）		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		1	0	0	0	1	0	0	1	0	1	4

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 55〕 貸切バスの事故類型別、行動類型別死亡事故件数の構成比（％）（平成28年）

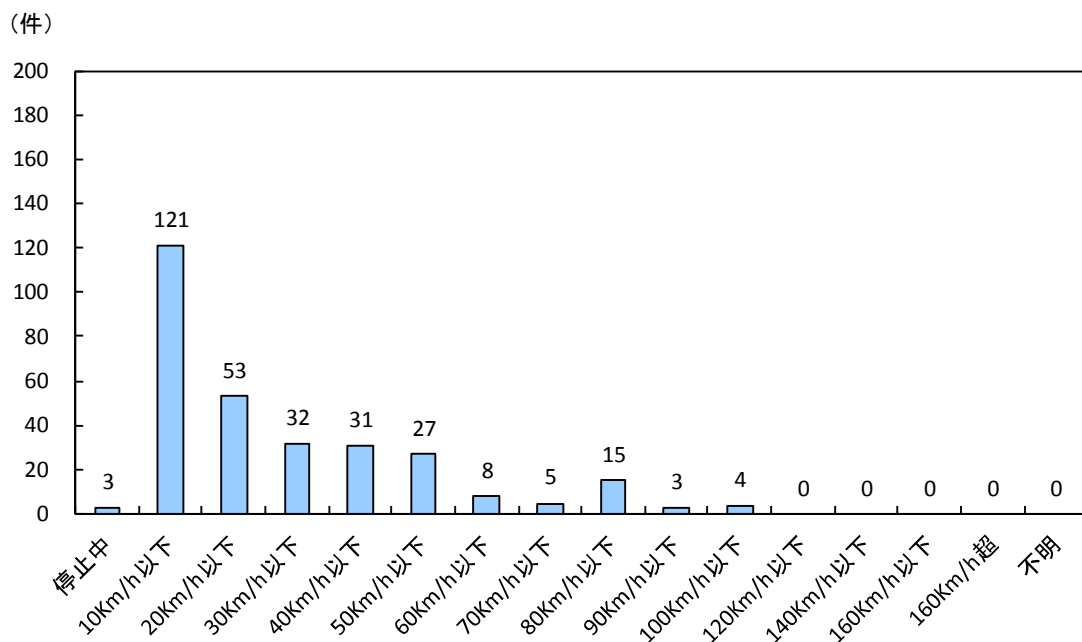


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(10) 貸切バスの危険認知速度別の事故件数

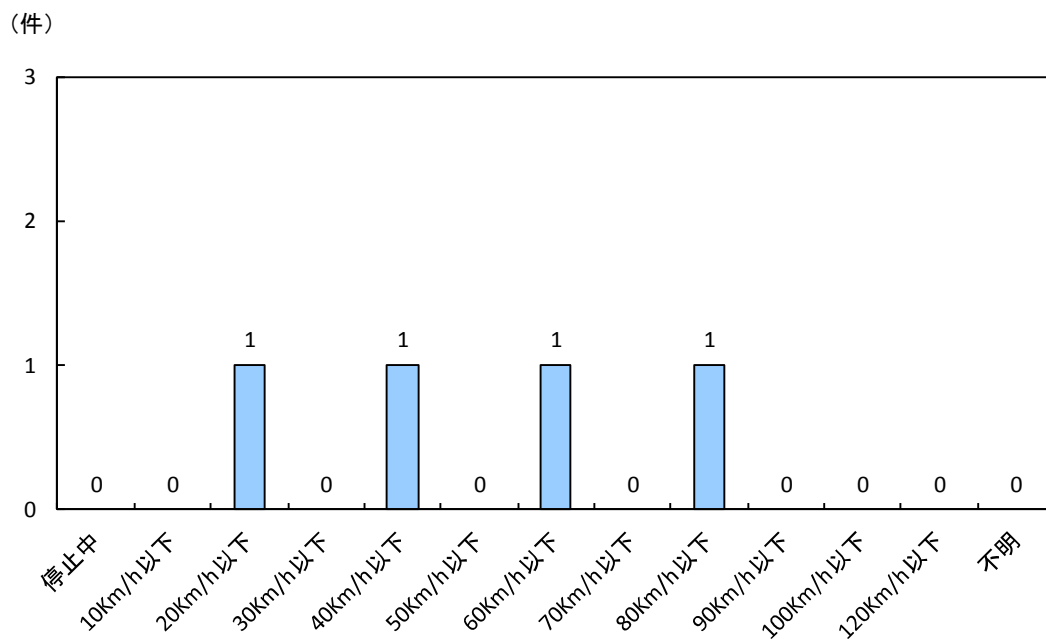
平成28年の貸切バスの危険認知速度別の事故件数は10km/h以下で121件と最も多く発生している。次いで20km/h以下で53件、30km/h以下で32件発生している。

〔図 56〕 貸切バスの危険認知速度別の事故件数（平成28年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 57〕 貸切バスの危険認知速度別の死亡事故件数（平成28年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(11) 貸切バスの追突事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布

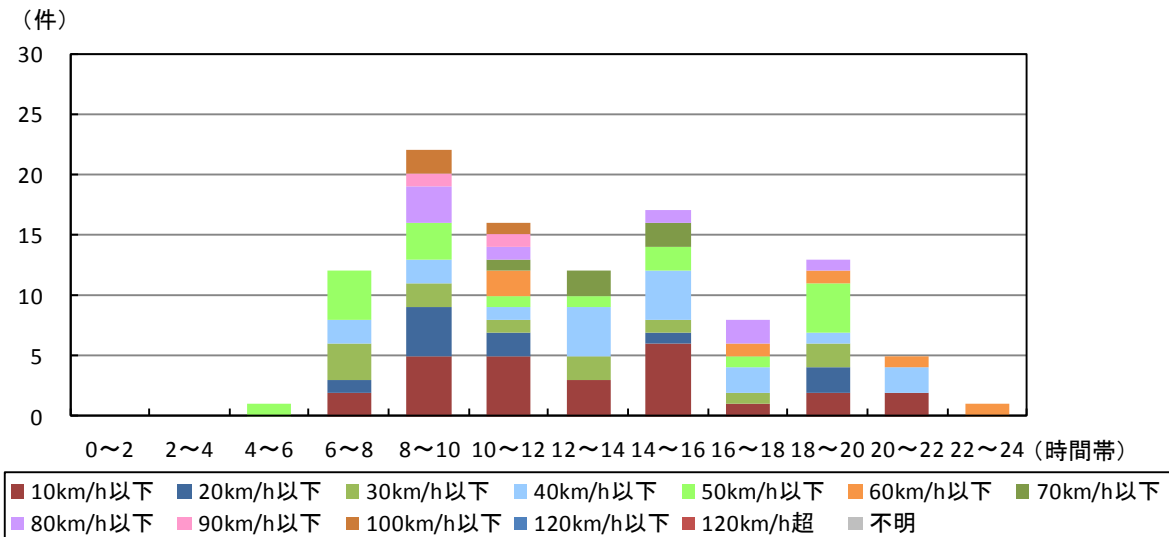
貸切バスの追突事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布をみると、8時～10時の時間帯に最も多く発生している。

〔表45〕 貸切バスの追突の事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布（件）（平成28年）

危険認知速度	時 間 帯												合計
	0～2	2～4	4～6	6～8	8～10	10～12	12～14	14～16	16～18	18～20	20～22	22～24	
10km/h以下	0	0	0	2	5	5	3	6	1	2	2	0	26
20km/h以下	0	0	0	1	4	2	0	1	0	2	0	0	10
30km/h以下	0	0	0	3	2	1	2	1	1	2	0	0	12
40km/h以下	0	0	0	2	2	1	4	4	2	1	2	0	18
50km/h以下	0	0	1	4	3	1	1	2	1	4	0	0	17
60km/h以下	0	0	0	0	0	2	0	0	1	1	1	1	6
70km/h以下	0	0	0	0	0	1	2	2	0	0	0	0	5
80km/h以下	0	0	0	0	3	1	0	1	2	1	0	0	8
90km/h以下	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2
100km/h以下	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	3
120km/h以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
120km/h超	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	1	12	22	16	12	17	8	13	5	1	107

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図58〕 貸切バスの追突の事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布（件）（平成28年）



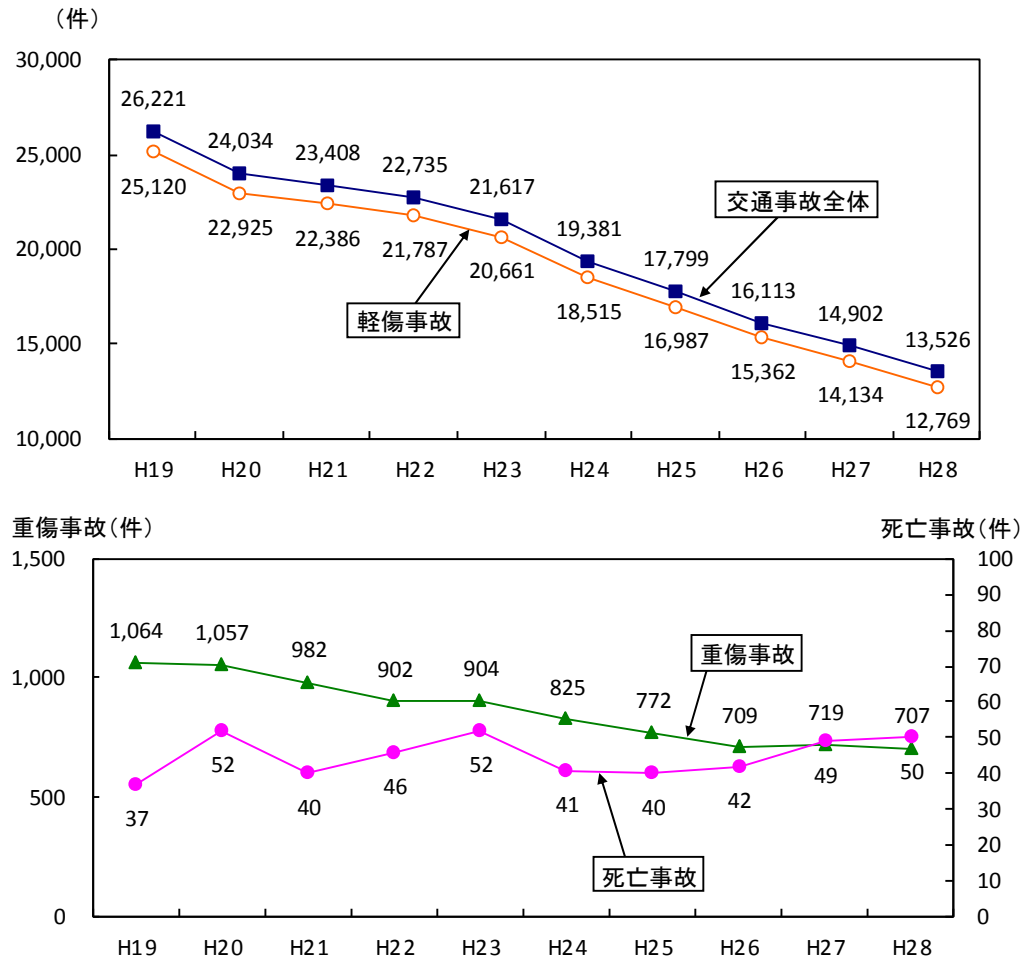
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

3. タクシーの事故

(1) タクシーの事故件数、死傷事故件数の推移

タクシー事故件数は全体数、重傷・軽傷事故とも減少傾向であるが、死亡事故件数については、平成26年以降増加している。

〔図 59〕 タクシーの全事故及び死傷事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 46〕 タクシーの事故件数の推移（件）

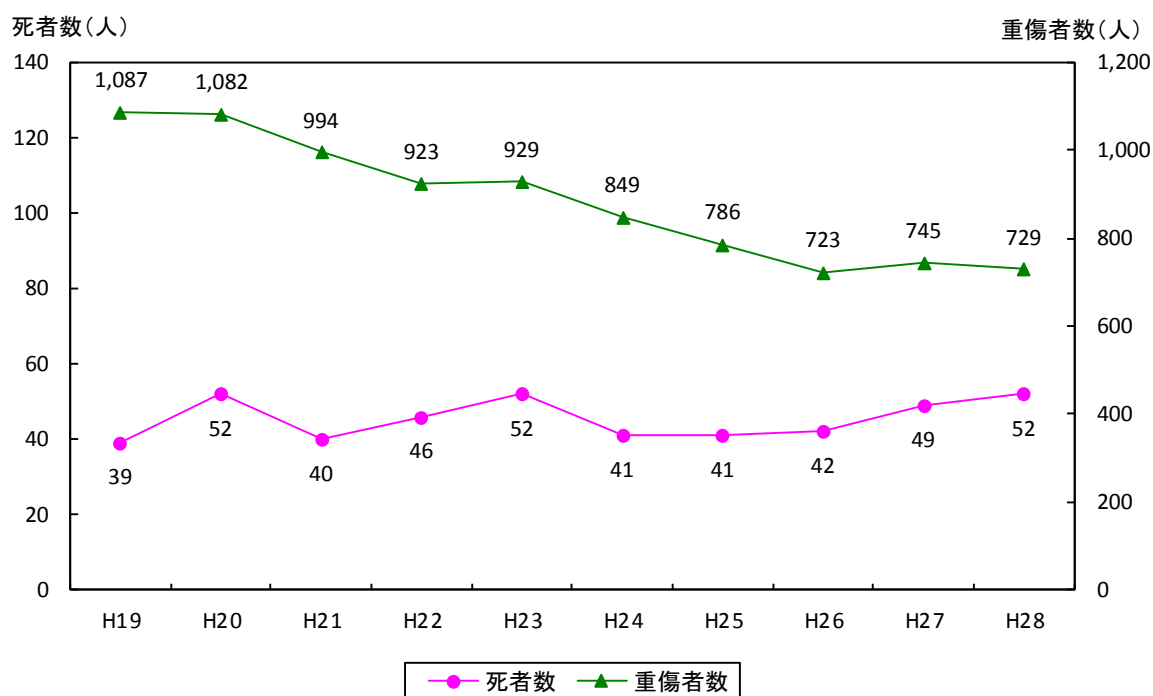
区分 年	死亡事故	重傷事故	軽傷事故	交通事故全体
H19	37	1,064	25,120	26,221
H20	52	1,057	22,925	24,034
H21	40	982	22,386	23,408
H22	46	902	21,787	22,735
H23	52	904	20,661	21,617
H24	41	825	18,515	19,381
H25	40	772	16,987	17,799
H26	42	709	15,362	16,113
H27	49	719	14,134	14,902
H28	50	707	12,769	13,526

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) タクシーの事故の死傷者数の推移

タクシーの事故の死傷者数は、重傷者数は前年より減少したが、死者数は平成25年以降増加傾向にある。

〔図 60〕 タクシーの事故の死傷者数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 47〕 タクシーの事故の死傷者数の推移（人）

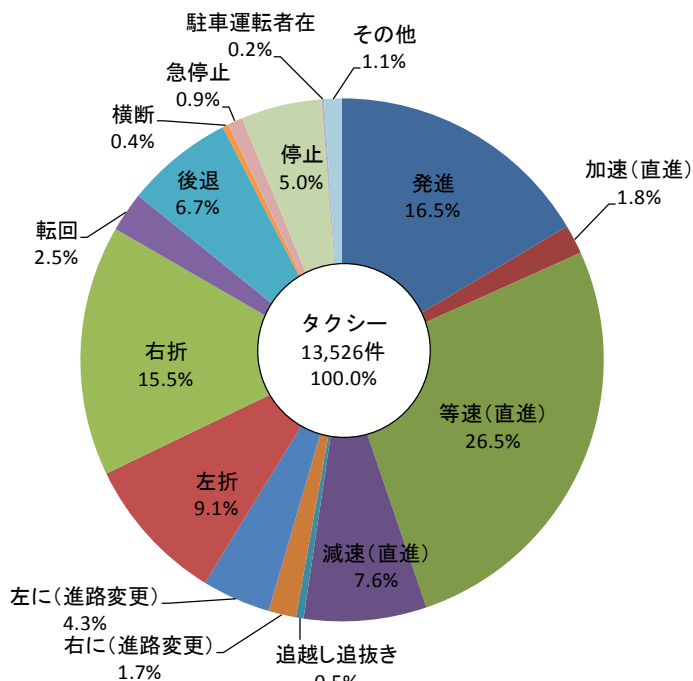
区分 年	死者数	重傷者数	軽傷者数	死傷者合計
H19	39	1,087	29,815	30,941
H20	52	1,082	26,899	28,033
H21	40	994	25,963	26,997
H22	46	923	25,317	26,286
H23	52	929	24,167	25,148
H24	41	849	21,651	22,541
H25	41	786	19,992	20,819
H26	42	723	18,051	18,816
H27	49	745	16,622	17,416
H28	52	729	15,112	15,893

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) タクシーの行動類型別事故件数の割合

タクシーの行動類型別事故件数は、等速（直進）3,584件（26.5%）が最も多く、次いで発進2,227件（16.5%）、右折2,096件（15.5%）である。

〔図 61〕 タクシーの行動類型別事故件数の割合（平成28年）

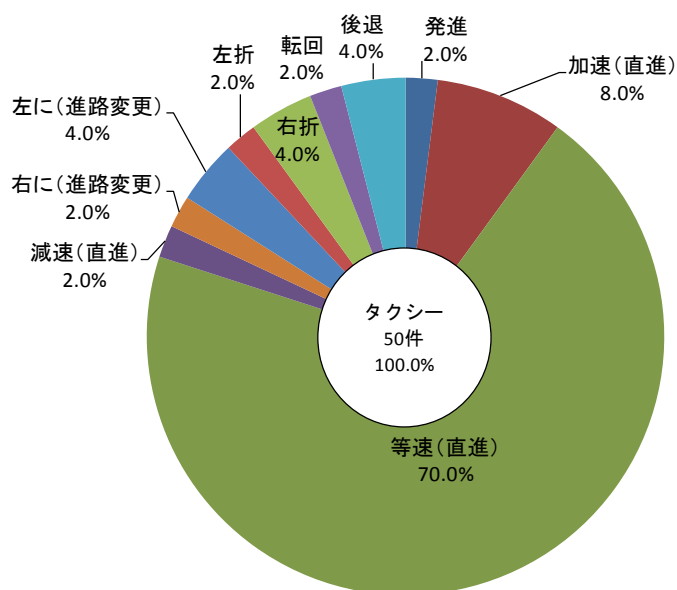


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(4) タクシーの行動類型別死亡事故件数の割合

タクシーの行動類型別死亡事故件数は、等速（直進）35件（70.0%）が最も多い。

〔図 62〕 タクシーの行動類型別死亡事故件数の割合（平成28年）

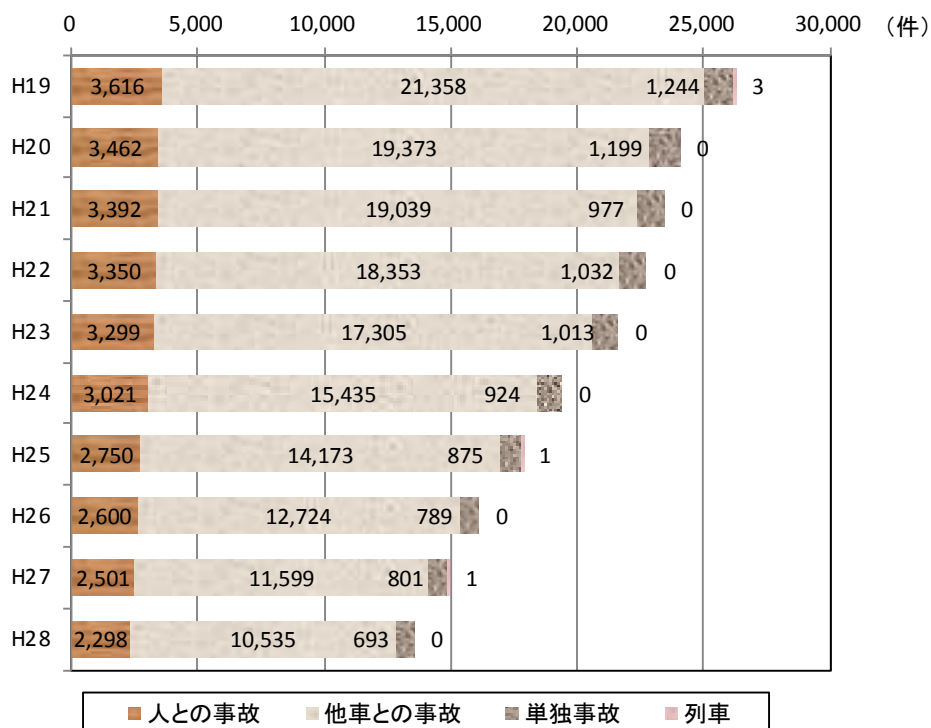


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(5) タクシーの事故類型別事故件数の割合の推移

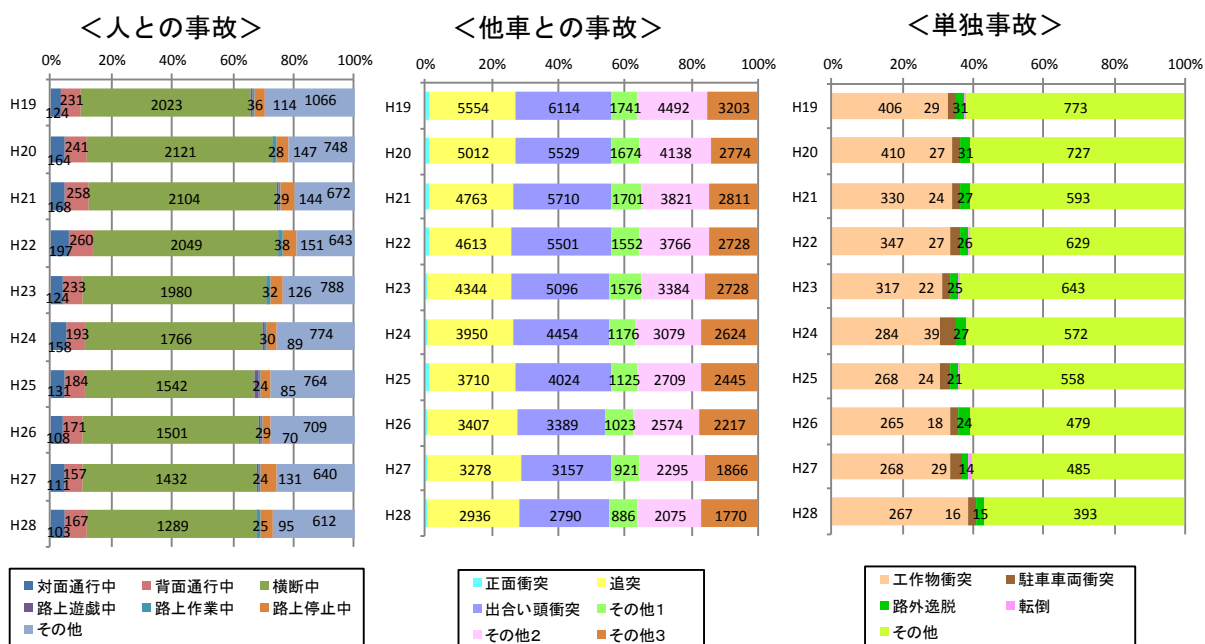
平成28年のタクシーの事故は、他車との事故が10,535件で8割弱を占めており、そのうち追突と出会い頭衝突で半分以上を占めている。

〔図 63〕 タクシーの事故類型別事故件数の割合



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 64〕 タクシーの事故類型別事故件数の内訳の推移



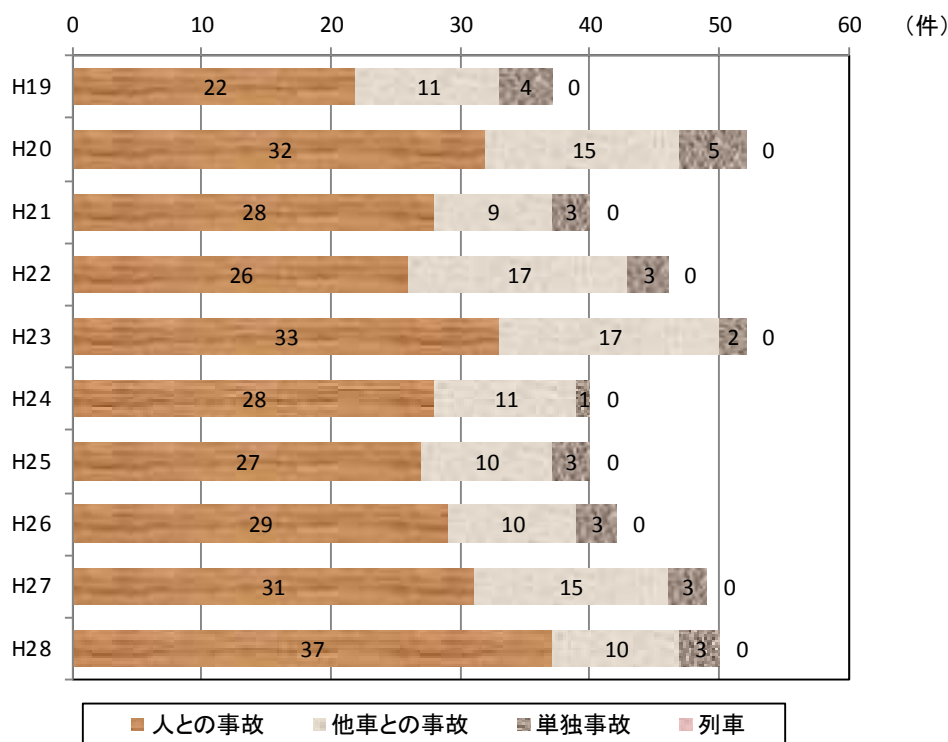
その他１・・・追越・追抜時衝突、進路変更時衝突
 その他２・・・すれ違い時衝突、左折衝突、右折時衝突
 その他３・・・横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

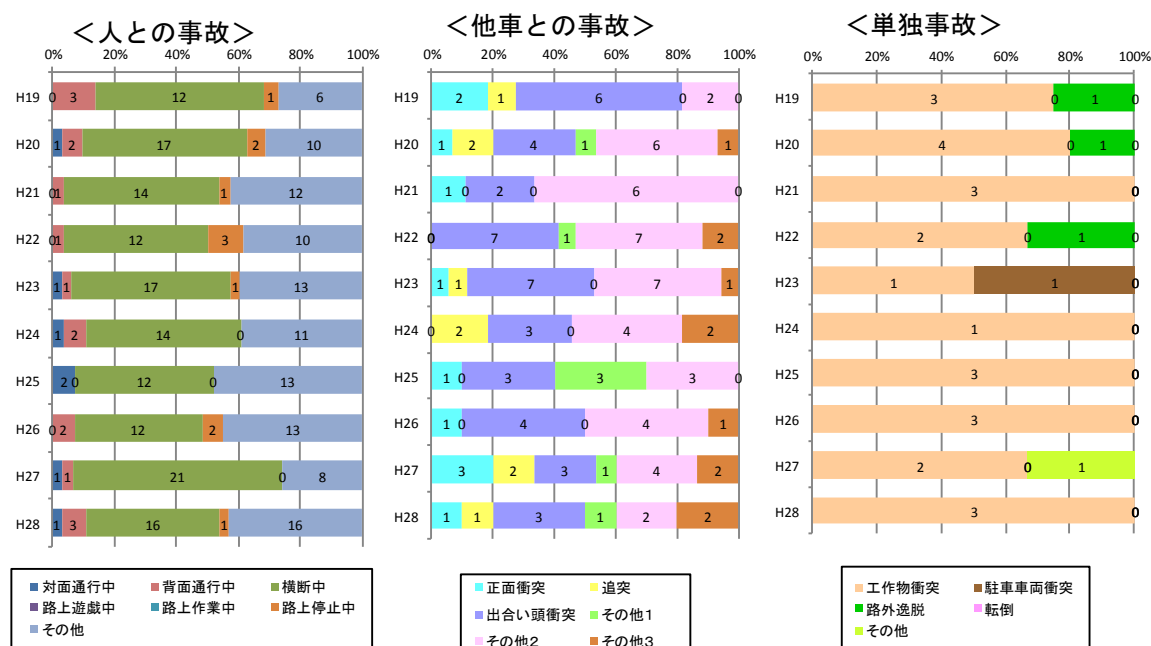
(6) タクシーの事故類型別死亡事故件数の割合の推移

平成28年のタクシーの死亡事故は、人との事故が37件で7割以上を占めており、そのうち、横断中の事故が16件となっている。

〔図 65〕 タクシーの事故類型別死亡事故件数の割合の推移



〔図 66〕 タクシーの事故類型別死亡事故件数の内訳の推移



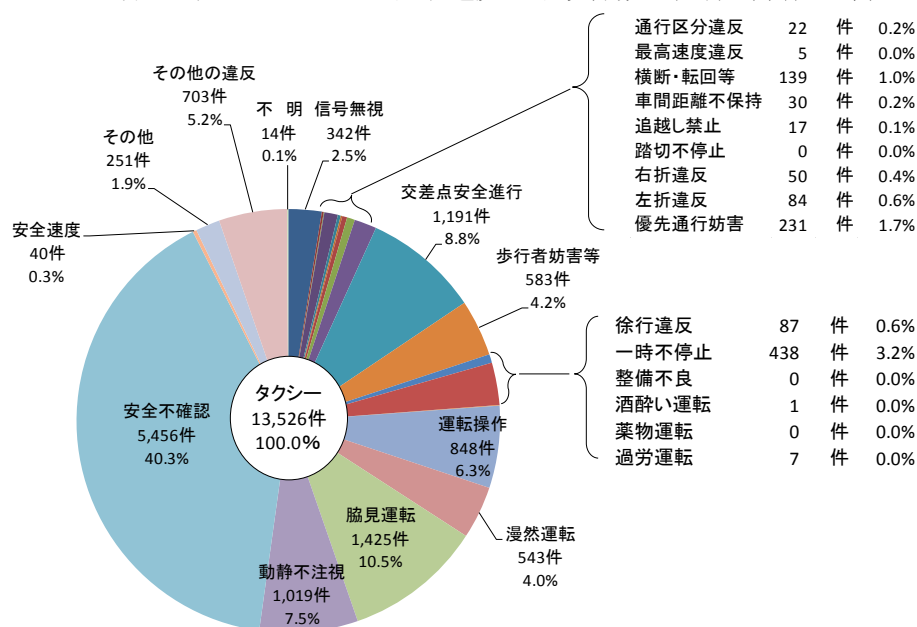
その他 1・・・追越・追抜時衝突、進路変更時衝突
 その他 2・・・すれ違い時衝突、左折衝突、右折時衝突
 その他 3・・・横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

（７） タクシーの法令違反別の事故件数の割合

タクシーの法令違反別の事故件数の割合では、「安全不確認」5,456件（40.3%）、「脇見運転」1,425件（10.5%）、「交差点安全進行」1,191件（8.8%）などが多い。

〔図 67〕 タクシーの法令違反別事故件数の割合（平成28年）

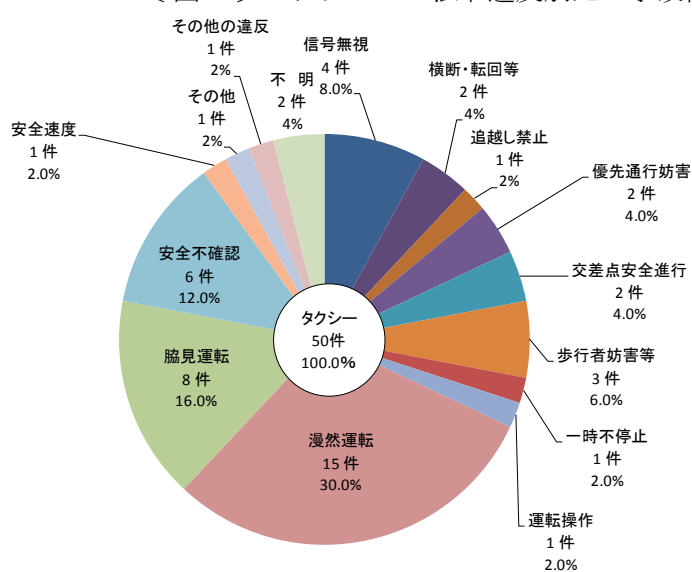


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

（８） タクシーの法令違反別の死亡事故件数の割合

タクシーの法令違反別の死亡事故件数の割合では、「漫然運転」15件（30.0%）「脇見運転」8件（16.0%）、「安全不確認」6件（12.0%）などが多い。

〔図 68〕 タクシーの法令違反別死亡事故件数の割合（平成28年）

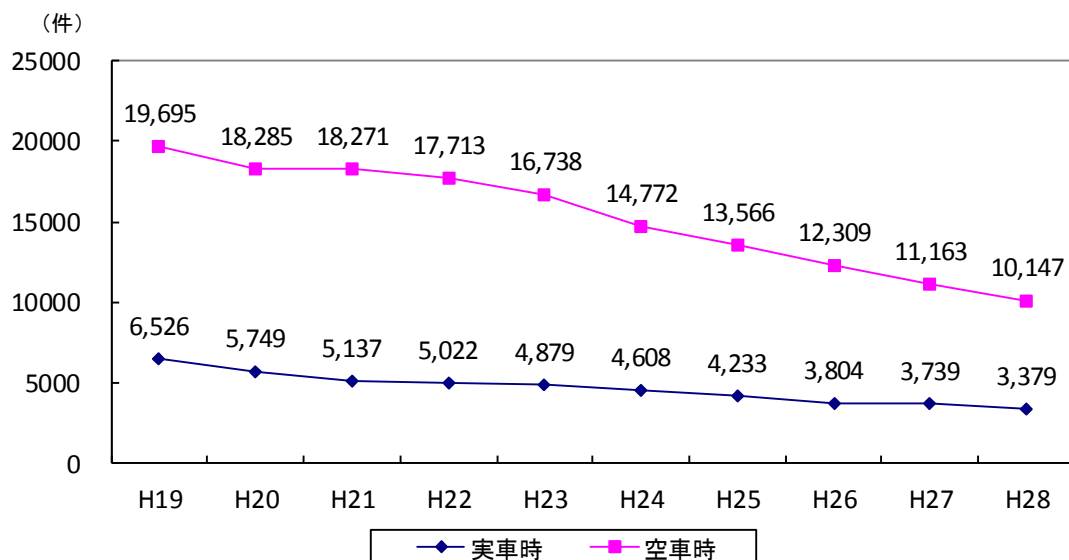


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(9) タクシーの事故件数（空車時、実車時）

タクシーの事故件数（空車時、実車時）は、空車時が実車時と比べて多く発生している。空車時は平成18年以降、実車時は平成20年以降、いずれも減少傾向にある。

〔図 69〕 タクシーの事故件数（空車時、実車時）

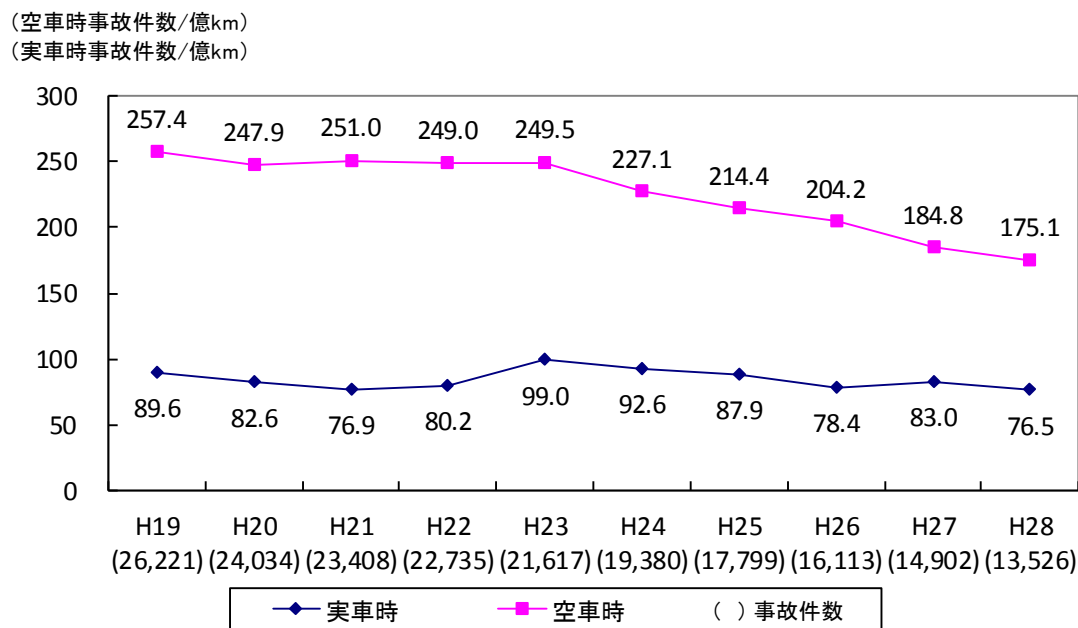


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(10) タクシーの走行距離 1 億キロあたりの事故件数（空車キロ、実車キロ）

タクシーの走行距離 1 億キロあたりの事故件数（空車キロ、実車キロ）は、空車時が実車時と比べて多く発生している。空車時は平成21年より減少傾向であるが、実車時は近年増加している。

〔図 70〕 タクシーの走行距離 1 億キロあたりの事故件数



注1：（ ）内の数字は空車時と実車時を合わせた事故件数，単位は件

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

(11) タクシーの事故類型別、衝突地点別事故件数

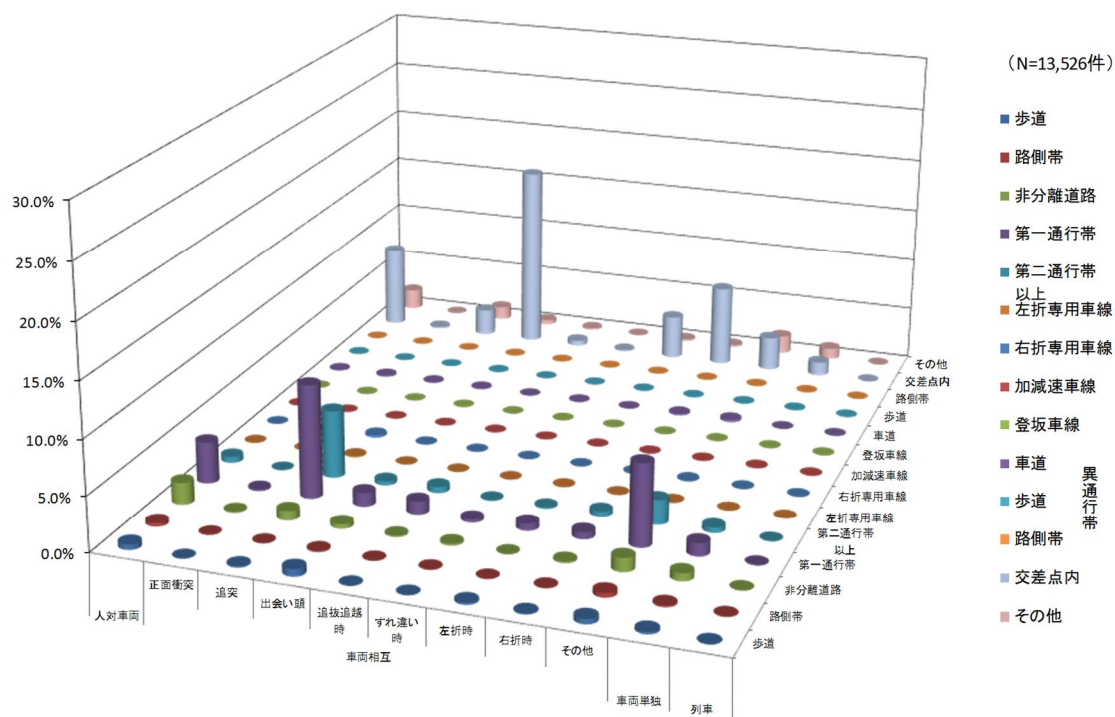
タクシーの事故類型別、衝突地点別事故件数と構成比を表48と図71に、死亡事故件数と構成比を表49と図72に示す。事故件数については、交差点内での出会い頭事故（2,333件、17.2%）が最も多く、死亡事故件数については、第一通行帯での人対車両事故（17件、34.0%）が多くなっている。

〔表 48〕 タクシーの事故類型別、衝突地点別事故件数（件）（平成28年）

		タクシー											
		合計											
		人対車両	車両相互								車両単独	列車	合計
			正面衝突	追突	出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他			
単路（交差点付近を含む）	歩道	67	0	15	90	0	0	23	8	61	28	0	292
	路側帯	46	0	4	15	4	4	1	4	55	18	0	151
	非分離道路	271	12	120	57	15	22	3	18	168	94	0	780
	第一通行帯	515	22	1,404	172	163	39	89	85	1,017	160	0	3,666
	第二通行帯以上	77	2	838	51	76	8	16	63	305	65	0	1,501
	左折専用車線	2	0	12	0	1	0	3	0	1	0	0	19
	右折専用車線	0	1	30	3	1	0	0	6	10	3	0	54
	加減速車線	0	0	1	0	0	0	0	0	2	4	0	7
	登坂車線	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	3
	異通行帯	車道	9	15	9	8	1	6	3	29	2	0	102
		歩道	4	0	0	3	0	0	2	5	5	0	21
		路側帯	1	0	0	1	0	0	2	2	3	0	9
	交差点内	1,047	20	337	2,333	64	14	556	1,028	426	173	0	5,998
	その他	259	5	166	57	20	4	23	23	229	137	0	923
	合計	2,298	78	2,936	2,790	345	97	719	1,259	2,311	693	0	13,526

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 71〕 タクシーの事故類型別、衝突地点別事故件数の構成比（%）（平成 28 年）



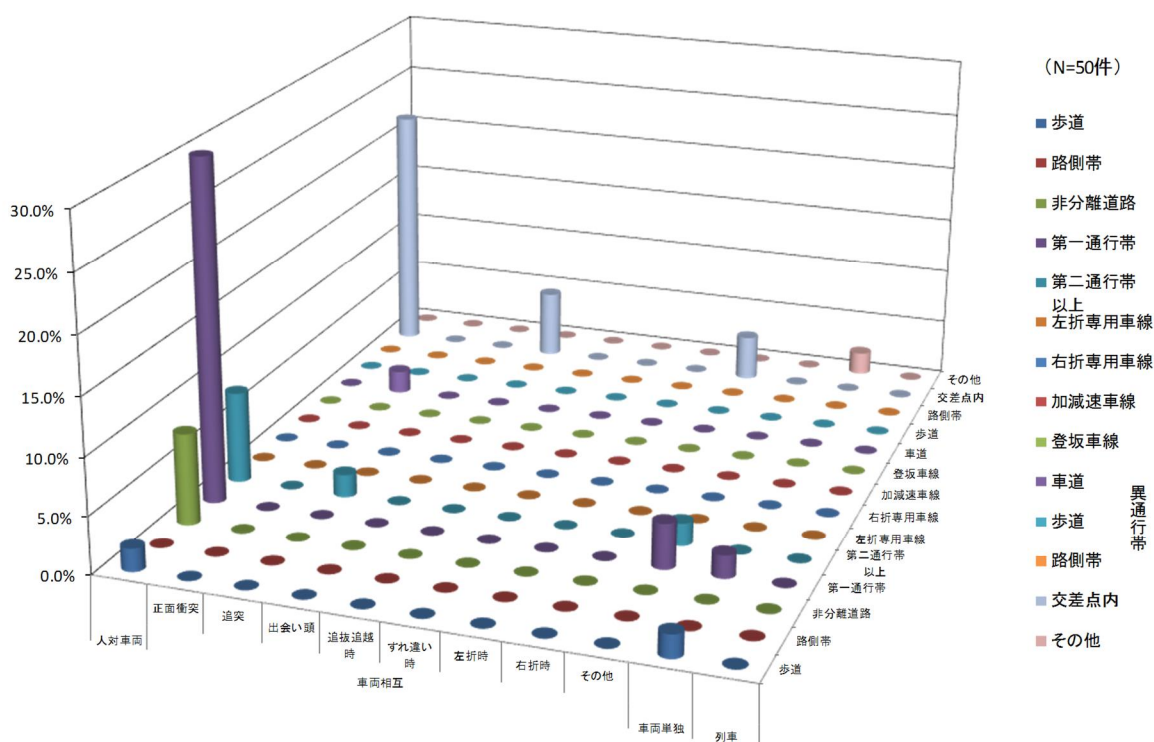
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 49〕 タクシーの事故類型別、衝突地点別死亡事故件数（件）（平成 28 年）

		タクシー												
		合計												
		人対車両	車両相互							車両単独	列車	合計		
正面衝突	追突		出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他						
単路 （交差点付近を含む）	歩道	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	
	路側帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	非分離道路	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	
	第一通行帯	17	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	20	
	第二通行帯以上	4	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	6	
	左折専用車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	右折専用車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	加減速車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	登坂車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	異通行帯	車道	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		歩道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		路側帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交差点内		11	0	0	3	0	0	0	2	0	0	0	16	
その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	
合計		37	1	1	3	0	0	0	2	3	3	0	50	

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図72〕 タクシーの事故類型別、衝突地点別死亡事故件数の構成比（％）（平成28年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(12) タクシーの事故類型別、行動類型別事故件数

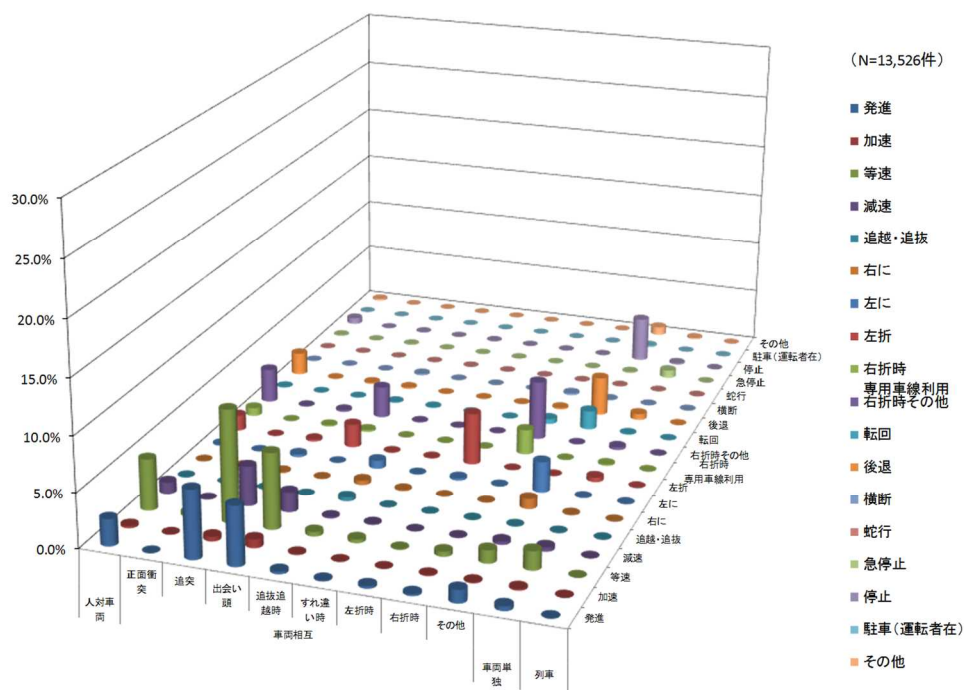
タクシーの事故類型別、行動類型別事故件数と構成比を表50と図73に、死亡事故件数と構成比を表51と図74に示す。事故件数については、等速直進時の追突事故（1,391件、10.3%）が最も多く、死亡事故件数については、等速直進時の人対車両事故（29件、58.0%）が多くなっている。

〔表 50〕 タクシーの事故類型別、行動類型事故件数（件）（平成28年）

		タクシー											
		合計											
		人対車両	車両相互							車両単独	列車	合計	
正面衝突	追突		出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他					
発進		331	2	850	732	32	11	31	24	159	55	0	2,227
直進	加速	27	5	57	105	11	1	1	8	11	19	0	245
	等速	642	44	1,391	945	54	45	9	61	161	232	0	3,584
	減速	145	7	497	251	14	11	2	7	40	50	0	1,024
追越・追抜		5	1	1	0	50	1	0	2	4	1	0	65
進路変更	右に	2	5	14	4	55	11	1	4	128	5	0	229
	左に	13	0	35	0	102	3	28	2	384	8	0	575
左折		196	2	26	292	5	7	643	0	0	56	0	1,227
右折時	専用車線利用	101	1	13	22	0	0	0	310	0	15	0	462
	その他	428	6	21	395	6	3	0	739	0	36	0	1,634
転回		9	0	3	9	8	0	1	63	235	7	0	335
後退		284	4	16	16	0	1	2	16	485	76	0	900
横断		1	1	0	18	2	0	0	22	5	1	0	50
蛇行		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
急停止		8	0	5	0	0	2	1	1	9	99	0	125
停止		80	0	4	1	5	1	0	0	565	17	0	673
駐車(運転者在)		2	0	1	0	0	0	0	0	18	0	0	21
その他		23	0	2	0	1	0	0	0	107	16	0	149
合計		2,298	78	2,936	2,790	345	97	719	1,259	2,311	693	0	13,526

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 73〕 タクシーの事故類型別、行動類型別事故件数の構成比（%）（平成28年）



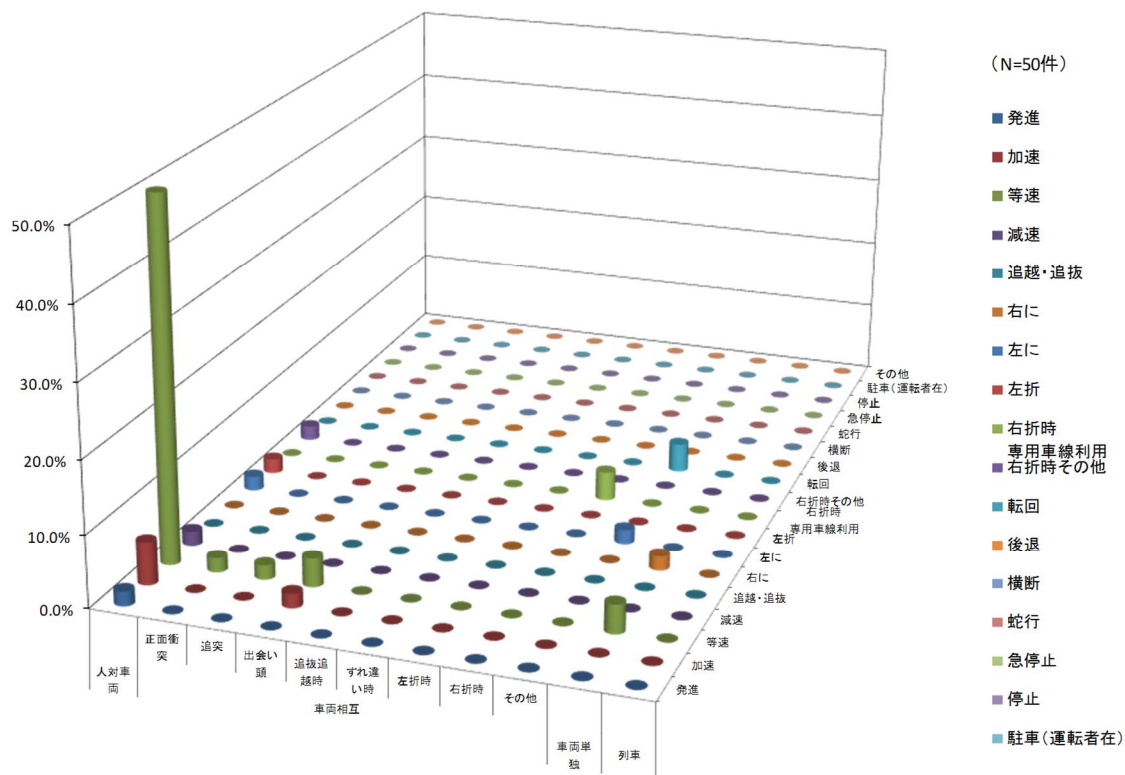
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 51〕 タクシーの事故類型別、行動類型死亡事故件数（件）（平成28年）

		タクシー										
		合計										
		人対車両	車両相互							車両単独	列車	合計
			正面衝突	追突	出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他		
発進		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
直進	加速	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4
	等速	29	1	1	2	0	0	0	0	0	2	35
	減速	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
追越・追抜		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
進路変更	右に	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	左に	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
左折		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
右折時	専用車線利用	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
	その他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
転回		0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
後退		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
横断		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
蛇行		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
急停止		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
停止		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
駐車(運転者在)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		37	1	1	3	0	0	0	2	3	0	50

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 74〕 タクシーの事故類型別、行動類型別死亡事故件数の構成比（％）（平成 28 年）

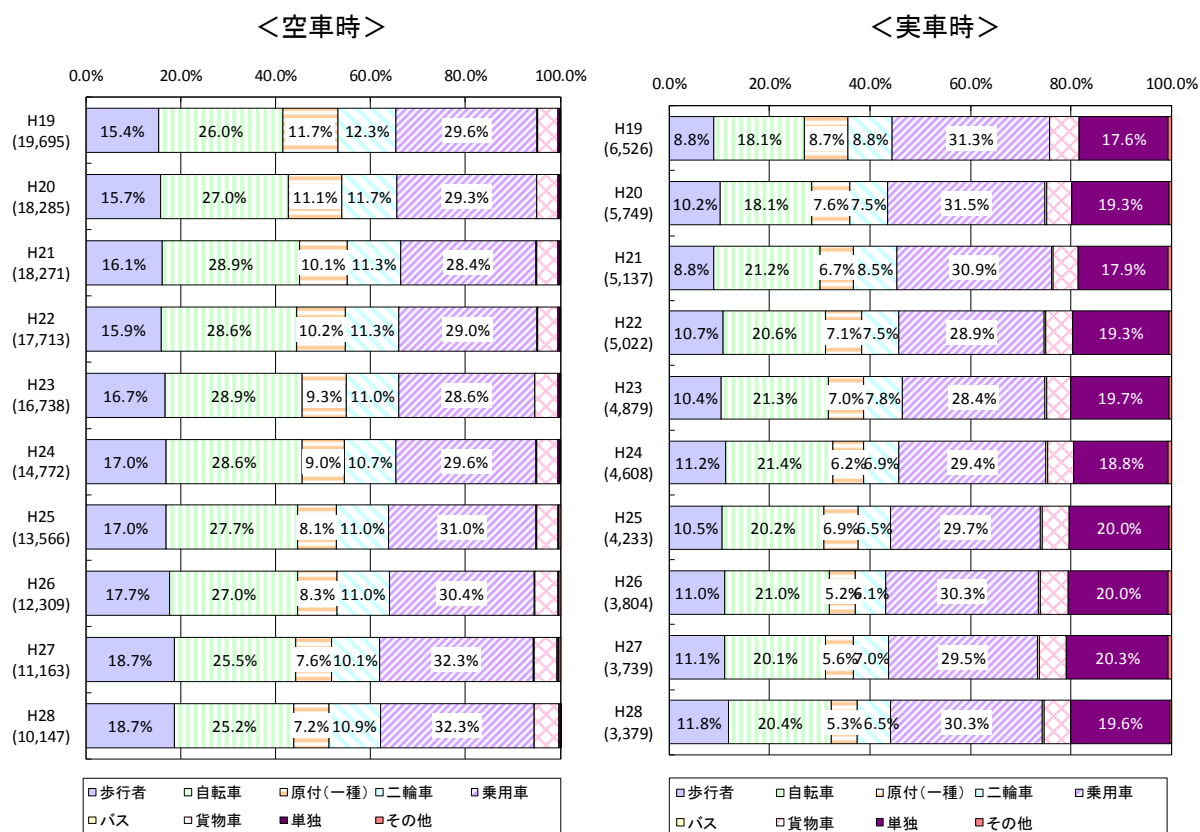


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(13) タクシーの事故の相手方の割合の推移（空車時、実車時）

実車時は、空車時に比べて単独の事故が圧倒的に多い。

〔図 75〕 タクシーの事故の相手方の割合の推移



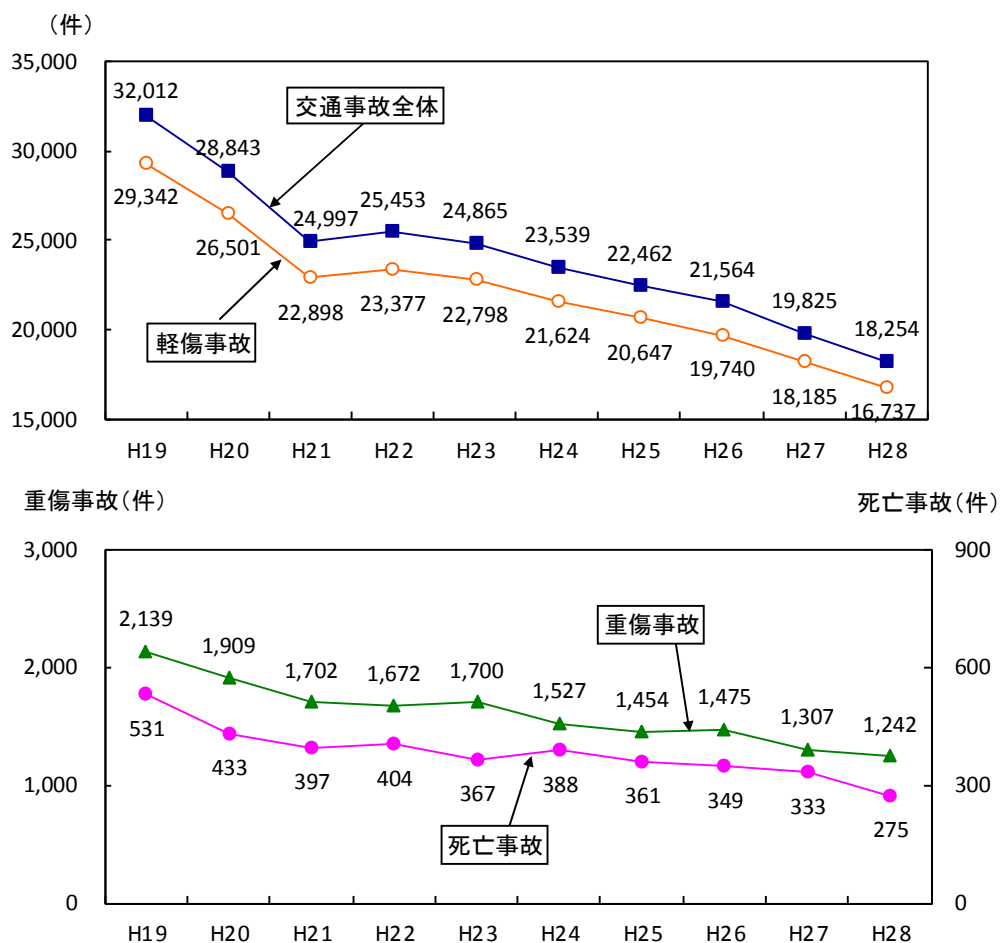
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

4. トラックの事故

(1) トラックの事故件数、死傷事故件数の推移

平成28年のトラックによる事故件数は18,254件（対前年比7.9%減）であり、死亡事故、重傷事故、軽傷事故のいずれも減少している。

〔図 76〕 トラックの全事故及び死傷事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 52〕 トラックの事故件数の推移（件）

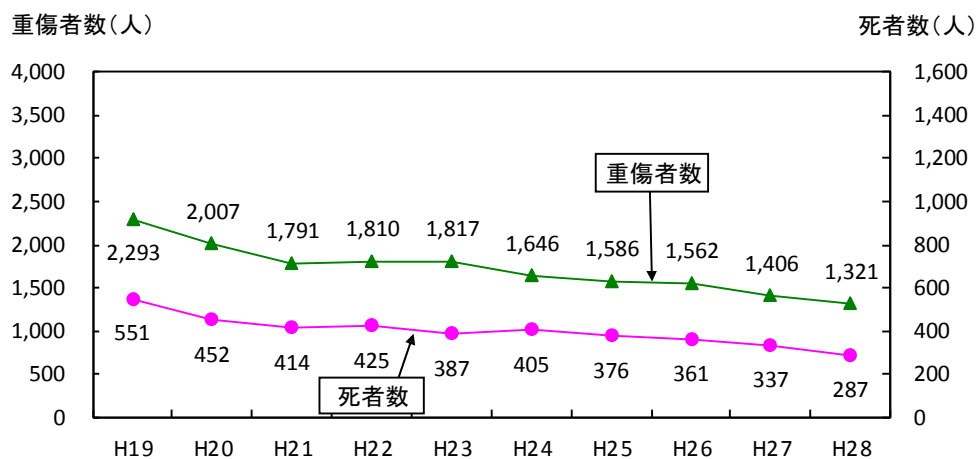
区分 年	死亡事故	重傷事故	軽傷事故	事故全体
H19	531	2,139	29,342	32,012
H20	433	1,909	26,501	28,843
H21	397	1,702	22,898	24,997
H22	404	1,672	23,377	25,453
H23	367	1,700	22,798	24,865
H24	388	1,527	21,624	23,539
H25	361	1,454	20,647	22,462
H26	349	1,475	19,740	21,564
H27	333	1,307	18,185	19,825
H28	275	1,242	16,737	18,254

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) トラック事故の死傷者数の推移

トラックの事故による死者数、重傷者数の推移をみると、ともに平成19年～21年は減少している。その後、死者数は平成23年、25年～28年に減少し、287人となった。重傷者数は、平成24年以降は再び減少し、平成28年は1,321人である。

〔図 77〕 トラック事故の死傷者数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 53〕 トラック事故の死傷者数の推移（人）

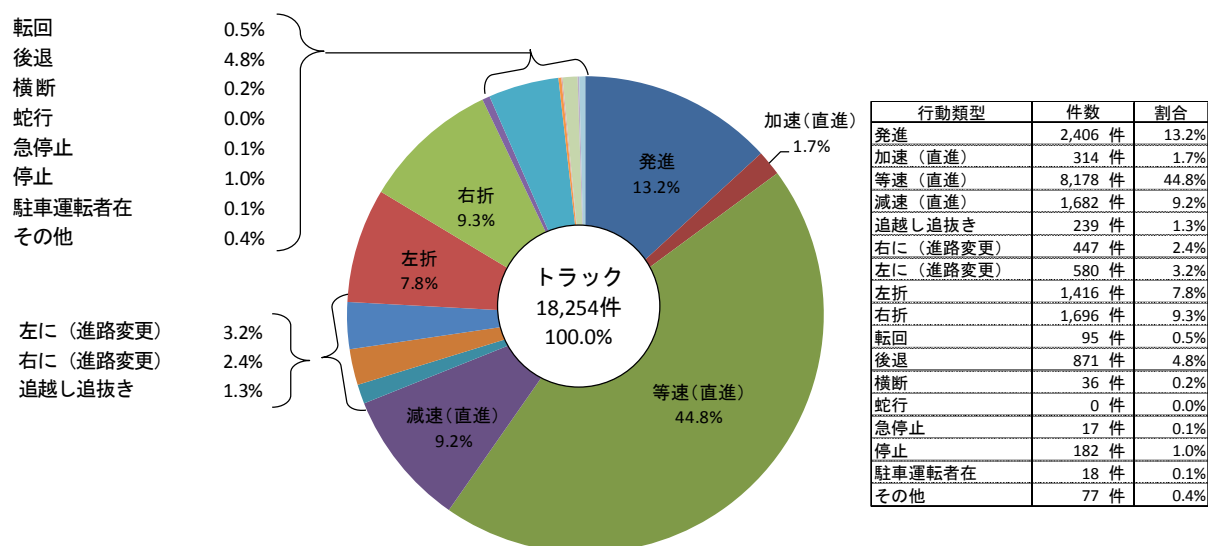
区分 年	死者数	重傷者数	軽傷者数	死傷者合計
H19	551	2,293	39,420	42,264
H20	452	2,007	35,052	37,511
H21	414	1,791	30,227	32,432
H22	425	1,810	31,171	33,406
H23	387	1,817	30,436	32,640
H24	405	1,646	28,824	30,875
H25	376	1,586	27,636	29,598
H26	361	1,562	26,499	28,422
H27	337	1,406	24,253	25,996
H28	287	1,321	22,081	23,689

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) トラックの行動類型別事故件数の割合

トラックの行動類型別事故件数は、等速（直進）8,178件（44.8%）が最も多く、次いで発進2,406件（13.2%）と続いている。

〔図78〕 トラックの行動類型別事故件数の割合（平成28年）

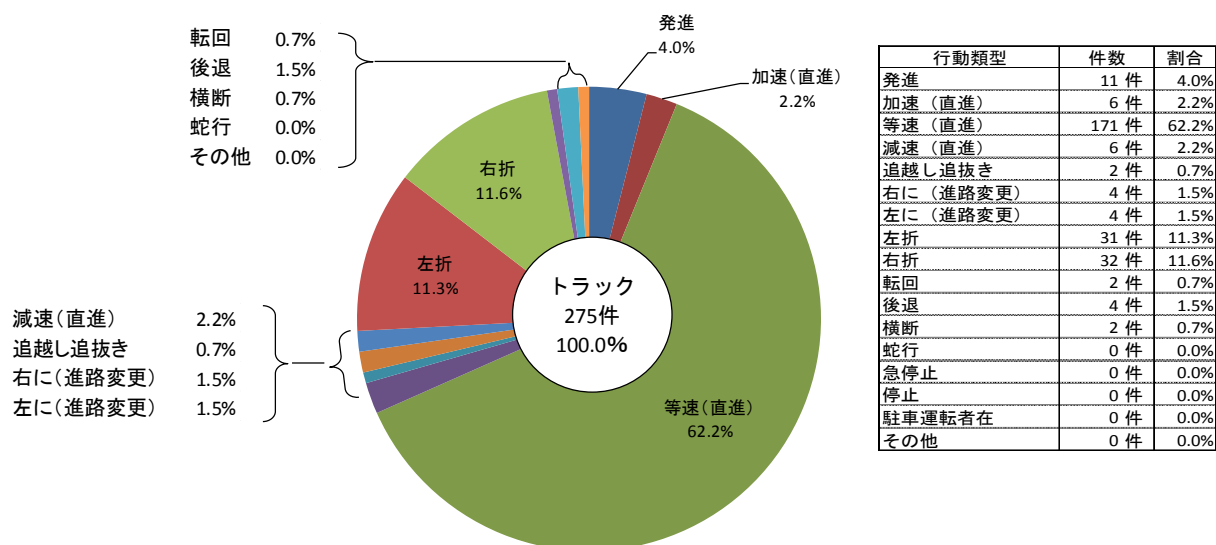


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(4) トラックの行動類型別死亡事故件数の割合

トラックの行動類型別死亡事故件数は、事故全体と同じく等速（直進）171件（62.2%）が最も多く、次いで右折32件（11.6%）、左折31件（11.3%）となっている。

〔図79〕 トラックの行動類型別死亡事故件数の割合（平成28年）

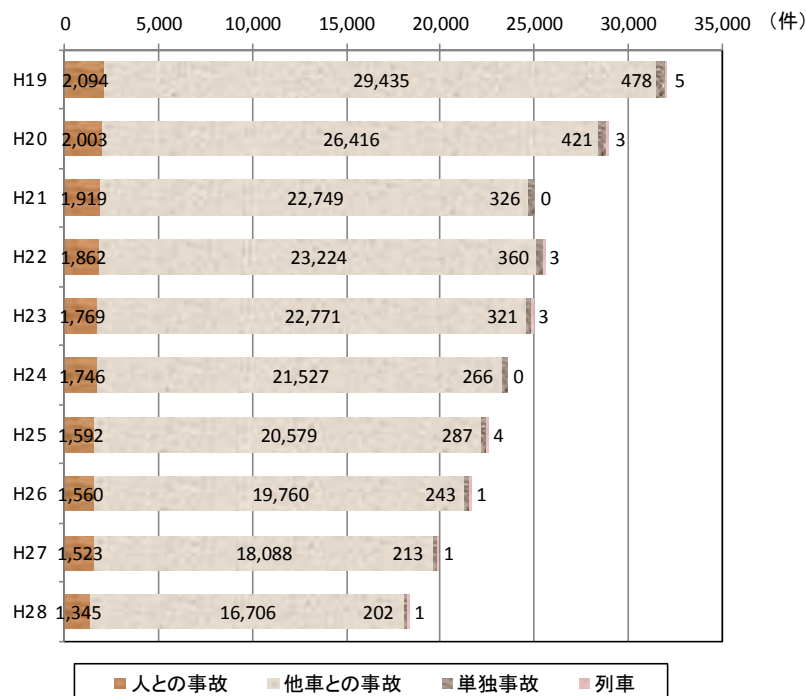


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(5) トラックの事故類型別事故件数の割合

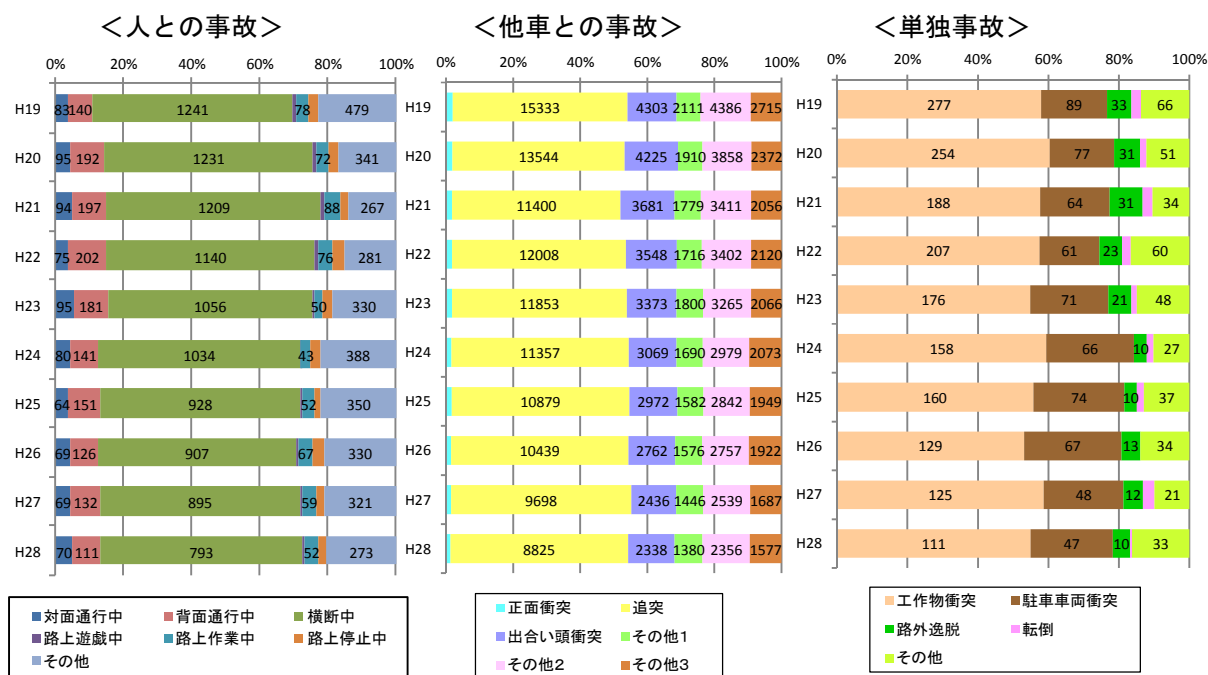
トラックの事故は、他車との事故が約9割を占めており、そのうち約5割は追突事故となっている。ただ追突事故件数は平成23年以降、減少傾向にある。

〔図80〕 トラックの事故類型別事故件数の割合



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図81〕 トラックの事故類型別事故件数の内訳



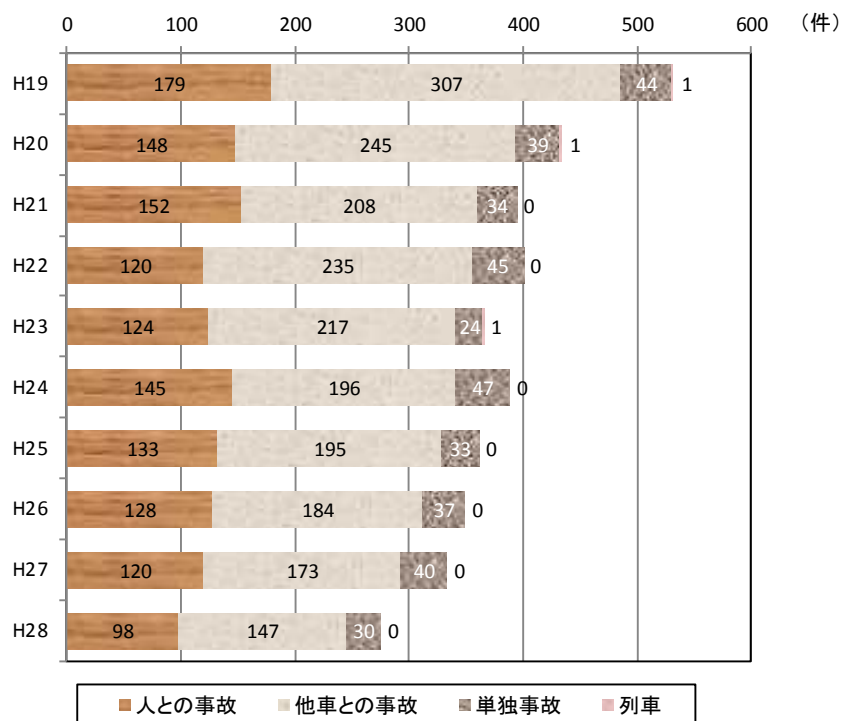
その他1・・・追越・追抜時衝突、進路変更時衝突
 その他2・・・すれ違い時衝突、左折衝突、右折時衝突
 その他3・・・横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(6) トラックの事故類型別死亡事故件数の割合の推移

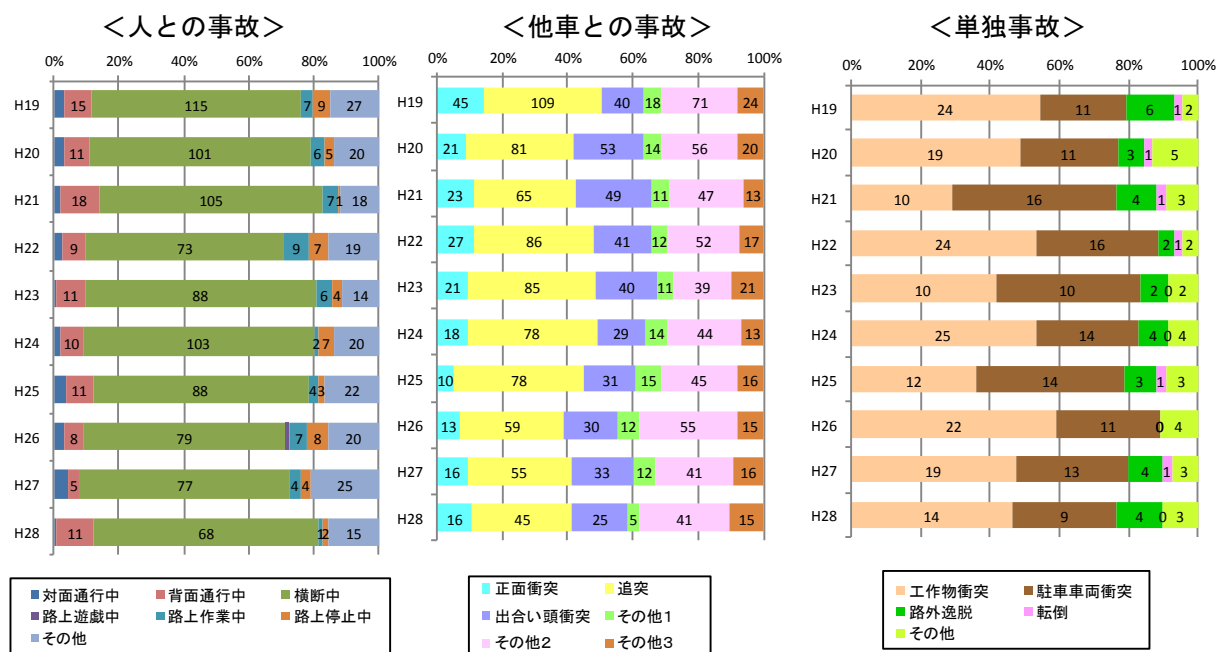
トラックの死亡事故は、他車との事故が半数以上を占めており、そのうち追突が最も多く約3割を占めている。死亡事故全体でみると人との事故の横断中が68件で最も多い。

〔図82〕 トラックの事故類型別死亡事故件数の割合



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図83〕 トラックの事故類型別死亡事故件数の内訳の推移



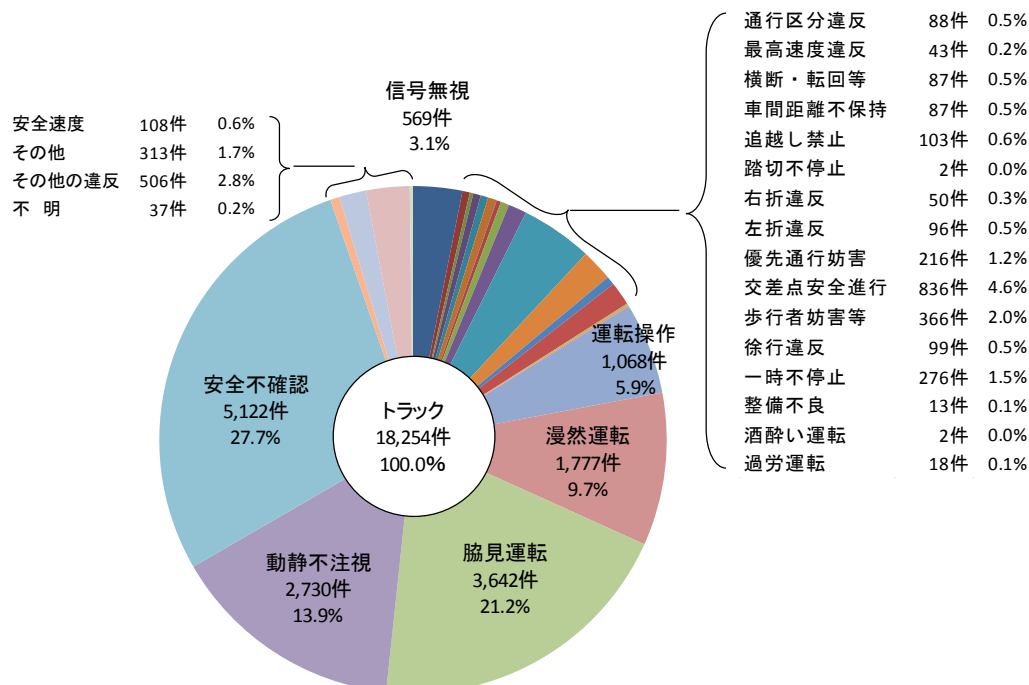
その他1・・・追越・追抜時衝突、進路変更時衝突
 その他2・・・すれ違い時衝突、左折衝突、右折時衝突
 その他3・・・横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(7) トラックの法令違反別の事故件数の割合

トラックの法令違反別の事故件数では、「安全不確認」5,122件（27.7%）、「脇見運転」3,642件（21.2%）、「動静不注視」2,730件（13.9%）などが多い。

〔図 84〕 トラックの法令違反別の事故件数の割合（平成28年）

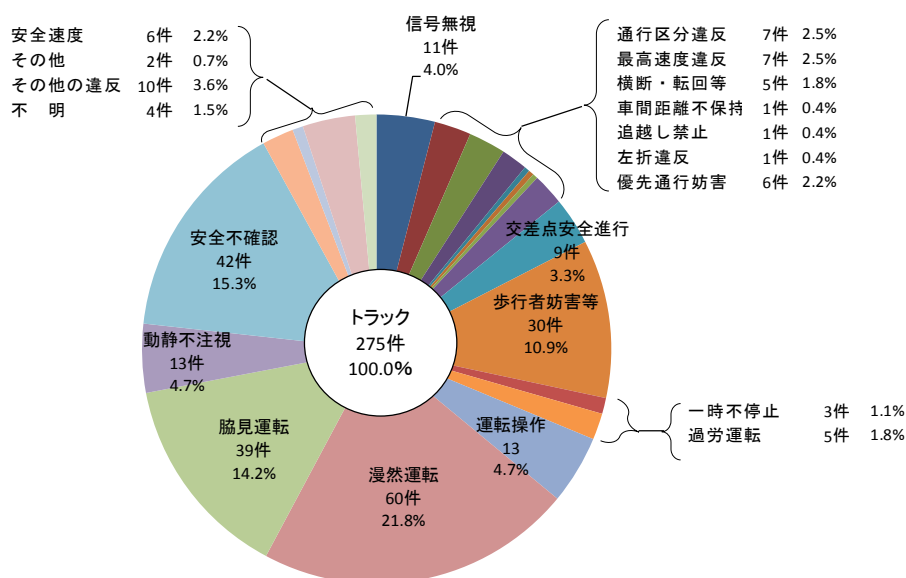


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(8) トラックの法令違反別の死亡事故件数の割合

トラックの法令違反別の死亡事故件数では、「漫然運転」60件（21.8%）、「安全不確認」42件（15.3%）、「脇見運転」39件（14.2%）などが多い。

〔図 85〕 トラックの法令違反別の死亡事故件数の割合（平成28年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(9) トラックの事故類型別、衝突地点別事故件数

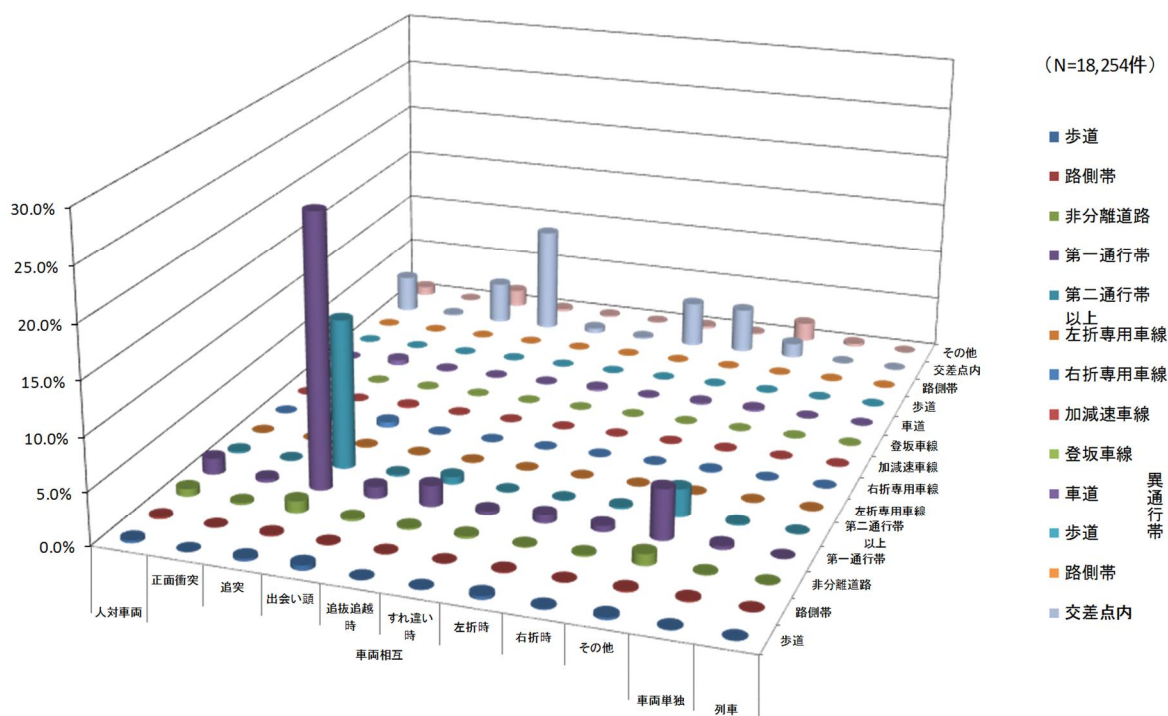
トラックの事故類型別、衝突地点別事故件数と構成比を表54と図86に、死亡事故件数と構成比を表55と図87に示す。事故件数については、第一通行帯での追突事故（4,745件、26.0%）が最も多く、死亡事故件数については、第一通行帯での人対車両事故（47件、17.1%）が多くなっている。

〔表 54〕 トラックの事故類型別、衝突地点別事故件数（件）（平成28年）

		トラック												
		合計												
		人対車両	車両相互								車両単独	列車	合計	
正面衝突	追突		出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他						
単路 （交差点付近を含む）	歩道	47	0	47	90	6	5	62	17	42	8	0	324	
	路側帯	32	2	23	12	8	3	17	5	25	22	0	149	
	非分離道路	133	33	207	43	29	40	14	25	197	15	0	736	
	第一通行帯	280	61	4,745	203	364	69	147	104	883	63	0	6,919	
	第二通行帯以上	31	10	2,601	31	130	8	9	29	488	24	0	3,361	
	左折専用車線	0	0	10	0	2	0	0	0	1	0	0	13	
	右折専用車線	0	0	96	2	0	0	2	2	13	0	0	115	
	加減速車線	0	0	22	0	1	0	0	0	7	0	0	30	
	登坂車線	0	0	7	0	0	0	0	1	1	1	0	10	
	異通行帯	車道	3	93	18	10	12	40	6	32	36	3	0	253
		歩道	1	0	0	4	1	0	1	3	5	2	0	17
		路側帯	2	0	0	0	1	1	1	2	1	4	0	12
	交差点内		657	25	744	1,896	90	26	807	797	255	7	0	5,304
その他		159	6	305	47	27	12	45	24	332	53	1	1,011	
合計		1,345	230	8,825	2,338	671	204	1,111	1,041	2,286	202	1	18,254	

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 86〕 トラックの事故類型別、衝突地点別事故件数の構成比（%）（平成 28 年）



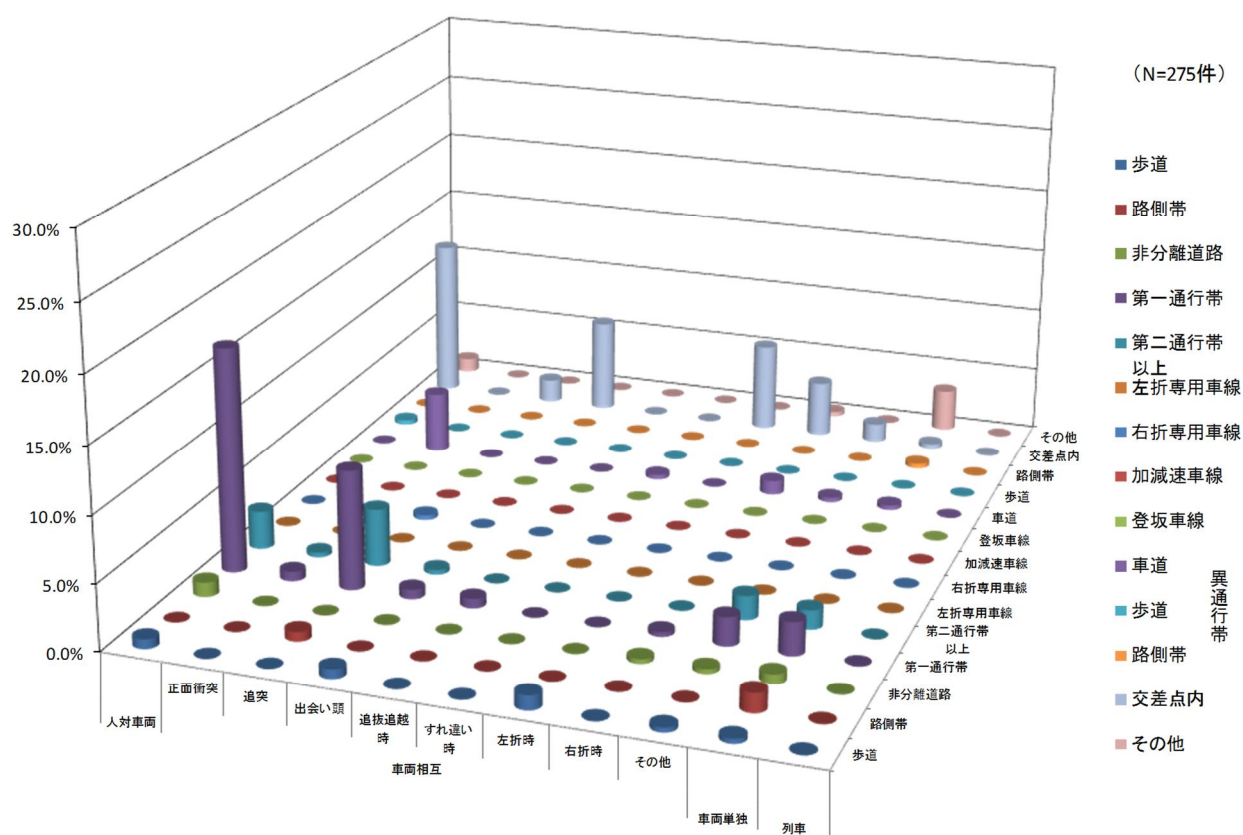
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 55〕 トラックの事故類型別、衝突地点別死亡事故件数（件）（平成28年）

		トラック												
		合計												
		人対車両	車両相互								車両単独	列車	合計	
正面衝突	追突		出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他						
単路（交差点付近を含む）	歩道	2	0	0	2	0	0	3	0	1	1	0	9	
	路側帯	0	0	2	0	0	0	0	0	0	4	0	6	
	非分離道路	3	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	7	
	第一通行帯	47	2	25	2	2	0	0	1	6	7	0	92	
	第二通行帯以上	8	1	12	1	0	0	0	0	5	4	0	31	
	左折専用車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	右折専用車線	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	加減速車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	登坂車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	異通行帯	車道	0	13	0	0	0	1	0	3	1	1	0	19
		歩道	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		路側帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
交差点内		34	0	5	20	0	0	19	12	4	1	0	95	
その他		3	0	0	0	0	0	0	1	0	9	0	13	
合計		98	16	45	25	2	1	22	18	18	30	0	275	

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 87〕 トラックの事故類型別、衝突地点別死亡事故件数の構成比（％）（平成28年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(10) トラックの事故類型別、行動類型別事故件数

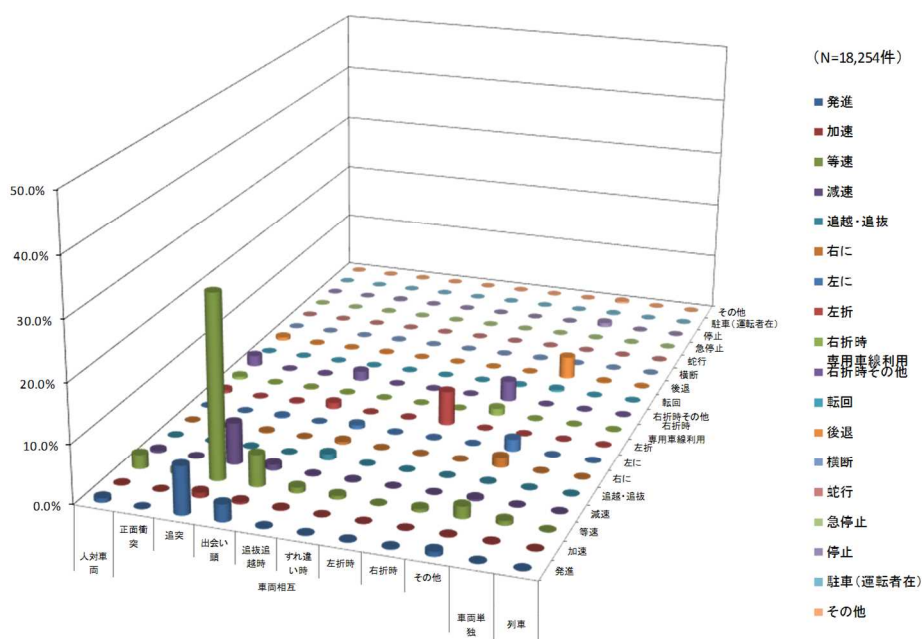
トラックの事故類型別、行動類型別事故件数と構成比を表56と図88に、死亡事故件数と構成比を表57と図89に示す。事故件数については、等速直進時の追突事故（5,666件、31.0%）が最も多く、死亡事故件数については、等速直進時の人対車両事故（64件、23.3%）が多くなっている。

〔表 56〕 ト ラ ッ ク の 事 故 類 型 別、行 動 類 型 別 事 故 件 数（件）（平成28年）

		トラック										
		合計										
		人対車両	車両相互							車両単独	列車	合計
			正面衝突	追突	出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他		
発進		134	1	1,497	536	19	10	21	28	150	9	2,406
直進	加速	16	3	162	66	31	6	0	1	18	11	314
	等速	442	158	5,666	996	175	114	11	103	373	140	8,178
	減速	74	17	1,293	184	15	27	2	3	60	7	1,682
追越・追抜		5	4	8	0	195	2	1	5	17	2	239
進路変更	右に	2	12	30	2	88	7	0	3	301	2	447
	左に	5	1	40	1	128	8	14	1	379	3	580
左折		103	4	28	198	5	14	1,062	0	0	2	1,416
右折時	専用車線利用	98	3	20	14	0	1	0	221	0	1	358
	その他	342	11	18	305	8	11	0	640	0	3	1,338
転回		1	1	3	3	3	0	0	17	66	1	95
後退		109	15	15	15	0	2	0	1	695	19	871
横断		3	0	0	16	0	0	0	16	1	0	36
蛇行		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
急停止		0	0	12	1	0	0	0	1	3	0	17
停止		4	0	28	0	4	1	0	1	144	0	182
駐車(運転者在)		2	0	0	0	0	0	0	0	16	0	18
その他		5	0	5	1	0	1	0	0	63	2	77
合計		1,345	230	8,825	2,338	671	204	1,111	1,041	2,286	202	18,254

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 88〕 ト ラ ッ ク の 事 故 類 型 別、行 動 類 型 別 事 故 件 数 の 構 成 比（％）（平成 28 年）



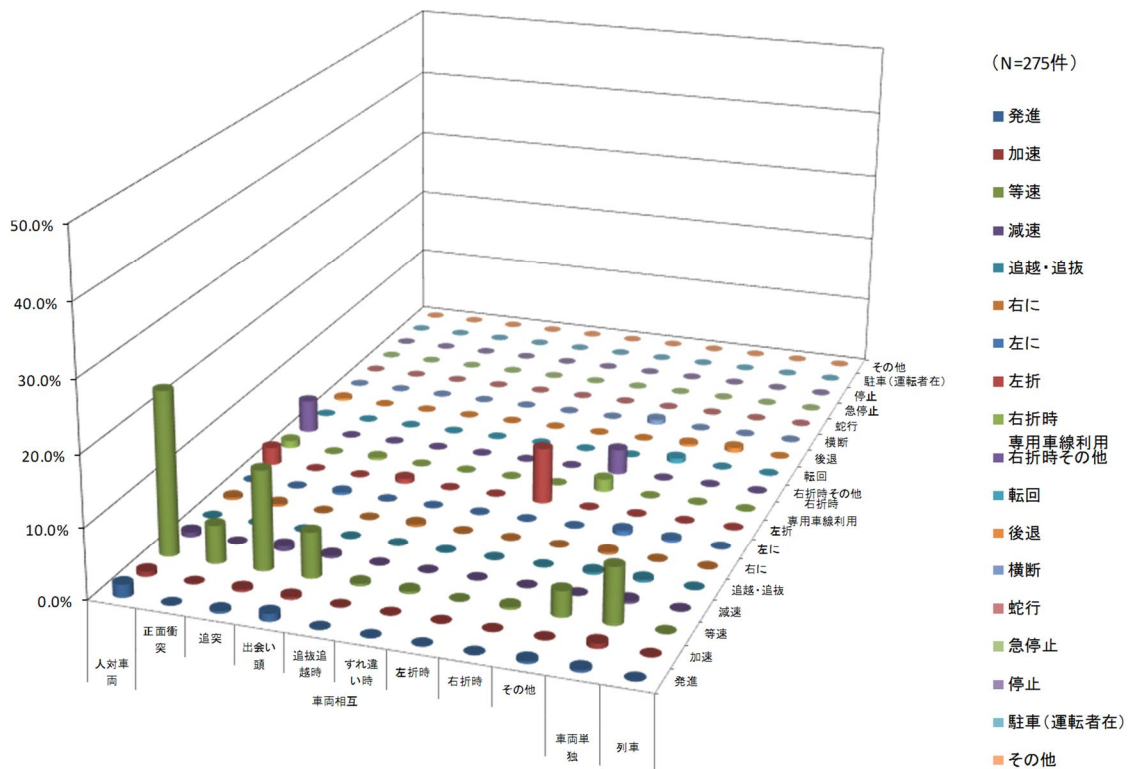
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 57〕 トラックの事故類型別、行動類型別死亡事故件数（件）（平成28年）

		トラック											
		合計											
		人対車両	車両相互							車両単独	列車	合計	
正面衝突	追突		出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他					
発進		5	0	1	3	0	0	0	0	1	1	0	11
直進	加速	2	0	1	1	0	0	0	0	0	2	0	6
	等速	64	15	39	18	1	1	0	1	10	22	0	171
	減速	2	0	2	1	0	0	0	0	0	1	0	6
追越・追抜		0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2
進路変更	右に	1	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	4
	左に	0	0	1	0	0	0	0	0	2	1	0	4
左折		7	0	0	2	0	0	22	0	0	0	0	31
右折時	専用車線利用	3	0	1	0	0	0	0	5	0	0	0	9
	その他	13	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	23
転回		0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
後退		1	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	4
横断		0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
蛇行		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
急停止		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
停止		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
駐車（運転者在）		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		98	16	45	25	2	1	22	18	18	30	0	275

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 89〕 トラックの事故類型別、行動類型別死亡事故件数の構成比（％）（平成28年）

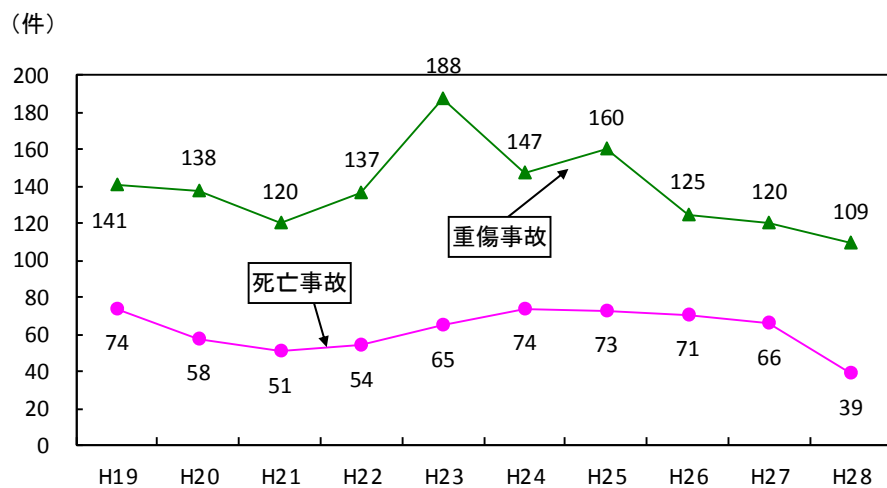


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(11) トラックの高速道路における死亡・重傷事故件数の推移

トラックの高速道路における平成28年の死亡事故は前年より27件と大幅に減少している。重傷事故は、平成23年と25年に増加したが、それ以降は減少し平成28年は109件である。

〔図 90〕 トラックの高速道路における死亡・重傷事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(12) トラックの追突事故件数、死亡事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布

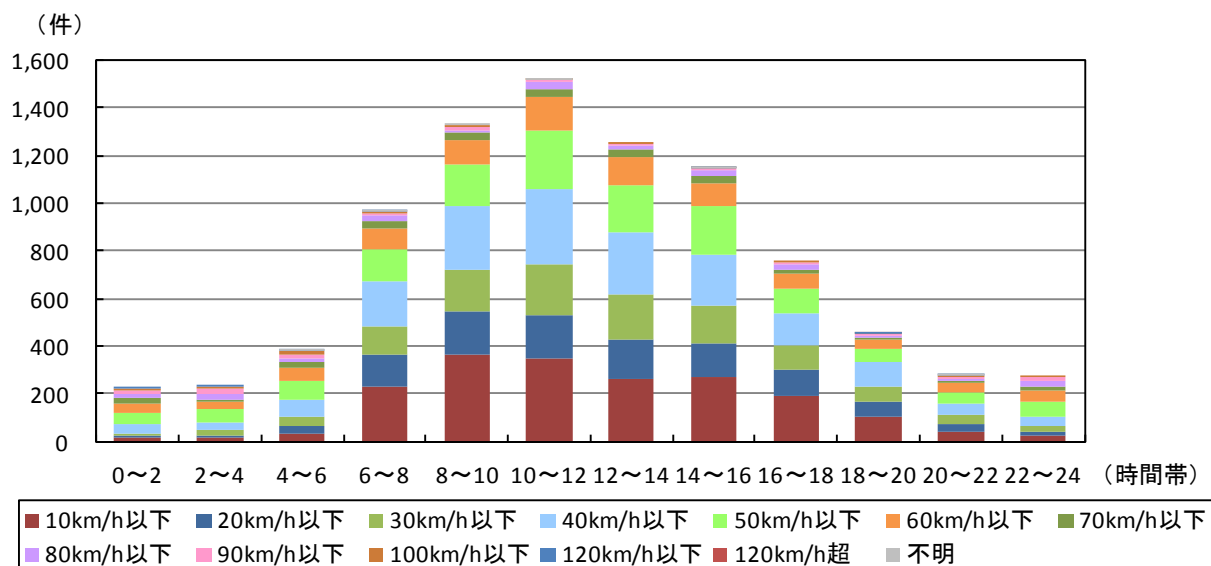
トラックの追突事故における時間帯別危険認知速度別追突死亡事故件数をみると、0時～6時の危険認知速度が高い。交通量が少なく、スピードを出して運転できる環境が要因ではないかと推察される。

〔表 58〕 トラックの追突事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布（件）（平成28年）

危険認知速度	時 間 帯												合計
	0～2	2～4	4～6	6～8	8～10	10～12	12～14	14～16	16～18	18～20	20～22	22～24	
10km/h以下	17	17	33	231	367	348	264	267	191	107	43	29	1,914
20km/h以下	12	11	36	132	176	183	164	147	108	64	29	13	1,075
30km/h以下	8	23	38	124	180	215	189	154	103	64	37	25	1,160
40km/h以下	37	33	72	183	267	310	265	214	140	101	52	39	1,713
50km/h以下	50	49	75	138	170	247	192	204	103	52	50	61	1,391
60km/h以下	38	35	59	87	106	143	122	98	60	38	36	48	870
70km/h以下	18	10	17	34	28	35	28	31	16	13	4	17	251
80km/h以下	17	21	18	17	13	30	18	21	24	6	9	23	217
90km/h以下	18	22	20	10	14	5	6	8	6	7	12	19	147
100km/h以下	8	8	14	7	5	4	6	4	1	1	4	5	67
120km/h以下	4	2	2	1	0	0	0	1	0	1	1	0	12
120km/h超	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	2	1	1	1	0	2	0	0	1	0	8
合計	227	231	386	965	1,327	1,521	1,254	1,151	752	454	278	279	8,825

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 91〕 トラックの追突事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布（平成28年）



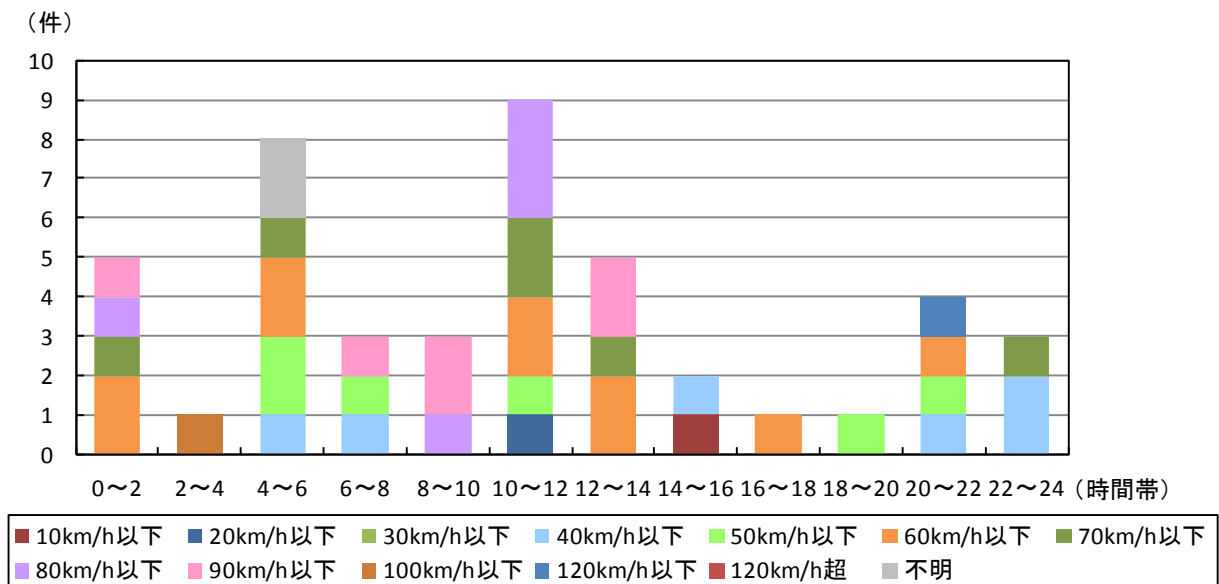
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 59〕 トラックの追突死亡事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布（件）（平成28年）

危険認知速度	時 間 帯												
	0～2	2～4	4～6	6～8	8～10	10～12	12～14	14～16	16～18	18～20	20～22	22～24	合計
10km/h以下	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
20km/h以下	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
30km/h以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
40km/h以下	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	1	2	6
50km/h以下	0	0	2	1	0	1	0	0	0	1	1	0	6
60km/h以下	2	0	2	0	0	2	2	0	1	0	1	0	10
70km/h以下	1	0	1	0	0	2	1	0	0	0	0	1	6
80km/h以下	1	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	5
90km/h以下	1	0	0	1	2	0	2	0	0	0	0	0	6
100km/h以下	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
120km/h以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
120km/h超	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
合計	5	1	8	3	3	9	5	2	1	1	4	3	45

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

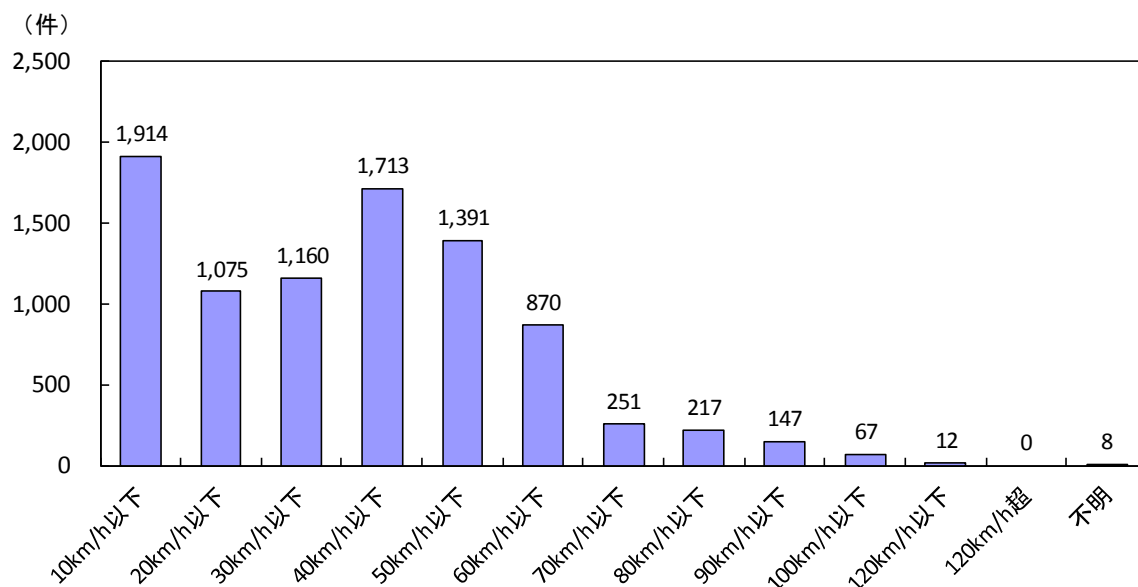
〔図 92〕 トラックの追突死亡事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布（平成28年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

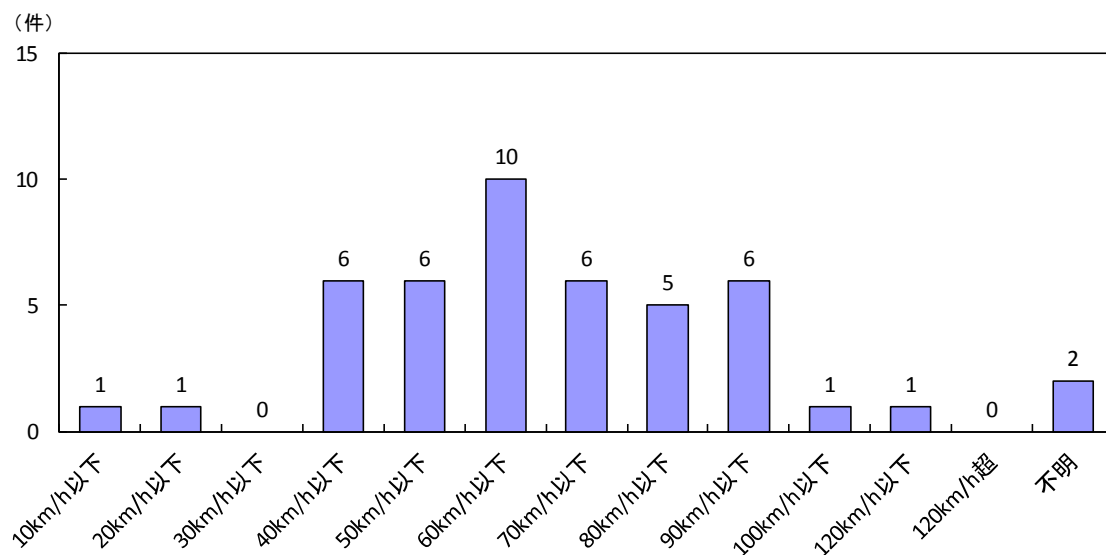
トラックの追突事故における危険認知速度をみると、追突死亡事故は事故全体に比べて危険認知速度が高くなっている。

〔図 93〕 トラックの危険認知速度別の追突事故件数（平成28年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 94〕 トラックの危険認知速度別の追突死亡事故件数（平成28年）



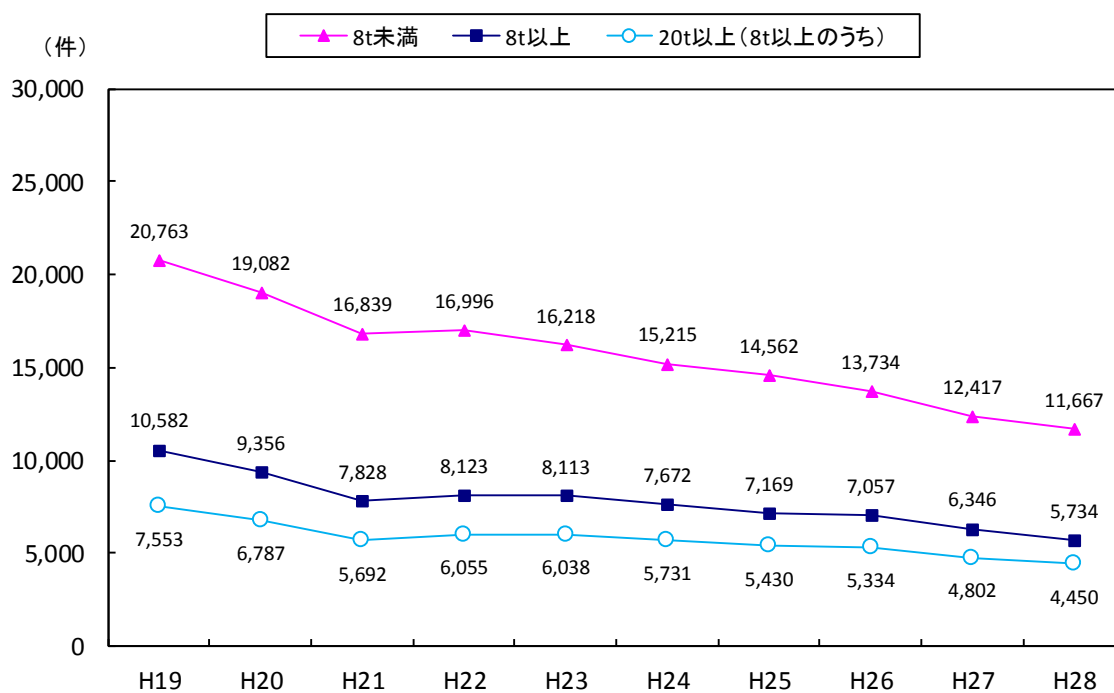
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(13) トラックの車両総重量別の交通事故件数の推移

① 交通事故件数

トラックの事故における交通事故件数の推移を車両総重量別にみると、8トン未満、8トン以上ともに、平成21年までは減少し、平成22年に増加したが、平成23年以降は減少傾向にある。

〔図 95〕 トラックの車両総重量別交通事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 60〕 車両総重量別交通事故件数の推移（件）

区分 年	交通事故件数			合計
	8t未満	8t以上	うち20t以上	
H19	20,763	10,582	7,553	31,345
H20	19,082	9,356	6,787	28,438
H21	16,839	7,828	5,692	24,667
H22	16,996	8,123	6,055	25,119
H23	16,218	8,113	6,038	24,331
H24	15,215	7,672	5,731	22,887
H25	14,562	7,169	5,430	21,731
H26	13,734	7,057	5,334	20,791
H27	12,417	6,346	4,802	18,763
H28	11,667	5,734	4,450	17,401

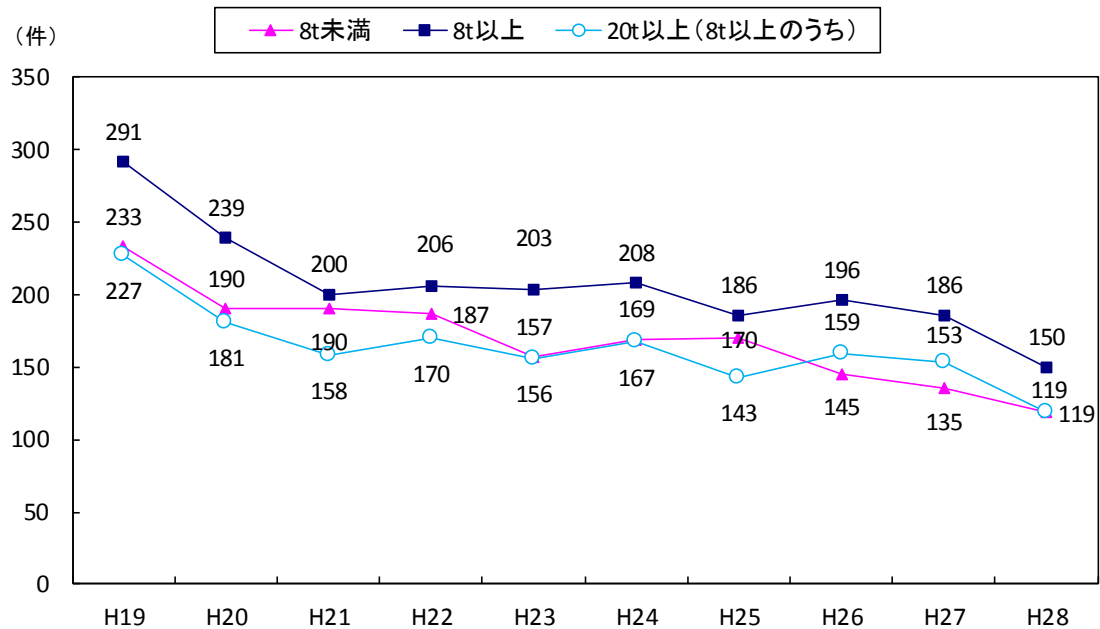
注：合計は車両総重量不明を除く

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

② 死亡事故件数

トラックの事故における死亡事故件数の推移を車両総重量別にみると、いずれも近年は減少傾向であり、特に20トン以上の事故件数は前年より20%以上減少した。

〔図 96〕 トラックの車両総重量別死亡事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 61〕 車両総重量別死亡事故件数の推移（件）

区分 年	死亡事故件数			合計
	8t未満	8t以上	うち20t以上	
H19	233	291	227	524
H20	190	239	181	429
H21	190	200	158	390
H22	187	206	170	393
H23	157	203	156	360
H24	169	208	167	377
H25	170	186	143	356
H26	145	196	159	341
H27	135	186	153	321
H28	119	150	119	269

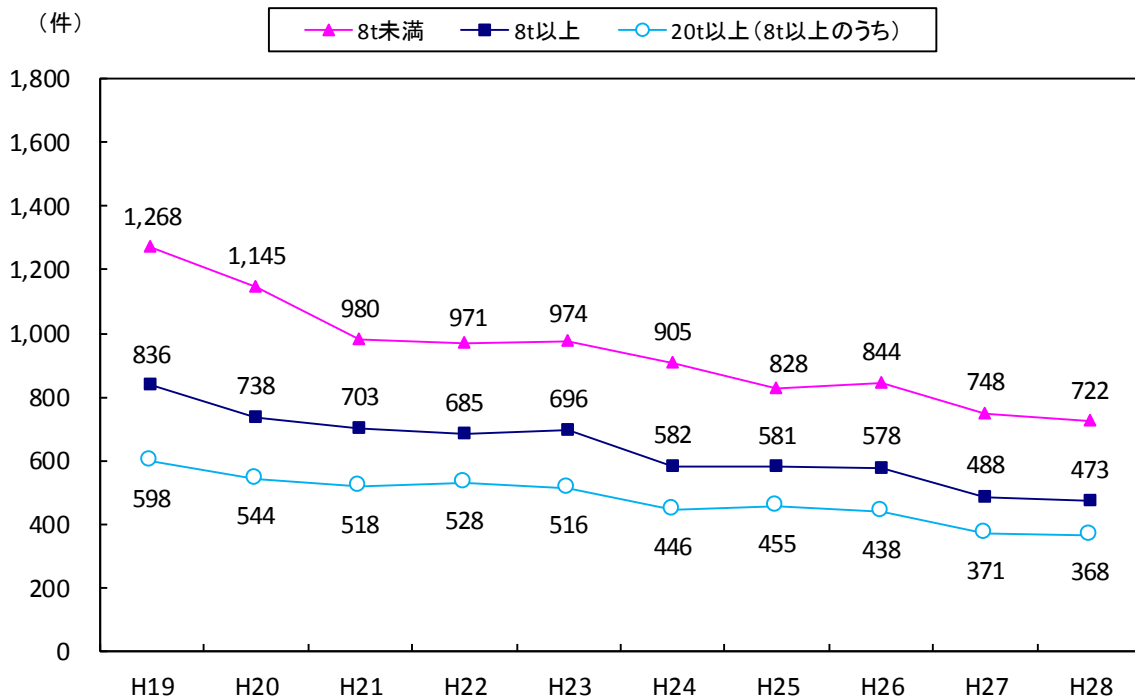
注：合計は車両総重量不明を除く

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

③重傷事故件数

トラックの事故における重傷事故件数の推移を車両総重量別にみると、8トン未満の車両が多い状態が続いている。前年に比べ8トン未満、8トン以上、20トン以上のいずれも減少している。

〔図 97〕 トラックの車両総重量別重傷事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 62〕 車両総重量別重傷事故件数の推移（件）

区分 年	重傷事故件数			合計
	8t未満	8t以上	うち20t以上	
H19	1,268	836	598	2,104
H20	1,145	738	544	1,883
H21	980	703	518	1,683
H22	971	685	528	1,656
H23	974	696	516	1,670
H24	905	582	446	1,487
H25	828	581	455	1,409
H26	844	578	438	1,422
H27	748	488	371	1,236
H28	722	473	368	1,195

注：合計は車両総重量不明を除く

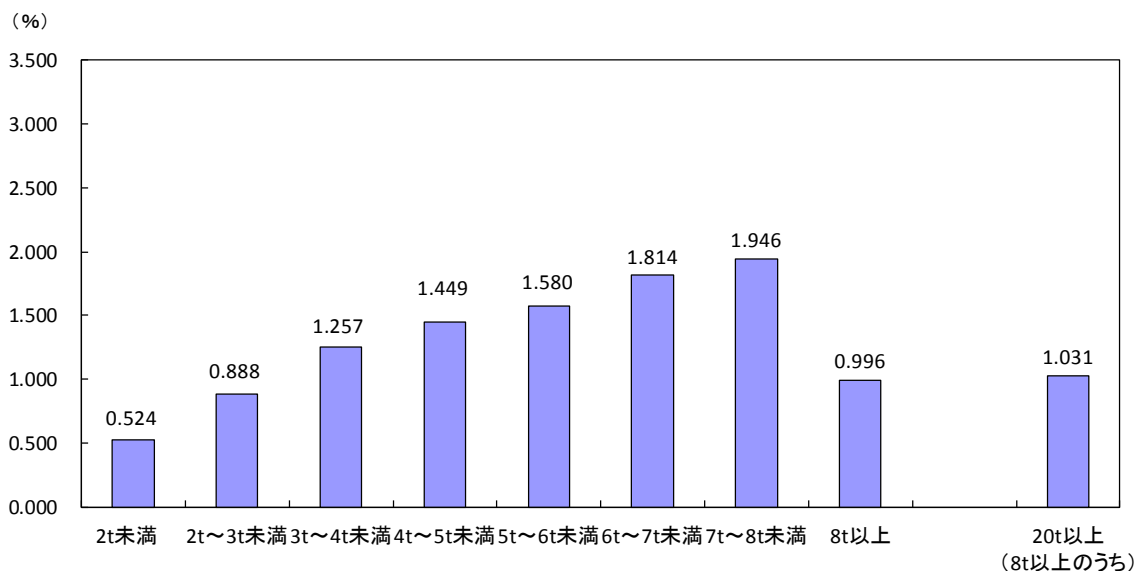
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(14) トラックの車両総重量別車両数あたりの交通事故発生率

① 交通事故発生率

トラックの車両総重量別車両数あたりの交通事故発生率は、前年同様7トン～8トン未満が最も高い。

〔図 98〕 トラックの車両総重量別車両数あたり交通事故発生率（平成28年）



注：軽トラックを除く

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
（一財）自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

〔表 63〕 トラックの車両総重量別車両数あたり交通事故件数、車両数、発生率（平成28年）

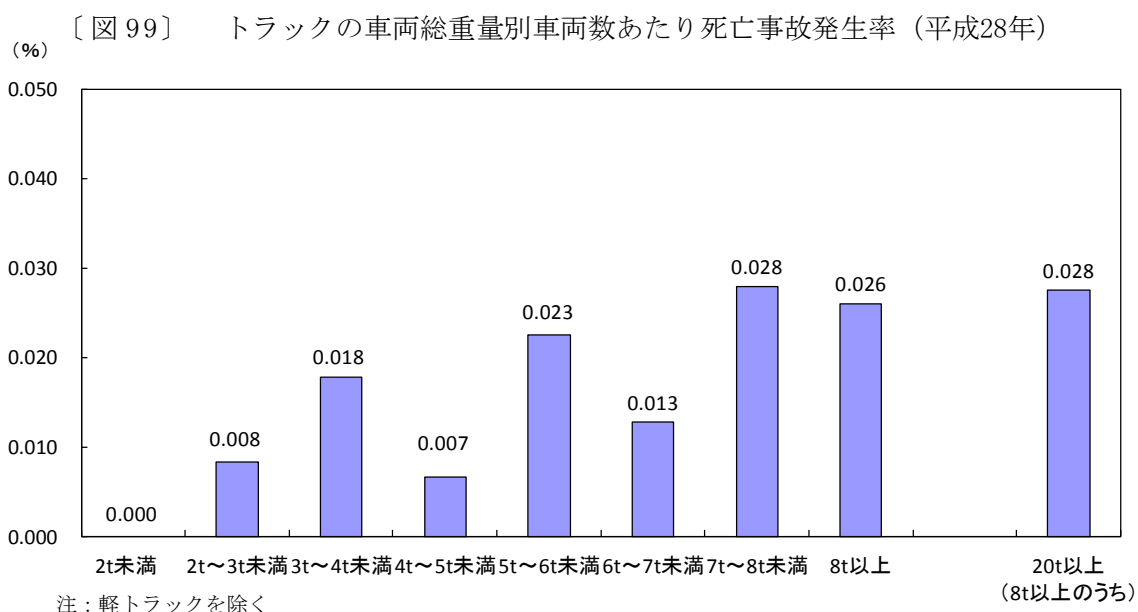
	事故件数(件)	車両数(事業用)(両)	発生率
2t未満	45	8,594	0.524%
2t～3t未満	106	11,936	0.888%
3t～4t未満	425	33,799	1.257%
4t～5t未満	1,306	90,134	1.449%
5t～6t未満	1,263	79,955	1.580%
6t～7t未満	848	46,754	1.814%
7t～8t未満	4,666	239,718	1.946%
8t以上	5,734	575,480	0.996%
うち20t以上	4,450	431,721	1.031%

注：軽トラックを除く

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
（一財）自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

② 死亡事故発生率

トラックの車両総重量別車両数あたりの死亡事故発生率は、7トン～8トン未満及び20トン以上（8トン以上のうち）が最も高い。5トン～6トン未満の件数が前年の10件から18件へ増加し、発生率も0.013%から0.023%に上がっている。



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
（一財）自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

表 64 トラックの車両総重量別車両数あたり死亡事故件数、車両数、発生率（平成28年）

	死亡事故件数	車両数(事業用)(両)	発生率
2t未満	0	8,594	0.000%
2t～3t未満	1	11,936	0.008%
3t～4t未満	6	33,799	0.018%
4t～5t未満	6	90,134	0.007%
5t～6t未満	18	79,955	0.023%
6t～7t未満	6	46,754	0.013%
7t～8t未満	67	239,718	0.028%
8t以上	150	575,480	0.026%
うち20t以上	119	431,721	0.028%

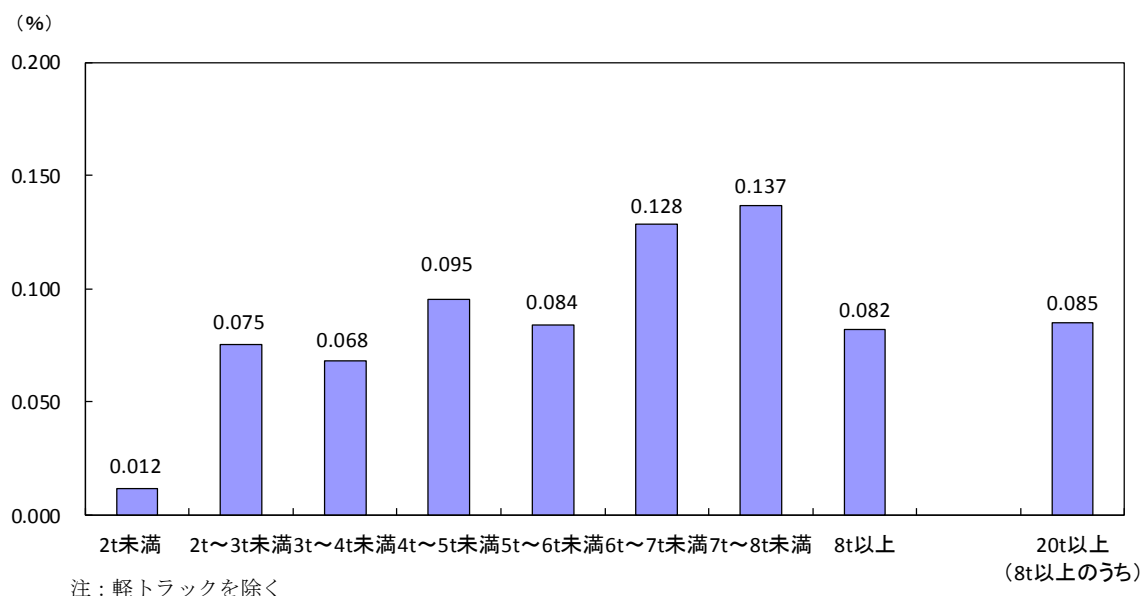
注：軽トラックを除く

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
（一財）自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

③ 重傷事故発生率

トラックの車両総重量別車両数あたりの重傷事故発生率は、前年同様、7トン～8トン未満が最も高い。

〔図100〕 トラックの車両総重量別車両数あたり重傷事故発生率（平成28年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
（一財）自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

表 65 トラックの車両総重量別車両数あたり重傷事故件数、車両数、発生率（平成28年）

	重傷事故件数	車両数(事業用)(両)	発生率
2t未満	1	8,594	0.012%
2t～3t未満	9	11,936	0.075%
3t～4t未満	23	33,799	0.068%
4t～5t未満	86	90,134	0.095%
5t～6t未満	67	79,955	0.084%
6t～7t未満	60	46,754	0.128%
7t～8t未満	328	239,718	0.137%
8t以上	473	575,480	0.082%
うち20t以上	368	431,721	0.085%

注：軽トラックを除く

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
（一財）自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

5. まとめ

平成 28 年中に全国で発生した事業用自動車の交通事故件数は 33,336 件で、事業用自動車での交通事故死者数は 363 人であった。

また、平成 28 年中の各業態における交通事故の特徴は以下のとおりであった。

○乗合バス

平成 28 年中に発生した乗合バスによる人身事故 1,239 件のうち、

- ・車内事故が最も多く全体の 31.8% (394 件)。このうち、43.7% (172 件) が発進時の事故となる。また、車内事故の負傷者 444 人のうち、約半数 (221 人) が高齢者 (65 歳以上) であり、全体では女性が男性の 4 倍近くとなっている (男性 92 人、女性 352 人)。

また、平成 28 年中に発生した乗合バスによる死亡事故 6 件のうち、

- ・人対車両が最も多く全体の 66.7% (4 件) であった。

○貸切バス

平成 28 年中に発生した貸切バスによる人身事故 302 件のうち、

- ・追突事故が最も多く全体の 35.4% (107 件)。このうち、発生地点としては、第一通行帯が最も多く追突事故の 48.6% (52 件) となり、次に第二通行帯以上が 34.6% (37 件) となっている。

また、平成 28 年中に発生した貸切バスによる死亡事故は 4 件であり、

- ・人対車両、追抜追越時、右折時、車両単独がそれぞれ 1 件となっている。

○タクシー

平成 28 年中に発生したタクシーによる人身事故 13,526 件のうち、

- ・追突事故が最も多く全体の 21.7% (2,936 件)。このうち、第一通行帯での事故が多く、追突事故の 47.8% (1,404 件) を占める。
- ・次いで、出会い頭の事故が多く全体の 20.6% (2,790 件)。このうち、交差点内の事故が多く、出会い頭の事故の 83.6% (2,333 件) を占める。
- ・空車時における事故が、75% (10,147 件) を占める。

また、平成 28 年中に発生したタクシーによる死亡事故 50 件のうち、

- ・人対車両が最も多く全体の 74.0% (37 件)。このうち、直進等速の人対車両が多く 29 件となっている。また、発生地点では、第一通行帯 (17 件)、交差点内 (11 件) での事故が多い。

○トラック

平成 28 年中に発生したトラックによる人身事故 18,254 件のうち、

- ・追突事故が最も多く全体の 48.3% (8,825 件)。このうち、6 時～18 時の日中の時間での追突事故が多く、全体の約 8 割 (6,970 件) を占め、ピークは 10 時～12 時で全体の 17.2% (1,521 件)。また、10km/h 以下の低速での追突事故が最も多く追突事故全体の 21.7% (1,914 件)、次いで 30km/h～40km/h の中速での事故が 19.4% (1,713 件)。発生地点では、第一通行帯での追突事故が多く、追突事故全体の 53.8% (4,745 件)。
- ・出会い頭の事故も多く発生しており、人身事故全体の 12.8% (2,338 件)。このうち、交差点内での事故が多く、出会い頭の事故の 81.1% (1,896 件) を占める。

また、平成 28 年中に発生したトラックによる死亡事故 275 件のうち、

- ・人対車両が最も多く全体の 35.6% (98 件、ただし車両相互の合計は 147 件)。このうち、発生地点としては、第一通行帯が最も多く人対車両事故の 48.0% (47 件) となり、次に交差点内が 34.7% (34 件) となっている。
- ・車両相互の中では追突事故が多く全体の 16.4% (45 件)。このうち、4～6 時、10 時～12 時間帯での追突事故が多い 37.8% (17 件)。

